笛吹市文化財調査報告書　第20集

山梨県笛吹市

金地蔵遺跡（２次）

―笛吹市八代町北地内畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区
支線農道第２号工事に先立つ発掘調査報告書―

2011

山梨県峡東農務事務所
笛吹市教育委員会
財団法人 山梨文化財研究所

笛吹市文化財調査報告書　第20集

山梨県笛吹市

金地蔵遺跡（２次）

―笛吹市八代町北地内畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区
支線農道第２号工事に先立つ発掘調査報告書―

2011

山梨県峡東農務事務所
笛吹市教育委員会
財団法人 山梨文化財研究所

1．遺跡景観（北東から）

2．遺跡景観（南から）

3．遺跡景観（北から）

4．第１～４トレンチ空中写真（上が西）

5. SI7 完掘状況（北東から）

6. SI7 出土金銅製馬具（表）

7. SI7 出土金銅製馬具（裏）

序

笛吹市は甲府盆地中央部のやや東寄りに位置し，旧石器時代から中世にかけての遺跡が多数存在しており，山梨県内でも屈指の埋蔵文化財の宝庫として知られています。市内では，公共事業や民間による開発が盛んに行われており，時としてこれらの開発が埋蔵文化財包蔵地内にもおよぶことがあり，それに伴って各地で発掘調査が実施されています。

さて，この報告書は，畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線農道第２号工事に伴う金地蔵遺跡発掘調査の結果を記したものです。

金地蔵遺跡は浅川扇状地の扇央部に営まれた集落址で，平成13年度に発掘調査が行われており，縄文時代の土坑や古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡や土坑，溝状遺構などが発見されていました。今回の調査では，縄文時代中期および古墳時代から奈良時代，平安時代を経て，中世以降にわたる竪穴建物跡や，土坑，ピット，溝状遺構などが新たに発見されました。これらのうち，特に古墳時代から平安時代に至る遺構や出土遺物を詳細に分析してみると，八代評家および八代郡家の成立期と存続期にかけて，官衙と密接に関わった拠点的な集落の一つであった可能性が考えられるようになりました。これらの成果が，本遺跡も含めた周辺地域の様相について，新たな視点で検証されることになれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査にご理解，ご協力をいただいた関係機関並びに関係者各位，調査を担当していただいた財団法人山梨文化財研究所に感謝申し上げます。

平成23年3月15日

笛吹市教育委員会

教育長　山　田　武　人

例言

1．本報告書は，笛吹市八代町北地内埋蔵文化財包蔵地「金地蔵遺跡（八代-65）」の第２次発掘調査報告書である。
2．本遺跡は，山梨県笛吹市八代町北1373番地他に所在し，笛吹市八代町北地内畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線農道第２号工事に先立つ，記録保存を目的とした緊急発掘調査である。現地発掘調査は，平成21年10月15日から平成21年12月14日までおこない，同年12月15～平成22年2月28日までは，記録写真および測量データ整理，出土遺物洗浄作業をおこなった。本格的な報告書作成業務は，平成22年５月１日から開始し，平成23年３月15日に終了した。
3．本発掘調査業務および報告書作成業務は，山梨県峡東農務事務所と笛吹市教育委員会および財団法人山梨文化財研究所の三者協定を締結し，笛吹市教育委員会の指導・監督・助言のもと，財団法人山梨文化財研究所がおこなった。
4．本調査にかかる費用は，すべて山梨県峡東農務事務所が負担した。
5．遺跡における X，Y 座標は，世界測地系座標 X＝－42630.000，Y＝13410.000 を原点（X=0，Y=0）としている。緯度は 35°36′56″，経度は 138°38′53″である。
6．本報告書の編集および執筆は平野修（財団法人山梨文化財研究所）がおこない，本書掲載出土遺物の写真撮影は，中川美治がおこなった。
7．付編２の馬歯鑑定については，山梨県立博物館の植月学氏のご助力を受け執筆していただいた。
8．発掘調査および整理作業において，一部の業務を以下の機関に委託した。

基準点設置・写真測量・空中写真撮影	テクノプランニング㈱
金属製品保存処理	㈱山梨文化財研究所
炭化材・炭化種実同定分析	㈱パレオ・ラボ

9．石器・石製品の石材鑑定については，㈱山梨文化財研究所の河西学氏のご厚意によるものである。
10．発掘調査および報告書の作成にあたっては，以下の個人・機関・団体および諸氏から御指導，御教示，御協力を賜った。記して厚く感謝申し上げる（50音順・敬称略）。
伊藤修二，猪股喜彦，植月　学，大木丈夫，小澗忠秋，河西　学，櫛原功一，坂本美夫，塩谷風季，鈴木　稔，瀬田正明，鷹野義朗，田中広明，中山千恵，野崎　進，畑　大介，宮澤公雄，室伏　徹，望月和幸，望月秀和，森原明廣，山梨県教育委員会，山梨県立博物館
11．本発掘調査で得られた出土遺物および実測図・写真等の資料は，笛吹市教育委員会にて保管している。

凡　例

1　遺構・遺物の縮尺は，原則として各図ごとに示している。
2　本書挿図第１図で使用している地図は，平成８年７月国土地理院発行 1:25,000 地形図「石和」を使用している。
3　遺物の挿図番号は，各遺構ごとに通番で付した。遺物分布図および観察表・本文中の番号は対応している。
4　各遺構における遺物分布図で示したマークは，以下の通りである。
●：土師器　▲：須恵器　◎：縄文土器　■：陶磁器　□：土製品　△：石器・石製品
○：金属製品　★：骨　◇：炭化物・炭化材
5　遺構図版中で使用しているスクリーントーン▨は硬化面，▭は焼土範囲，破線は推定線を示す。
6　遺物図版中で使用しているスクリーントーンおよび記号・線の凡例は，以下の通りである。
■〈断面〉：須恵器　▭〈断面〉：灰釉陶器　▭：黒色化範囲・赤彩　▬：スス状付着物・火襷痕
また石器断面図における↑矢印は擦り面の範囲を示している。
7　土層および遺物の色調名は，『新版標準土色帳』13版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠・竹原秀雄編・著 1993）によっている。

目　次

序　文
例　言
目　次
挿図目次
表目次
写真図版目次
第1章　調査経過 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査の成果 …… 1
第2章　遺跡の概要 …… 4
　第1節　地理的環境と立地 …… 4
　第2節　周辺遺跡と歴史的環境 …… 4
　第3節　調査の方法と基本層位 …… 6
第3章　検出された遺構と遺物 …… 8
　第1節　竪穴建物跡（SI） …… 8
　第2節　土坑・ピット（SK） …… 18
　第3節　溝状遺構（SD） …… 20
　第4節　不明遺構（SX） …… 22
第4章　まとめ …… 23
　第1節　古墳時代後期から平安時代中期にかけての出土遺物について … 23
　第2節　本遺跡の性格をめぐって …… 27
引用・参考文献
付編1　金地蔵遺跡出土炭化材の樹種同定 …… 102
付編2　金地蔵遺跡から出土した炭化種実 …… 105
付編3　笛吹市金地蔵遺跡より出土したウマ遺体 …… 110
報告書抄録

挿図目次

第1図　遺跡の位置と周辺遺跡 …… 5
第2図　金地蔵遺跡（2次）グリッドおよびトレンチ設定図 …… 7
第3図　基本層位図 …… 8
第4図　平成13年度調査区全体図 …… 28
第5図　第1～5トレンチ全体図 …… 44
第6図　第6～10トレンチ全体図 …… 45
第7図　SI1・2，SI3～5（1），SI6（1），SK6・11 … 46
第8図　SI3～5（2），SK7 …… 47
第9図　SI6（2），SI7（1） …… 48
第10図　SI7（2） …… 49
第11図　SI7（3） …… 50
第12図　SI7（4），SI8～10 …… 51
第13図　SI11～14・19，SK12 …… 52
第14図　SI15・16，SI17・20・21（1） …… 53
第15図　SI17・20・21（2） …… 54
第16図　SI18・22・23 …… 55
第17図　SI24，SI25（1），SK13 …… 56
第18図　SI25（2），SI26 …… 57
第19図　SI27・28 …… 58
第20図　SI29～32 …… 59
第21図　SI33・34 …… 60
第22図　SI35・36，SI37（1） …… 61
第23図　SI37（2），SI38 …… 62
第24図　SI39～42 …… 63
第25図　SK1～5・8・9・14・15 …… 64
第26図　SK16～20・23・24 …… 65
第27図　SD1 全体図 …… 66
第28図　SD1（第3トレンチ内） …… 67
第29図　SD1（第4トレンチ内） …… 68
第30図　SD1（第6トレンチ内） …… 69
第31図　SD2・3・4・5（第8トレンチ内） …… 71・72
第32図　SD6（第8トレンチ内） …… 73
第33図　SD7・9（第9トレンチ内） …… 75・76
第34図　SD7・8・9（第10トレンチ内） …… 77・78
第35図　SI2・3・4出土遺物 …… 79
第36図　SI5・6・7（1）出土遺物 …… 80
第37図　SI7（2）出土遺物 …… 81
第38図　SI7（3）出土遺物 …… 82
第39図　SI7（4）出土遺物 …… 83
第40図　SI7（5）出土遺物 …… 84
第41図　SI7（6）・12・13（1）出土遺物 …… 85
第42図　SI13（2）・14・15（1）出土遺物 …… 86
第43図　SI15（2）・16・17（1）出土遺物 …… 87
第44図　SI17（2）出土遺物 …… 88
第45図　SI17（3）・18・19出土遺物 …… 89
第46図　SI20・22（1）出土遺物 …… 90
第47図　SI22（2）・23・24（1）出土遺物 …… 91
第48図　SI24（2）出土遺物 …… 92
第49図　SI25・26（1）出土遺物 …… 93
第50図　SI26（2）・27・28出土遺物 …… 94
第51図　SI29・31・32・33（1）出土遺物 …… 95
第52図　SI33（2）・34・35・38・41・42出土遺物 …… 96
第53図　SK4・6・9・13・21・22出土遺物 …… 97

第54図　SK23，SD1（1）出土遺物 …… 98
第55図　SD1（2）・SD6出土遺物 …… 99
第56図　SD7・8，第1トレンチ・第3トレンチ（1）出土遺物 … 100
第57図　第3トレンチ（2）・第4・7・9トレンチ，遺構外出土遺物 … 101

表目次

第1表　土器観察表 …… 30
第2表　石製品観察表 …… 43
第3表　金属製品観察表 …… 43

写真図版目次

巻頭写真1　1．遺跡景観（北東から）
　　2．遺跡景観（南から）
巻頭写真2　3．遺跡景観（北から）
　　4．第1～4トレンチ空中写真（上が西）
巻頭写真3　5．SI7完掘状況（北東から）
　　6．SI7出土金銅製馬具（表）
　　7．SI7出土金銅製馬具（裏）
図版1　1．遺跡景観写真（南から）
　　2．遺跡景観写真（北東から）
図版2　3．第3～7トレンチ空中写真（上が西）
　　4．第1・2トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　5．第3トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　6．第4トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　7．第5トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　8．第6トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　9．第7トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　10．第8トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　11．第9トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
　　12．第10トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）
図版3　13．第1トレンチ調査前状況
　　14．第1トレンチ調査前状況近景
　　15．第1トレンチ重機による表土除去作業風景
　　16．第1トレンチ完掘全景（南から）
　　17．第1トレンチ完掘全景（北から）
　　18．第2・3トレンチ調査前状況近景（南から）
　　19．第2トレンチ完掘全景（北から）
　　20．第3トレンチ完掘全景（南東から）
　　21．第4トレンチ付近調査前状況（北東から）
　　22．第4トレンチ完掘全景（北から）
　　23．第5トレンチ調査前状況（北から）
　　24．第5トレンチ完掘全景（北から）
　　25．第6・7トレンチ付近調査前状況（南西から）
図版4　26．第6トレンチ完掘全景（北から）
　　27．第7トレンチ調査前状況（北から）
　　28．第7トレンチ掘削風景
　　29．第7トレンチ完掘全景（南東から）
　　30．第8トレンチ付近調査前状況（南から）
　　31．第8トレンチ遺構確認状況（南から）
　　32．第9トレンチ付近調査前状況（南西から）
　　33．第9トレンチ完掘状況（南西から）
　　34．第10トレンチ付近調査前状況（南西から）
　　35．第10トレンチ完掘全景（南から）
　　36．SI1完掘状況（南から）
　　37．SI1硬化面検出状況（南から）
　　38．SI2・SK6・11完掘状況（南東から）
　　39．SI2・SK6遺物出土状況（東から）
図版5　40．SI3遺物出土状況および完掘状況（北西から）
　　41．SI3遺物出土状況1
　　42．SI3遺物出土状況2
　　43．SI4完掘状況（北東から）
　　44．SI4カマド完掘状況
　　45．SI4・5遺物・SI12完掘状況（南から）
　　46．SI4刀子出土状況
　　47．SI5完掘状況（南西から）
　　48．SI5遺物出土状況（南西から）
　　49．SI6完掘状況（北西から）
　　50．SI6遺物出土状況近景1
　　51．SI6遺物出土状況近景2
　　52．SI6ピット1遺物出土状況
　　53．SI6ピット1遺物出土状況近景
　　54．SI7完掘状況（北東から）
図版6　55．SI7遺物出土状況（北から）
　　56．SI7遺物出土状況近景1
　　57．SI7遺物出土状況近景2
　　58．SI7遺物出土状況近景3
　　59．SI7床面遺物出土状況1
　　60．SI7ピット1遺物出土状況1
　　60．SI7床面遺物出土状況2

61. SI7 ピット1遺物出土状況近景
62. SI7 刀子および炭化材出土状況
63. SI7 角釘出土状況
64. SI7 炭化材出土状況
65. SI7 金銅製品（馬具）出土状況
66. SI7 新カマド完掘状況
67. SI7 新カマド南北セクション
68. SI7 新カマド内遺物出土状況
図版7 69. SI7 旧カマド完掘状況（南西から）
70. SI7 新カマド掘りかた完掘状況
71. SI7 ピット掘りかた完掘状況
72. SI8 完掘状況（北から）
73. SI8 炉完掘状況（西から）
74. SI8 炉セクション
75. SI9・10 完掘状況（南東から）
76. SI11 完掘状況（南から）
77. SI12・SK12 完掘および遺物出土状況（西から）
78. SI12 遺物出土状況1
79. SI12 遺物出土状況2
80. SI12 遺物出土状況3
81. SI13・19 完掘状況（南西から）
82. SI13・19 遺物出土状況（北東から）
83. SI13 内遺物出土状況
図版8 84. SI13 カマド完掘状況およびセクション（西から）
85. SI13 カマド周辺遺物出土状況
86. SI13 礫石状礫検出状況
87. SI19 内ピットセクション
88. SI14 完掘状況（硬化面のみ：北西から）
89. SI15・16 完掘状況（北東から）1
90. SI15・16 完掘状況（南から）2
91. SI15・16 遺物出土状況（西から）
92. SI15 遺物出土状況近景1
93. SI15 遺物出土状況近景2
94. SI15 遺物出土状況近景3
95. SI16 遺物出土状況1
96. SI16 遺物出土状況2
97. SI16 遺物出土状況3
98. SI17・20・21 完掘状況（西から）
図版9 99. SI17 カマド完掘状況
100. SI17 遺物出土状況近景1
101. SI17 遺物出土状況近景2
102. SI17 遺物出土状況近景3
103. SI17 鉄製品出土状況
104. SI17 カマド内遺物出土状況
105. SI18 遺物出土状況および南北セクション
106. SI18 完掘状況および南北東面セクション
（南から）
107. SI22・23 完掘状況（西から）
108. SI22・23 遺物出土状況（西から）
109. SI22 内遺物出土状況近景（東から）
110. SI22 内出土鉄製鏃先出土状況
111. SI22 貼床内出土土製紡錘車出土状況
112. SI23 内遺物出土状況1
113. SI23 内遺物出土状況2
図版10 114. SI24 完掘状況（西から）
115. SI24 遺物出土状況（西から）
116. SI24 遺物出土状況近景1
117. SI24 遺物出土状況近景2
118. SI24 遺物出土状況近景3
119. SI24 遺物出土状況近景4
120. SI25 完掘完掘状況（東から）
121. SI25 カマドおよびピット1完掘状況（南から）
122. SI25 カマドおよびピット1完掘状況（東から）
123. SI25 遺物出土状況（東から）
124. SI25 遺物出土状況1
125. SI25 遺物出土状況2
126. SI25 遺物出土状況3
127. SI26 完掘状況（南西から）
128. SI26 遺物出土状況（西から）
図版11 129. SI26 遺物出土状況近景1
130. SI26 遺物出土状況近景2
131. SI26 焼土範囲確認状況（南西から）
132. SI26 カマド完掘状況（南西から）
133. SI27 完掘状況（南西から）
134. SI27 遺物出土状況近景1
135. SI27 遺物出土状況近景2
136. SI27 柱穴セクション
137. SI28 完掘状況（北西から）
138. SI28 カマド完掘状況（南西から）
139. SI28 カマド焼土範囲確認状況（南西から）
140. SI28 カマド掘りかたセクション（南西から）
141. SI28 遺物出土状況1
142. SI28 遺物出土状況2
143. SI29・30 完掘および遺物出土状況（南から）
図版12 144. SI29 遺物出土状況1
145. SI29 遺物出土状況2
146. SI29 遺物出土状況3
147. SI29 ピット3完掘状況
148. SI31・32 完掘状況（南東から）
149. SI31・32、SD4 南北セクション
150. SI33 完掘状況（南西から）
151. SI33 カマド完掘状況

152. SI33 カマド下面遺物出土状況および焼土・
炭範囲確認状況
153. SI33 南北セクション
154. SI33 カマド上面遺物出土状況
155. SI33 カマド掘りかた完掘状況
156. SI34 完掘および遺物出土状況（西から）
157. SI34 南北セクション
158. SI34 遺物出土状況
図版13 159. SI34 遺物出土状況
160. SI35 完掘および遺物出土状況（南から）
161. SI35 遺物出土状況
162. SI36 完掘および硬化面残存状況（南西から）
163. SI36 完掘および硬化面残存状況（北西から）
164. SI36 南北セクション
165. SI37 完掘状況（西から）
166. SI37 炉完掘状況（北東から）
167. SI37 炉焼土範囲確認状況（南から）
168. SI37 炉内遺物出土状況 1
169. SI37 炉内遺物出土状況 2
170. SI38 完掘状況（北西から）
171. SI38 遺物出土状況 1
172. SI38 遺物出土状況 2
173. SI38 遺物出土状況 3
図版14 174. SI39 完掘および遺物出土状況（西から）
175. SI39 遺物出土状況
176. SI40 完掘状況（北西から）
177. SI41 完掘および遺物出土状況（西から）
178. SI41 遺物出土状況
179. SI42 完掘および遺物出土状況（南西から）
180. SI42 遺物出土状況
181. SK1 完掘状況
182. SK2 完掘状況
183. SK3 完掘および遺物出土状況
184. SK3 遺物出土状況
185. SK4 完掘および遺物出土状況
186. SK4 遺物出土状況
187. SK5 完掘状況
188. SK6・11 完掘状況
図版15 189. SK6 遺物出土状況
190. SK7 完掘状況
191. SK8 完掘状況
192. SK12 完掘状況（西から）
193. SK13 完掘状況（西から）
194. SK13 遺物出土状況 1
195. SK13 遺物出土状況 2
196. SK13 遺物出土状況 3
197. SK14 完掘およびセクション
198. SK15 完掘およびセクション
199. SK16・17・18 完掘状況（北東から）
200. SK19（左）・20 完掘状況（南から）
201. SK22 完掘および遺物出土状況・セクション
202. SK22 遺物出土状況
203. SK23・24 完掘状況（西から）
図版16 204. SK23 完掘状況
205. SK23 セクション
206. SK23 遺物出土状況 1
207. SK23 遺物出土状況 2
208. SK24 完掘状況
209. SD1（3 トレ内）完掘および遺物出土状況
（南東から）
210. SD1（3 トレ内）完掘状況（北東から）
211. SD1（3 トレ内北端）遺物出土状況
212. SD1（4 トレ内）北側完掘状況（南東から）
213. SD1（4 トレ内）遺物出土状況
214. SD1（6 トレ内）東西セクション
215. SD1（6 トレ内）馬歯出土状況
216. SD2・3・4 完掘状況（南から）
217. SD2（右）・3 東西セクション
218. SD3・4 北側完掘状況（南東から）
図版17 219. SD5 完掘および遺物出土状況（東から）
220. SD5 遺物出土状況
221. SD6 完掘状況（南西から）
222. SD6 上層硬化面検出状況（西から）
223. SD6 砂礫層および遺物出土状況 1
224. SD6 砂礫層および遺物出土状況 2
225. SD6 遺物出土状況 1
226. SD6 遺物出土状況 2
227. SD6 遺物出土状況 3
228. SD6 遺物出土状況 4
229. SD6 西壁セクション
230. SD6 西壁中央部分セクション
231. SD6 西壁南側セクション
232. SD6 西壁北側セクション
233. SD6 馬歯出土状況
図版18 234. SD6 内 SK21 遺物出土状況
235. SD7（9 トレ内）新旧完掘状況（北から）
236. SD7（9 トレ内）新旧完掘状況近景および
遺物出土状況
237. SD7（9 トレ内）新旧遺物出土状況 1
238. SD7（9 トレ内）新旧遺物出土状況 2
239. SD7（9 トレ内）新旧遺物出土状況 3
240. SD7（9 トレ内）新旧遺物出土状況 4

241. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況5
242. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況6
243. SD7・8（10トレ内）礫除去後完掘全景（南から）
244. SD7・8（10トレ内）礫除去後完掘全景（北から）
245. SD7・8（10トレ内）礫除去後完掘近景
246. SD7・8（10トレ内）礫出土状況近景1
247. SD7・8（10トレ内）礫出土状況近景2
248. SD7・8（10トレ内）礫出土状況近景3
図版19 249. SD7・8（10トレ内）・SK23礫出土状況4
250. 第9トレンチ内水路付近遺構外出土五輪塔
251. SX1（硬化面：7トレ内）検出状況（西から）
252. 調査風景（第1トレンチ内）
253. 調査風景（第2トレンチ内）
254. 調査風景（第3トレンチ内）
255. 調査風景（第4トレンチ内）
256. 調査風景（SI7内）
257. 調査風景（SI7新カマド）
258. 調査風景（SI22内）
259. 調査風景（SD6内馬歯検出作業）
260. グリッド杭打設作業風景
261. ポールによる写真測量実施状況1
262. ポールによる写真測量実施状況2
263. ラジヘリによる遺跡景観写真撮影実施風景
図版20 出土遺物（1）
図版21 出土遺物（2）
図版22 出土遺物（3）
図版23 出土遺物（4）
図版24 出土遺物（5）
図版25 出土遺物（6）
図版26 出土遺物（7）
図版27 出土遺物（8）
図版28 出土遺物（9）

第１章　調査経過

第１節　調査に至る経緯

笛吹市八代町北に所在する金地蔵遺跡は，宅地造成に伴い平成13年度に発掘調査が行われ，縄文時代，古墳時代，奈良・平安時代の集落跡の一部が発見されている。今回計画された農道拡幅工事地区は周知遺跡の範囲内であり，古墳時代前期，奈良時代，平安時代の遺構群が発見された平成13年度の発掘地点にも隣接しており，遺跡の存在が極めて濃厚であることから，山梨県峡東農務事務所と笛吹市教育委員会との協議の結果，財団法人山梨文化財研究所による本調査の運びとなった。

本調査は，笛吹市教育委員会による現場監理のもとで財団法人山梨文化財研究所が発掘調査を実施する体制にて，記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することとなり，笛吹市教育委員会は平成21年10月13日付けで山梨県教育委員会に文化財保護法92条に基づく埋蔵文化財発掘の届出を提出。山梨県峡東農務事務所，笛吹市教育委員会，財団法人山梨文化財研究所による三者協定書を平成21年10月15日付けで締結し，同日，山梨県峡東農務事務所と財団法人山梨文化財研究所と埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書を締結した。発掘調査は，同年10月15日から着手した。

【調査体制】

○調　査　主　体　　財団法人 山梨文化財研究所　理事長　神永滋八

○調 査 担 当 者　　平野　修（財団法人 山梨文化財研究所　考古第３研究室長）

○発掘調査および整理参加者（順不同）

長沢靖雄，田中健二，筒井　聡，能登瑛志，萩原　忠，平賀早苗，藤巻敏弘，原島　造，

東條玲雄，河西町男，伊井　實，中澤久雄・岩崎満佐子・窪沢みち子・古郡　明・中川美治

○指導・監督・助言　　笛吹市教育委員会

第２節　調査の経過

今回の調査は，山梨県峡東農務事務所による笛吹市八代町北地内畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線農道第２号工事に伴う，埋蔵文化財の記録保存を目的とした発掘調査である。調査対象は現農道の拡幅部分で，総面積は1,306.58㎡であったが，最終的な調査面積は692.5㎡である。これは掘削発生土の仮置きスペースが狭少だったため，調査範囲内にあたる既存畑地の石垣部分を残したこと。住民および耕作者に対する既存住宅や畑への出入りを配慮して余地部を設定したこと。現状水路や畑地境界石垣，宅地塀等がすでに敷設され，それらにより遺構面が破壊されていると判断された箇所を除いたためである。以下に，調査等の経過を示す。

発掘調査の経過

平成21（2009）年

10月15日(木)　重機（0.15クラス）による第１トレンチ表土層除去作業開始。

10月16日(金)　重機による表土層除去作業。人力による遺構確認作業開始。

10月17日(土)　重機による第２トレンチ表土層除去作業。第１トレンチ内にて遺構調査開始。

10月19日(月)　重機による第３トレンチ表土除去作業。基準点設定およびグリッド杭打設。

10月20日(火)　重機による第３トレンチ表土除去作業。SK1～5，SD1新設，両遺構掘り下げおよび遺構確認作業。

10月21日(水)　重機による第４トレンチ表土除去作業。SI1～6，SK6～7新設。SI2・SK6遺物出土状況写真撮影，セクション図作成。

10月22日(木)　重機による第5・6トレンチ表土除去作業。SI6ピットよりS字口縁甕一括出土，同ピットセクション写真・セクション図作成。

10月23日(金)　重機による第5・6・7トレンチ表土除去作業。SK8～9新設，同セクション写真撮影およびセクション光波測量。SK1～5完掘状況写真撮影および平面光波測量。SI6遺物出土状況写真撮影および微細図作成用写真撮影。

10月26日(月)　重機による第8トレンチ表土除去作業。台風20号のため人的調査は中止。

10月27日(火)　重機による第8トレンチ表土除去作業。SI4カマド断ち割り，SI8カマドセクション写真，セクション図作成，完掘写真撮影。

10月28日(木)　重機による第8トレンチ表土除去作業。SI7～15，SK11新設。各遺構完掘状況写真撮影，セクション図作成

10月29日(木)　重機による第8トレンチ表土除去作業。SI6～19新設。SI4カマド袖右残し完掘写真撮影。SI7・15・16遺物出土状況写真撮影。

10月30日(金)　重機による第8・9トレンチ表土除去作業。SI4～6完掘写真撮影。SI4カマド平面図作成。SI7床面出土遺物微細図作成用写真撮影。

10月31日(土)　重機による第9トレンチ表土除去作業。SI3～5セクション図作成。SI13・19遺物出土状況写真撮影。SI7銅製品出土状況写真撮影。SD1・SI18遺物出土状況写真撮影。

11月2日(月)　重機による第10トレンチ表土除去作業。SI20新設。SI13・19完掘状況写真撮影。SD1・SI18セクション図作成。SI7旧カマド断ち割り。

11月3日(火)　重機による第10トレンチ表土除去作業。第1・2トレンチのベルによる全体写真測量実施。SI7旧カマドセクション図作成。SI7新カマド断ち割り，セクション写真およびセクション図作成。

11月4日(水)　SI21～24新設掘り下げ。SI12～14・19南北セクション図作成。SI7新カマドセクション写真撮影。

11月5日(木)　SK13新設。SI4カマド掘りかた平面光波測量。SI12～14・19南北セクション図作成。SI22・24・SD1東西セクション写真撮影。

11月6日(金)　SI25～26新設。SI7新カマドセクション写真撮影，SI17・20・21遺物出土状況写真撮影。SI17床面出土遺物微細図作成用写真撮影。

11月9日(月)　SK14～15新設。SI7・15・16完掘写真撮影。SD1・SI20・21東西北西セクション図作成。

11月10日(火)　SI27新設。SI7新カマド平面図作成。SI22～26・SD1遺物出土状況写真撮影。

11月11日(水)　雨天のため調査中止。

11月12日(木)　SI7カマド平面図作成。SI17ピット1～5セクション写真およびセクション図作成。SI24・25下層遺物出土状況写真撮影。SI27完掘および遺物出土状況写真撮影。

11月13日(金)　SK14・15完掘およびセクション写真撮影。SI17・25カマドセクション写真撮影。

11月16日(月)　SI28新設。SI7・15・16平面光波測量。SI7新カマド遺物出土状況写真撮影。SI25カマド東西セクション図作成。

11月17日(火)　雨天のため調査中止。

11月18日(水)　SI15・16半周光波測量。SI20ピット1・SI25ピット1セクション写真撮影およびセクション図作成。SI28カマド掘りかた東西南北セクション写真撮影およびセクション図作成。

11月19日(木)　第3～5トレンチベルによる全体写真測量実施。SI29・30，SX1新設。第6トレンチ内SD1東西セクションおよび遺物出土状況写真撮影。117・20・21完掘写真撮影。SI28南北セクション図作成，同完掘写真撮影。

11月20日(金)　SK16～18新設。SI17・20・21平面光波測量。SI27南北セクション図作成。第6トレンチ完掘全景写真撮影。

11月21日(土)　SI31新設。同東西セクション写真撮影およびセクション図作成。SI24～26平面光波測量。SI29・30完掘および遺物出土状況写真撮影，同平面光波測量。SK16～18セクション写真撮影。

11月23日(月)　第6・7トレンチポールによる全体写真測量実施。ラジコンヘリコプターによる遺跡全体景観写真撮影実施。SI32～33，SD2～4新設。SI31・32，SD4南北セクション写真撮影およびセクション図作成。SI33カマド上面遺物出土状況写真撮影および微細図作成用写真撮影，南北セクション写真撮影。

11月24日(火)　SK19～20，SD5新設。SI33南北セクション図作成。SK19～20，SD5セクション写真撮影およびセクション図作成。

11月25日(水)　SI34～36・SD6新設。SI31・32完掘状況写真撮影。SK16～20完掘状況写真撮影および平面光波測量。SI34東西セクション写真撮影およびセクション図作成。SI36硬化面残存状況写真撮影。SD6上層硬化面範囲写真撮影および光波測量。

11月26日(木)　SI35完掘写真撮影。SI36南北セクション写真撮影およびセクション図作成。SD6南北セクション図作成。

11月27日(金)　SD7新設。SI33カマド東西南北セクション写真撮影およびセクション図作成。SI34完掘状況写真撮影。SD6十右流痕跡確認状況写真撮影およびポールによる写真測量実施。

11月28日(土)　SI33（カマド含む）完掘状況写真撮影，平面光波測量。SD6砂礫層除去後セクション写真撮影およびセクション図作成。

11月30日(月)　SI37，SK21～22新設。SD6南北セクション図作成。SD7東西セクション写真撮影。

12月1日(火)　SD6南北セクション図作成。SI37ピット1セクション写真撮影およびセクション図作成，同炉セクション写真撮影。

12月2日(木)　SD8新設掘り下げ。SI33カマド掘りかた完掘状況写真撮影および平面図作成。SD6完掘状況写真撮影。SD7新旧完掘状況写真撮影。SI37炉セクション光波測量，同完掘状況写真撮影。SI38完掘状況写真撮影。SK22完掘状況写真撮影。

12月3日(木)　第8・9トレンチ全体清掃。

12月4日(金)　第8・9トレンチポールによる全体写真測量実施。SI39新設。SD7東西セクションおよびエレベーション図作成。

12月5日(土)　SD7・8，SI39東西セクション図作成。

12月7日(月)　SI40～42，SK23新設。SI41・42完掘および遺物出土状況写真撮影。第10トレンチ南北セクション図作成。

12月8日(火)　SI39・40完掘状況写真撮影。SD7・8等礫出土状況写真撮影およびポールによる写真測量実施。同礫除去作業。SK23セクション写真撮影およびセクション図作成。

12月9日(木)　SK24新設。SD7・8礫除去後完掘状況写真撮影および写真測量実施。SK23完掘状況写真撮影。第10トレンチ完掘全景写真撮影。

12月10日(木)　機器材撤収作業および洗浄作業。

12月11日(金)　機器材洗浄作業および片付け。

12月14日(月)　機器材洗浄（ブルーシート類）作業および片付け。

12月15日(火)～18日(金)　記録フィルム写真（白黒・リバーサル）整理・ファイリング作業。

12月21日(月)～25日(金)　光波測量取上遺物台帳作成作業。

平成22（2010）年

1月5日(火)～8日(金)　出土遺物洗浄作業。

1月12日(火)～15日(金)　出土遺物洗浄作業。

1月18日(月)～22日(金)　出土遺物洗浄作業。

1月25日(月)～29日(金)　出土遺物洗浄作業。

2月1日(月)～5日(金)　出土遺物洗浄作業。
2月8日(月)～12日(金)　出土遺物洗浄作業。
2月15日(月)～20日(金)　出土遺物洗浄作業。
2月22日(月)　出土遺物洗浄作業。

整理作業の経過

報告書刊行に向けた本格的な整理作業および報告書作成作業は，平成22年5月1日に，峡東農務事務所と財団法人山梨文化財研究所との間で，整理業務委託に関する契約書を締結して開始し，平成23年（2011）3月15日まで財団法人山梨文化財研究所においておこなった。

作業内容は，出土遺物の注記・実測・トレース・写真撮影，遺構測量データ整理，遺物台帳の作成，平面図・断面図の修正・トレース，遺跡全体図の作成，遺物観察表の作成，版下作成をおこない，分析委託業務として炭化材および炭化種実の鑑定・分析，金属製品の保存処理業務をおこなった。原稿の執筆は，平成22年12月1日から開始し，平成23年1月31日に終了。原稿・版下の入稿は平成23年2月1日で，本報告書は平成23年3月15日に刊行された。

第2章　遺跡の概要

第1節　地理的環境と立地

金地蔵遺跡は，甲府盆地の南東部の御坂山地北麓に位置し，御坂山地の中央部から発して甲府盆地に至る浅川が形成する扇状地上にあたる笛吹市八代町北地区にある。北は笛吹川を挟んで旧石和町，東は天川および花鳥山から矢高山の稜線を境に旧御坂町，西には浅川下流とその支流である竜安寺川および大谷山から稲山の稜線を境に旧境川村，南は鳥坂峠を境として旧芦川村に接する。浅川扇状地は平均斜度が2～3°と緩やかで美しい形状をなす。本遺跡の標高は311～320mを測る。その北西端は笛吹川の氾濫原のため地下水位が高く，扇状地上においても各所に自然湧水がみられ，当該地域は肥沃な農地としても有名である。それ故に旧石器時代から中世・近世にわたる各時代の遺跡も数多く存在している。

第2節　周辺遺跡と歴史的環境

旧八代町域では，平成元年度に実施された分布調査によって216箇所の遺跡が確認されている。丘陵地や浅川扇状地上を中心に縄文時代から近世に至る遺跡が存在するが，中でも縄文時代から平安時代の遺跡が多い。縄文時代では，山梨県の考古学史にも残る花鳥山遺跡や銚子原遺跡があり，縄文時代前期から中期前葉を主体とする集落跡が検出されている。弥生時代では曽根丘陵からさらに遅なる丘陵上に位置する上の平遺跡や，浅川扇状地の扇端部に立地する身洗沢遺跡などがあり，身洗沢遺跡では県内で初めて弥生時代後期の水田跡の発掘調査が実施され，クワ，エブリなどの木製農耕具がまとまって出土している。

古墳時代では，五里原遺跡や三光神遺跡，下長崎遺跡，保ノ下遺跡，堀ノ内遺跡や八王子遺跡などの前期から後期にかけての集落遺跡が，浅川扇状地の扇端部から扇央部にかけて展開している。墳墓の古墳については，旧八代町域だけでも60箇所以上も確認されており，銚銚子塚古墳をはじめとして，団栗塚古墳，狐塚古墳などの前方後円墳や，地蔵塚古墳や馬見塚遺跡などの円墳，そして方墳では東日本で最大規模を誇る5世紀前半に造られた竜塚古墳などがあげられ，ヤマト王権との関わりも深い。

古墳時代末から奈良・平安時代の律令制下における遺跡では，甲斐国分尼寺出土瓦の同笵の軒平瓦が出土している瑜伽寺や，郡家の存在が指摘されている堀ノ内遺跡や，五里原遺跡，八王子遺跡，堀川遺跡などがある。また，浅川扇状地の扇端部から扇央部にあたる米倉地区，永井地区，増利地区の表層には，条里型地

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	金地蔵遺跡	6	下神之木遺跡	11	丸山遺跡	16	経塚遺跡	21	姥塚古墳	26	馬乗塚古墳
2	堰川遺跡	7	上神之木遺跡	12	町屋遺跡	17	一之宮遺跡	22	狐塚古墳	27	地蔵塚古墳
3	久保B遺跡	8	西反田遺跡	13	五里塚遺跡	18	稲裕遺跡	23	御崎塚古墳	28	小山城跡
4	八王子遺跡	9	東小山B遺跡	14	仮ノ下遺跡	19	善光寺遺跡	24	伊勢塚古墳		
5	堰ノ内遺跡	10	東小山A遺跡	15	身洗沢遺跡	20	亀甲塚古墳	25	算塚子古墳		

第1図　遺跡の位置と周辺遺跡

調が展開している。金地蔵遺跡が存在する旧八代町北や，旧八代町南地区は，平安時代においては『和名類聚抄』に記される古代甲斐国八代郡の八代・長江郷域にあたるとみられ，八代郷は郡名にも由来することから，郡家の所在郷であった可能性が極めて高い。ちなみに『八代町誌』では，長江郷は永井の遺称で，永井，米倉，増利地区，北は八代郷，南は境川村の白井郷と接しているとし，一方八代郷は南八代，北八代，岡，竹野原地区で，北は金川の古河川をもって山梨郡の郡界とするとしている。

さらに古代官道である東海道を結ぶ主要交通路の一つである若彦路が，旧八代町北端から南端を南東方向に貫き，ヤマトタケル伝承を色濃く残していることから，５世紀以降の主要ルートとして注目される。そのルート上には，古代の八代郡家との関連を示唆する「高家（コウカ）」という地名が残っていることから，古墳や集落の成立にも重要な役割を担っていたと考えられる。

中世においては，甲斐国の中でも比較的早く成立したとされる大規模な庄園である八代庄があり，当庄の停廃をめぐる庄園領主と国司との抗争を示した「長寛勘文」は有名である。そこには久安年間（1145～51）に紀伊熊野社領八代庄が立てられたことが記され，旧八代町北に鎮座する熊野神社は同じ頃に勧請されたものと考えられている。

室町時代には，武田氏の分流である穴山伊豆守が，旧八代町高家に所在する小山城主であったことも知られている。小山城は，天川に面した河岸段丘上に立地する，周囲に土塁と堀をめぐらした単郭方形の居館状の構造をもつ城跡で，西および北方向には甲府盆地が広く眺望でき，北側には鎌倉街道，西側には若彦路などが通り，軍事的にも要衝の地にある。

第３節　調査の方法と基本層位

１．調査方法とグリッド配置

発掘調査は，発掘対象箇所が南北に長く延びているため，調査区を東西に走る市道を境にして，便宜的に「南区」と「北区」に大別し，本二事の作業工程を考慮して南区から調査を開始した。さらに調査区は，トレンチ状に計10箇所に分割されるため，掘削順に「第１トレンチ」「第２トレンチ」とトレンチ名を付した。さらに開発対象地全体を覆うように国土座標にあわせて，南北方向をＸ軸，東西方向をＹ軸とし，５ｍメッシュを基本とするグリッドを設定することとし，南西隅を基点として，世界測地系座標Ｘ＝－42630.000，Ｙ＝13410.000を原点（X=0，Y=0）としている。緯度は35°36′56.3845″，経度は138°38′52.9058″である。グリッドの名称は南北方向を南からＸ０・Ｘ１・Ｘ２…，東西方向を西からＹ０・Ｙ１・Ｙ２…とし，南西隅を基点として，Ｘ１Ｙ１グリッドと呼称した。重機による表土剥ぎ作業が終了した箇所から随時グリッド杭を打設した。

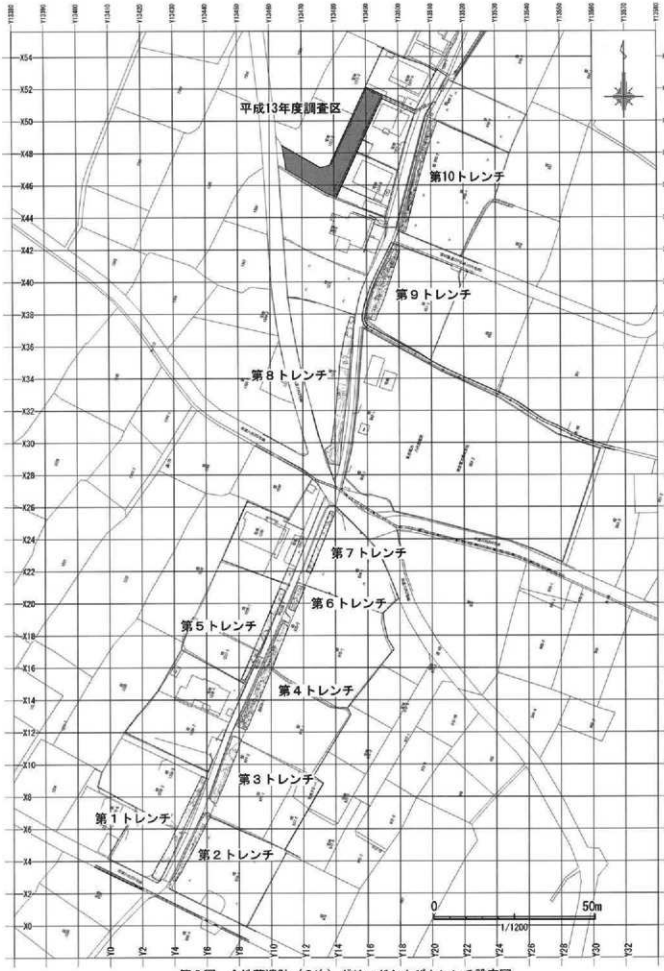
遺構調査については，すべて人力にて覆土を除去し，発生土の排出についても人力にておこなった。遺構ナンバーについては，トレンチ番号に関係なく，確認されたものから順次付していった。重複関係を有する遺構については，同時に調査をおこない，土層観察等によって新旧関係の決定をおこなった。

出土した遺物は，原位置が判明するすべての土器片や石器片等の遺物は，光波測量機によって各出土地点ごとにナンバリングして取り上げた。遺構の断面（セクション・エレベーション）測量については，人力による測量，光波測量，写真測量を併用し，平面図についても，人力による遣り方測量，光波測量，写真測量を併用した。測量図は人力・光波測量は1/10・1/20，写真測量は1/40を基本とした。

光波測量に用いた機器およびシステムは以下のとおりである。

○光波測量機　　TOPCON GTS-320F Ⅱ A
○データコレクタ　　Panasonic TOUGHBOOK CF-18
○取り上げ・図化ソフト　キュービック株式会社製　遺構くん Ver 5.01

なお，遺構の名称は，以下のような略称を使用した。



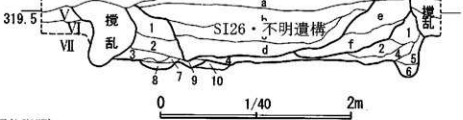
第2図　金地蔵遺跡（2次）グリッドおよびトレンチ設定図

○竪穴建物遺構 … ＳＩ，○溝状遺構 …SD，○土坑およびピット …SK
○不明遺構 …SX

２．基本層位

基本層位については，ローム層が残存する極めて安定した土地条件であるが，後世の畑地造成や土壌改良に伴う天地返し，耕作等による撹乱が著しく，部分的にローム漸移層が残存している箇所も認められたが，撹乱の多くは遺構内まで及んでいる。そのため良好な層序を捉えることはできなかった。

ここでは南区第４トレンチ中央部分のSI26付近の層位を示しておく。土層色調標記については，『新版標準土色帖』13版（農林省水産技術会議事務局監修　小山正忠・竹原秀雄編・著　1993）に準拠している。



〈基本層位説明〉

第Ⅰ層　表土層（現表土），第Ⅱ層　旧耕作土，第Ⅲ層　旧耕作土，第Ⅳ層　旧耕作土

第Ⅴ層　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）ロームブロック多く含む（ローム漸移層）

第Ⅵ層　明黄褐色粘質土（10YR6/8）ソフトローム，第Ⅶ層　明黄褐色粘質土（10YR6/8）ハードローム

第３図　基本層位図

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　竪穴建物跡（SI）

竪穴建物跡としたＳＩ遺構は，計42棟検出されている。その時期は，縄文時代中期，古墳時代前期，古墳時代末，奈良時代，平安時代にわたっている。トレンチ形状の調査区であるため，全容が判明した遺構はない。

SI1（第７図）

（位置）第１トレンチ南端のX2～3Y2～3グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）遺構どうしの重複はみられない。現代の撹乱坑によって北隅部分を破壊され，その大半は調査区外にのびる。床面の硬化面と思われる範囲の一部を検出。（規模・形態等）検出された現状規模は東西1.30ｍ，南北0.9ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）貼床と思われる硬化面は，径0.5ｍ×0.4ｍの範囲で楕円形状に検出されており，非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大５cmを測る。（柱穴）検出されていない。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI2（第７図）

（位置）第１トレンチ北端のX8～9Y5グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SK６，SK11構と重複し，いずれにも掘り込まれている。遺構の大半は調査区外にのびる。床面の硬化面と思われる範囲の一部を検出。（規模・形態等）検出された現状規模は東西1.70ｍ，南北2.20ｍを測る。形態は不明。（床・

壁・壁溝・その他施設等）貼床と思われる硬化面は，検出された範囲で全面的に検出されており，非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大35cmを測る。壁溝は南壁において検出されている。（柱穴）特になし。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI3（第7・8図）

（位置）第1トレンチ北側の X8Y5 グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）遺構の大半は調査区外にのびる。ＳＩ４と重複し掘り込まれ，撹乱によっても部分的に破壊されている。（規模・形態等）検出された現状規模は東西 2.20 m，南北 3.28 m を測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は貼床で硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大 35cm を測る。壁溝は北壁・東壁において検出されている。（柱穴）特になし。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は北壁寄りで散在的に出土している。（時期）出土遺物から８世紀後半代か。

SI4（第7・8図）

（位置）第1トレンチ北側の X7～8Y4～5 グリッドに位置する。（主軸）N135° E。（重複・遺存状況）遺構の大半は調査区外にのびる。ＳＩ３・５・６と重複し，これら遺構を掘り込んでいる。現代の撹乱坑によってカマド煙道部や南東コーナー付近を一部破壊されている。第３層以下の褐色土内には，焼土ブロックを量の多寡はあるものの比較的多く含んでいる。（規模・形態等）検出された現状規模は東西 1.35 m，南北 4.52 m を測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面はほぼ全面で硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大 55cm を測る。壁溝は浅いが，各壁下において検出されている。（柱穴）特になし。（炉・カマド）東壁に付設される石組カマドである。石組は左袖部のみ一部残存し，白色粘土と褐色土の混合土で構築されていたと思われる。煙道部は長さ 0.7 m を測りやや長い。（出土遺物）遺物はカマド内およびその周辺部で集中的に出土している。古墳時代および平安時代の土師器（墨書土器含む），須恵器等が出土している。土製品では管形土製品，鉄製品では刀子等が出土している。（時期）出土遺物から９世紀半ばから後半代の所産と思われる。

SI5（第7・8図）

（位置）第1トレンチ北側の X7～8Y5 グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）遺構の大半は調査区外にのびる。ＳＩ４・６と重複し，ＳＩ４に掘り込まれ，ＳＩ６を掘り込んでいる。（規模・形態等）検出された現状規模は東西 1.0 m，南北 4.10 m を測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は全体にやや軟弱である。竪穴部の深さは確認面から最大 52cm を測る。壁溝は検出されていない。（柱穴）特径 30～40cm，深さ 8～18cm を測るピットを計３基検出しているが，いずれも柱穴とは考えられない。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は平安時代の土師器を主体として散在的に出土している。（時期）出土遺物から９世紀半ばから後半代の所産と思われる。

SI6（第7図）

（位置）第1トレンチ北側の X7Y5 グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）遺構の大半は調査区外にのびる。ＳＩ４・５と重複し掘り込まれ，さらに現代の撹乱坑にも著しく破壊され，床面と思われる硬化面とピットが残存しているのみ。（規模・形態等）検出された硬化面の範囲は，東西 1.1 m，南北 1.35 m を測る。竪穴の形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）貼床と思われる硬化面は非常に堅固で，竪穴部の深さは確認面から最大 19cm を測る。（柱穴）特長径 75cm，短径 55cm，深さ 25cm を測るピット（P1）が検出されている。ロームブロックを比較的多く含む褐色砂質土と，にぶい黄褐色砂質土を覆土とし，壁および台付甕の一括土器が出土している。柱穴かどうかは不明。（炉・カマド）不明。（出土遺物）弥生時代末から古墳時代前期初頭の壺・直口壺・高坏か器台等が，硬化面直上および P1 内から比較的まとまって出土している。二次焼成を受けた土器が目立つ。（時期）出土遺物から，弥生時代末から古墳時代初頭の所産と思われる。

SI7（第9～12図）

（位置）第３トレンチ中央部北側の X9 ～ 10Y6 ～７グリッドに位置する。（主軸）新段階 N138° E，旧段階 N62° E。（重複・遺存状況）遺構の大半は調査区外にのびる。ＳＩ 16，SD １と重複し，SD １が本遺構上部を掘り込んでおり，ＳＩ 16 を本遺構が掘り込んでいる。覆土内には全般的に焼土ブロックや炭化材，炭化物を含んでおり，焼失建物である可能性が高い。ちなみに炭化材は覆土中層から下層にかけてで出土しているケースが多い。（規模・形態等）検出された現状規模は東西 3.34 m，南北 3.53 m を測る。形態は不明ながら一辺６～７ｍクラスの大型竪穴建物跡であろう。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は貼床で，ほぼ全面で硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大 48cm を測る。壁溝は検出された壁下において検出されている。（柱穴）長径 30 ～ 143cm，短径 17 ～ 107cm を測るピットが計 13 基（P1 ～ P13）検出されている。そのうち柱穴と思われるピットは P1 および P2 である。後述するように本遺構は，新旧カマドを有することから，カマドの付け替え時に建て替えもおこなわれており，P1・２はそれぞれ新旧竪穴に伴う柱穴だと思われる。P1 は新段階の竪穴に伴うものと思われ，一部調査区外にかかるが長径 70cm，短径 60cm 以上，深さ 41cm を測り，方形を呈する。底面上約 10cm のレベルから土師器甕一括が出土している。P2 は旧段階の竪穴に伴うと思われ，長径 48cm，短径 43cm，深さ 53cm を測り，楕円形を呈する。しっかりした掘りかたで，ローム ブロックや小礫を多量に含むにぶい黄褐色土で埋め立てられ，その下部で幅 12 ～ 15cm の柱痕が確認されている。P3・４は，白色粘土や焼土ブロック，炭化物を埋土に含み，床下に伴う浅い土坑であろう。（炉・カマド）新旧２つのカマドがある。新段階のカマドは東壁に付設される右組カマドである。右袖は煙道部下部の一部しか残存していない。白色粘土と褐色土の混合土によって基本的に構築されていたと思われる。煙道部は長さ 1.23 m を測るが，緩やかな L 字状を呈する。燃焼部の焼土は非常に顕著で，その上層が人為的に埋められている状況がうかがわれる。燃焼部壁には長径約１m を測る，深さ 10cm 程度の浅い掘りかたであり，さらに P9 ～ 16 が燃焼部を囲むように検出されている。ピット類はカマド上部の棚施設に伴うものか，上屋にかかわる支柱の可能性が考えられる。旧段階のカマドは，北壁の北東コーナー寄りに付設され，燃焼部および煙道部の掘りかたのみ残存している。燃焼部掘りかたは，長軸 0.87 m，短軸 0.67 m，深さ 0.16 m を測り，その北端は竪穴の壁溝に掘り込まれており，長径 32cm，短径 27cm，深さ 17cm のピットを有する。（出土遺物）遺物の出土量は多く，床面直上レベルから覆土上層にわたって万遍なく出土している。その内容も多彩で，古墳時代の在来の土師器をはじめ，湖西産と思われる須恵器，鉄製刀子・角釘，馬具と思われる金銅製馬具飾金具，鍾石等が出土している。土器に関しては須恵器大甕や壺，それらを模倣した土師器や，出土例が乏しい底部が一本渡の土師器製塩等がある。（時期）出土遺物からは，カマドの造りかえもみられるように二時期程度の様相が認められ，７世紀後半代から７世紀末段階ころまで存続していた思われる。

SI8（第12図）

（位置）第２トレンチ南端の X2 ～ 3Y3 ～４グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）遺構どうしの重複はみられないが，現代の撹乱によってその大半を破壊され，調査区外にのびる。床面と思われる硬化面と，炉と思われる焼土範囲を検出。（規模・形態等）検出された現状規模は東西 0.35 m，南北 0.73 m を測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化した床面は貼床で非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大６cm を測る。（柱穴）なし。（炉・カマド）地床炉と思われる。掘りかたの長軸は 0.5 m，短軸は現状で 0.3 m，深さ 0.08 m を測る。覆土には焼土粒を含む程度で，焼土はあまり顕著ではない。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）炉址が検出されていることから古墳時代前期か。

SI9（第12図）

（位置）第２トレンチ南側の X3Y4 グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）ＳＩ 10 と重複するが，新旧関係は不明瞭。現代の撹乱によってその大半を破壊され，調査区外にものびる。床面と思われる硬化面と壁溝の一部を検出。（規模・形態等）検出された現状規模は東西 0.73 m，南北 2.65 m を測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化した床面は貼床で非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大 21cm を測る。（柱穴）なし。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI10（第12図）

（位置）第２トレンチ南側のX3Y4グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）ＳＩ９と重複するが，新旧関係は不明瞭。現代の撹乱によってその大半を破壊され，調査区外にものびる。床面と思われる硬化面の一部を検出。（規模・形態等）検出された現状規模は東西0.1ｍ，南北1.85ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化した床面は貼床で非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大５cmを測る。（柱穴）なし。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI11（第13図）

（位置）第２トレンチ中央部のX4～5Y4～5グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）ＳＩ12と重複するが，新旧関係は不明瞭。現代の撹乱によってその大半を破壊され，調査区外にものびる。床面と思われる硬化面と壁溝の一部を検出。（規模・形態等）検出された現状規模は東西0.75ｍ，南北5.91ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化した床面は貼床で非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大11cmを測る。（柱穴）長径18～22cm，短径13～19cm，深さ５～10cmを測るピットが３基（P1～P3）検出されているが，柱穴とは考えにくい。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI12（第13図）

（位置）第２トレンチ北側のX5Y5グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）ＳＩ11・13・14，SK12と重複する。ＳＩ14を掘り込み，SK12に掘り込まれている。ＳＩ11・13との新旧関係は不明瞭。いたる箇所を現代の撹乱によって破壊され，その大半は調査区外にのびる。（規模・形態等）検出された現状規模は東西1.07ｍ，南北4.2ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化した床面は貼床で比較的堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大42cmを測る。（柱穴）長径17～18cm，短径14～18cm，深さ５～10cmを測るピットが３基（P1～P3）検出されているが，柱穴とは考えにくい。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は少ない。古墳時代末の土師器坏片・甕片が数点出土している。（時期）出土遺物から７世紀末～８世紀初頭頃の所産か。

SI13（第13図）

（位置）第２トレンチ北側のX6Y5グリッドに位置する。（主軸）N39°E。（重複・遺存状況）ＳＩ12・13・19と重複する。ＳＩ14を掘り込み，ＳＩ19に掘り込まれている。ＳＩ12との新旧関係は不明瞭。さらに現代の撹乱によって，破壊されている部分が多く，その大半が調査区外にのびる。覆土内には焼土ブロックや炭化物，ローム ブロック等の混入が顕著で，焼失家屋の可能性が高い。（規模・形態等）検出された現状規模は東西1.17ｍ，南北4.91ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）地山を床面として比較的堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大60cmを測る。壁溝は検出されていない。（柱穴）２基のピットが検出されている（P1・P2）。P1は長径47cm，短径36cm，深さ16cmを測り，ピット内には扁平な礎石状ないし台石状の礫が出土している。P2は，長径49cm，短径は現状で25cm，深さ20cmを測る。全容が不明であり，これらピットが柱穴かどうかは不明。（炉・カマド）北壁にカマドが付設されている。掘りかたのみの検出であり，長軸97cm，深さ15cmを測る。確認段階から焼土と白色粘土の分布が顕著で，燃焼部内の焼土層の形成も顕著である。（出土遺物）出土遺物はカマド周辺部を中心に，竪穴内全域から散在的に出土している。奈良時代後半の土師器坏（刷毛目調整含む）・甕，須恵器坏等が出土している。（時期）出土遺物から８世紀前半代の所産と思われる。

SI14（第13図）

（位置）第１トレンチ南端のX5～6Y5グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）ＳＩ12・13と重複する。両遺構に掘り込まれており，その大半は調査区外にのびる。床面の硬化面と思われる範囲の一部を検出。（規模・形態等）検出された硬化面は，現状規模は東西最大0.22ｍ，南北1.1ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）地山を床面として非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大10cm

を測る。(柱穴) 検出されていない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 床面直上レベルから，古墳時代末の土師器坏片がわずかに出土している。。(時期) 出土遺物から7世紀末～8世紀初頭頃の所産か。

SI15（第14図）

(位置) 第3トレンチ北端のX10～11Y7～8グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SI16と重複し，それを掘り込んでいる。またSD 1が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の2/3以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の現状規模は東西最大1.94 m，南北2.91 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 地山を床面として非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大50cmを測る。(柱穴) 検出されていない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 覆土第1層下面レベルを中心に奈良時代末の土師器坏（刻書土器含む）・甕片が散在的に出土している。(時期) 出土遺物から8世紀後半代の所産か。

SI16（第14図）

(位置) 第3トレンチ北端のX10～11Y7グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SI17・16と重複し，両遺構に掘り込まれている。またSD 1が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の半分以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の現状規模は東西最大3.17 m，南北1.75 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 地山を床面として比較的堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大47cmを測る。(柱穴) 検出されていない。楕円形を呈する長径85cm，短径76cm，深さ10cmを測る土坑（P1）が検出されているが，これは貼床下の床下土坑であろう。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 覆土第9・10層内を中心に古墳時代末の土師器坏片・甕片が散在的に出土している。(時期) 遺構の新旧関係および出土遺物から7世紀末～8世紀初頭頃の所産か。

SI17（第14・15図）

(位置) 第4トレンチ南端のX12～13Y8グリッドに位置する。(主軸) N43° E。(重複・遺存状況) SI20・21，SD 1と重複し，SI20・21を掘り込み，SD 1が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の1/4程度は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の現状規模は東西最大3.39 m，南北3.06 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は貼床で，カマド周辺部は特に堅固で，その他の箇所も若々硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大55cmを測る。壁溝は検出された範囲内の壁下で検出されている。(柱穴) P1～P13の土坑・ピットが検出されている。これらの大半は貼床下の床下土坑であろう。P3およびP5内にみられる小ピットは，位置的にみて柱穴になる可能性も考えられる。またP1はその位置から，SI21に伴うカマドの掘りかたの可能性も考えられる。(炉・カマド) 北壁に付設される石組カマドである。両袖に袖石が残存し，掘りかたの規模は，長軸1.23 m，短軸1.14 mを測る。覆土第1層中から破砕されたような状態で土師器甕が集中的に出土し，焼土も顕著。(出土遺物) 覆土下層を中心に竪穴内全域から出土しており，出土量は多い。特に前述のカマド内の他，P1上面からも土師器甕を中心とした土器群が集中して出土している。土師器，須恵器の他，鉄製刀子や鎌石状の礫等が出土している。(時期) 出土遺物から7世紀末から8世紀初頭頃の所産か。

SI18（第16図）

(位置) 第3トレンチ南側のX8Y6グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) 現代の撹乱による破壊が著しく，竪穴部の大半は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の現状規模は東西最大0.37 m，南北1.06 mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床は貼床で堅固であり，竪穴部の深さは確認面から最大10cmを測る。(柱穴) 検出されていない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 覆土下層から古墳時代末の土師器坏(刻書土器含む)片がわずかに出土している。(時期) 出土遺物から8世紀前半代の所産か。

SI19（第13図）

(位置) 第2トレンチ北側のX5～6Y6グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SI13と重複する。SI13を掘り込んでいる。現代の撹乱が検出部分の大半におよび，竪穴の大半は調査区外にのびる。

(規模・形態等) 検出された現状規模は東西 1.00 m，南北 0.8 mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は比較的堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大 59cmを測る。(柱穴) 長径 35cm，短径 29cm，深さ 10cmを測るピット (P1) が検出されている。柱穴かどうかは不明。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物は少ない。古墳時代末の土師器坏片を中心に散在的出土している。(時期) 遺構の新旧関係および出土遺物から，８世紀前半代の所産か。

SI20 (第14・15図)

(位置) 第４トレンチ南端の X12Y7 ～ 8 グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) ＳＩ 17・21 と重複し，ＳＩ 17 に掘り込まれ，ＳＩ 21 を掘り込んでいる。また SD 1 が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の大半は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出された現状規模は東西 1.75 m，南北 3.00 mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は比較的堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大 33cmを測る。検出された範囲の壁下には壁溝がめぐっている。(柱穴) 楕円形を呈し，長径 53cm，短径 51cm，深さ 15cmを測るピット (P1) が検出されている。その確認面ではピットとほぼ同一規模で薄い焼土の広がりがみられる。柱穴かどうかは不明。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物は少ない。古墳時代前期および古墳時代末の土師器坏片を中心に散在的出土している。(時期) 遺構の新旧関係および出土遺物から，ＳＩ 17 構築以前の所産であるとしか判断できないが７世紀後半代か。

SI21 (第14・15図)

(位置) 第４トレンチ南端の X12Y8 グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) ＳＩ 17・20 と重複し，何遺構に掘り込まれ，床面と壁溝の一部を検出したに過ぎない。その大半は調査区外にのびる。(規模・形態等) 規模・形態とも不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は比較的堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大 20cmを測る。検出された範囲の壁下には壁溝がめぐっている。(柱穴) 不明。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物はない。(時期) 遺構の新旧関係から，ＳＩ 17・20 の構築以前の所産であるとしか判断できない。

SI22 (第16図)

(位置) 第４トレンチの X13 ～ 14Y8 ～ 9 グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) ＳＩ 23 と SD 1 と重複し，ＳＩ 23 を掘り込み，SD 1 が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の 1/2 程度は調査区外にのびる。また，現代の耕作地造成や作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大 2.69 m，南北規模は 3.72 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は貼床で，竪穴部中央部分は特に堅固で，その他の箇所も所々硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大 32cmを測る。壁溝は検出された範囲内の壁下で検出されている。(柱穴) 床下土坑状ピットが計９基 (P1 ～ P9) 検出されている。明確に柱穴と捉えられるものはない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 竪穴全域から古墳時代末頃の土師器，須恵器等が散在的に出土しているが，床下土坑内からの出土が目立つ。P1 からは須恵器坏，P3 からは土製紡錘車，P5 からは鉄製鋤先が出土している。P1 上面からも土師器甕を中心とした土器群が集中して出土している。土師器，須恵器の他，鉄製刀子や鎚石状の礫等が出土している。(時期) 出土遺物から８世紀前半代の所産か。

SI23 (第16図)

(位置) 第４トレンチの X13Y8 グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) ＳＩ 22 と SD 1 と重複し，ＳＩ 22 に掘り込まれ，SD 1 が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の大半は調査区外にのびる。また，現代の耕作地造成や作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大 2.26 m，南北も現状で 0.84 mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は比較的堅固で，竪穴部の深さは確認面から最大 23cmを測る。壁溝は検出された範囲の壁下で検出されている。(柱穴) 不明。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 覆土下層からわずかに縄文時代中期の土器片が出土している。(時期) 出土遺物から縄文時代中期曽利Ⅴ式期の所産の可能性はあるが，詳細は不明。

SI24（第17図）

（位置）第４トレンチのX14～15Y8～９グリッドに位置する。（主軸）N21° E。（重複・遺存状況）SK13およびSD１と重複する。SK13が本遺構南端部で，SD１が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の1/2程度は調査区外にのびる。また，現代の耕作地造成や作物等の攪乱による遺構の破壊が著しい。（規模・形態等）検出範囲の東西規模は現状で最大2.19ｍ，南北規模は4.49ｍを測る。形態は方形か。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は貼床で，竪穴部中央部分は特に堅固で，その他の箇所も所々硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大31cmを測る。壁溝は北壁壁下で一部検出されている。（柱穴）長径20～90cm，短径17～70cmを測る土坑状，柱穴状ピットが計10基（P1～P10）検出されている。明確に柱穴と捉えられるものはない。（炉・カマド）北壁に付設されると思われる。竪穴北端部の調査区との境で，顕著な焼土範囲が確認されており，断面観察によってカマドと判明。燃焼部の掘りかたの一部を確認。（出土遺物）竪穴全域から古墳時代末頃の土師器，須恵器等が散在的に出土しているが，カマド周辺部とSK13周辺部からの出土が主で，SK13周辺では奈良時代後半代の土師器の出土が目立ち，混入の可能性が高い。（時期）８世紀後半代の土師器の出土が多いが，その出土状況から後代の混入と判断されるため，カマド周辺部の出土遺物から７世紀末から８世紀初頭段階の所産と考えておきたい。

SI25（第17・18図）

（位置）第４トレンチのX15～16Y9グリッドに位置する。（主軸）N54° E。（重複・遺存状況）ＳＩ26と重複し，本遺構がＳＩ26を掘り込んで構築している。竪穴部の大半が調査区外にのびるが，カマドと東壁の一部を検出。また，現代の耕作地造成や作物等の攪乱による遺構の破壊が著しい。（規模・形態等）検出範囲の東西規模は現状で最大1.30ｍ，南北規模も現状で2.31ｍを測る。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は貼床で，所々硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大55cmを測る。壁溝は検出されていない。（柱穴）床下土坑状長径61～77cm，短径50～51cmを測る床下土坑状ピットが３基（P1～P3）検出されている。明確に柱穴と捉えられるものはない。（炉・カマド）北壁に付設される石組カマドである。右袖石と燃焼部掘りかたの一部を検出。確認段階から焼土の分布が顕著に捉えられた。（出土遺物）竪穴検出全域の覆土上層から下層にかけて万遍なく出土しており，調査面積は極狭でありながらその出土量は多い。古墳時代末頃の土師器，須恵器等中心に出土している。特に床面直上レベル付近から，畿内産土師器皿の一括品が出土しているのは注目できる。（時期）出土遺物から７世紀末から８世紀初頭段階の所産か。

SI26（第18図）

（位置）第４トレンチのX15～16Y9グリッドに位置する。（主軸）N55° E。（重複・遺存状況）ＳＩ25とSD１と重複する。両遺構が本遺構を掘り込んで構築している。竪穴部北東コーナー部分が調査区外にのびる。また，現代の耕作地造成や作物等の攪乱による遺構の破壊が著しい。なお，東壁セクションの観察で本遺構と同じ掘り込み面から切り込んでいる竪穴状もしくは溝状の落ち込みを看取できた（a層～f層）。しかし調査段階では平面的に捉えることができなかった。（規模・形態等）東西規模は推定で3.6ｍ，南北規模は4.12ｍを測る。形態は長方形を呈する。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は貼床で，所々硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大57cmを測る。壁溝は検出された範囲の壁下で検出されている。（柱穴）床下土坑状ピットが４基（P1～P4）検出されている。P1はカマド掘りかたに伴うものであろう。P2～P4は長径27～51cm，短径20～43cmを測り，柱穴かどうかは不明。（炉・カマド）北壁に付設される。攪乱によって煙道部分は破壊されており，燃焼部掘りかたのみの検出である。確認段階から焼土の分布が顕著に捉えられた。（出土遺物）竪穴全域から散在的に出土しており，古墳時代前期および古墳時代末頃の土師器，須恵器等が出土している。（時期）出土遺物から７世紀後半代の所産か。

SI27（第19図）

（位置）第５トレンチのほぼ中央部のX17～18Y9グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）他の遺構との重複はみられないが，現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の攪乱による遺構の破壊が著し

い。竪穴部の2/3以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大3.09m，南北も現状で2.34mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は竪穴中央部付近は非常に堅固である。穴部の深さは確認面から最大8cmを測る。壁溝は検出された範囲の壁下で検出されている。調査区境で検出されているP1は，径60cm，楕円形を呈する浅い落ち込みであるが，まわりの床面より4cm程度低く，掘り込みというより，窪みといったものであり，その底面は硬化している。(柱穴) 柱穴状ピットは2基 (P2・P3) 検出されている。その内のP3は，長径43cm，深さ20cmを測り，検出位置からみて柱穴の一つである可能性が高い。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物は非常に少ない。床面直上レベルからわずかに古墳時代前期の台付甕片が出土している程度。(時期) 出土遺物や竪穴構造等からみて，古墳時代前期の所産か。

SI28 (第19図)

(位置) 第5トレンチのX16～17Y8～9グリッドに位置する。(主軸) N48°E。(重複・遺存状況) 他の遺構との重複はみられないが，現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の1/3以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大1.67m，南北は2.81mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は所々硬化し，カマド前面部分は特に硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大31cmを測る。壁溝は検出された範囲の壁下で検出されている。(柱穴) ピットは4基 (P2～P5) 検出されているが，いずれも柱穴かどうかは不明。P1は床下土坑の可能性が高い。(炉・カマド) 北壁に付設される。燃焼部据りかたのみの検出である。袖石据え付けピットがみられることから，本来は石組カマドだと思われる。確認段階から焼土の分布が顕著に捉えられ，燃焼部脇には長軸60cm，短軸58cm，深さ4cmを測る方形の浅い掘りかたが検出されているが，その上面まで焼土は覆っていた。(出土遺物) 出土遺物は非常に少ない。床面直上レベルから古墳時代末頃と思われる土師器甕片と，土製支脚片が出土している程度。(時期) 出土遺物や竪穴構造等からみて，7世紀末から8世紀初頭段階の所産か。

SI29 (第20図)

(位置) 第7トレンチ北端部のX25Y13グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SI30の遺構との重複し，SI30を掘り込んでいる。現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の2/3以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大1.43m，南北は3.61mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 南壁際で硬化した床面を確認。壁溝の一部も検出。竪穴部の深さは確認面から最大35cmを測る。(柱穴) 床下ピットはいくつか検出されているものの，柱穴と思われるピットは検出されていない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物は少ない。床面直上レベルから古墳時代および奈良時代頃の土師器坏片と須恵器甕片等がわずかに出土。(時期) 詳細な時期は不明だが，8世紀前半代の所産か。

SI30 (第20図)

(位置) 第7トレンチ北端部のX24～25Y13グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SI29の遺構と重複し，SI29に掘り込まれている。現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の2/3以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大1.43m，南北は1.97mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 南壁際で硬化した床面を確認。壁溝の一部も検出。竪穴部の深さは確認面から最大20cmを測る。(柱穴) P1～P3の床下ピットは検出されているものの，柱穴と思われるピットは検出されていない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物はない。(時期) 不明。

SI31 (第20図)

(位置) 第8トレンチ南側のX29～30Y13グリッドに位置する。(主軸) N51°E。(重複・遺存状況) SI32，SD4と重複し，両遺構を掘り込んでいる。現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の2/3以上は調査区外にのびる。(規模・形態等) 東西規模は3.19m，南北は検出

した現状範囲で1.70 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は貼床で，所々硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大26cmを測る。壁溝は検出された範囲の壁下で検出されている。(柱穴) 長径 20～47，短径19～47cm，深さ11～28cmを測るピットが計5基検出されている。P1・2は検出位置から柱穴とも考えられるが，詳細は不明。(炉・カマド) 検出されていないが，調査区西壁セクションにおいて，焼土層を含んだカマドの一部と思われる堆積状況を示していることから，東壁に付設されていると思われる。古墳時代末の土師器坏片・甕片が数点出土している。(時期) 出土遺物から7世紀後半代の所産か。

SI32 (第20図)

(位置) 第8トレンチ南側のX29～30Y13グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SI 31，SD 4と重複し，両遺構に掘り込まれている。現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の大半は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大0.95 m，南北は1.30 mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 南壁際で硬化した床面を確認。壁溝の一部も検出。竪穴部の深さは確認面から最大21cmを測る。(柱穴) 不明。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物はない。(時期) 不明。

SI33 (第21図)

(位置) 第8トレンチ南側のX32～33Y14グリッドに位置する。(主軸) N57° E。(重複・遺存状況) 遺構との重複はないが，現代の耕作地造成に伴う削平や，モグラ，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の大半は調査区外にのびる。(規模・形態等) 東西規模は現状で1.39 m，南北も現状で2.23 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は貼床で，カマド前面部は特に硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大13cmを測る。壁溝は検出されていない。(柱穴) 不明。(炉・カマド) 東壁に付設されている。顕著な焼土範囲とともに，褐色粘質土と黄褐色粘質土によって構築された袖部の一部と，煙道部の天井部が残存。規模は，長軸0.90 m，短軸0.70 mを測る。覆土第1層中から破砕されたような状態で土師器甕が集中的に出土している。(出土遺物) 出土遺物は，カマド内およびカマド前面部から，土師器甕と底部の回転糸切無調整の須恵器坏が集中して出土している。(時期) 出土遺物から8世紀前半代の所産か。

SI34 (第21図)

(位置) 第8トレンチ北端部のX36～37Y16～17グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) SD 2と重複し，SD 2が本遺構の上部を掘り込んで構築している。竪穴部の1/2程度が調査区外にのびる。また，現代の耕作地造成や作物等の撹乱による遺構上部の破壊が著しい。(規模・形態等) 東西規模は現状で2.04 m，南北は2.85 mを測る。形態は方形か。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は地山を床面としており，全体的に硬化している。竪穴部の深さは確認面から最大24cmを測る。壁溝は南壁と西壁の一部壁下で検出されている。(柱穴) 長径11～38cm，短径7～35cm，深さ4～28cmを測るピットが計9基 (P1～P9) 検出されているが，P1～P3は規模からみて柱穴になり得ると思われるが，詳細は不明。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物は極めて少ない。土師質の台状高台片がわずかに出土しているに過ぎない。(時期) 出土遺物から12世紀前後の所産か。

SI35 (第22図)

(位置) 第8トレンチ南側のX37Y14～15グリッドに位置する。(主軸) 不明。(重複・遺存状況) 他の遺構との重複はないが，現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の大半は調査区外にのびる。(規模・形態等) 検出範囲の東西規模は現状で最大1.25 m，南北も現状で1.75 mを測る。形態は不明。(床・壁・壁溝・その他施設等) 床面は貼床で壁際で全体に硬化している。壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは確認面から最大35cmを測る。(柱穴) 長径38～40cm，短径19～31cm，深さ10～25cmを測るピットが計4基 (P1～P4) 検出されているが，P1の底面には礎板石状の扁平な礫が出土している。柱穴の可能性も考えられる。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 出土遺物は非常に少ない。古墳時代の土師器甕小片が出土しているのみ。(時期) 不明。

SI36（第22図）

（位置）第8トレンチ中央部付近のX34～25Y14グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）他の遺構との重複はないが，現代の耕作地造成に伴う削平や，作物等の撹乱による遺構の破壊が著しい。竪穴部の大半は調査区外にのびる。（規模・形態等）トレンチ西壁において東西約1.77 m，南北約1.50 mの範囲で，床と思われる硬化面のみを検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化面は非常に堅固で，竪穴部の深さは確認面から最大11cmを測る。（柱穴）不明。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI37（第22・23図）

（位置）第9トレンチ中央部付近のX38～39Y16～17グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SD 7とSK22と重複し，SD 7が本遺構の西側を掘り込んで構築している。SK22との新旧関係は，現代の耕作地造成や作物等の撹乱が激しく，東壁セクションの観察からもその新旧は不明。本竪穴自体も撹乱による破壊が著しく，辛うじて床面と地床炉の一部を検出したに過ぎない。（規模・形態等）トレンチ東壁際の東西約1.5 m，南北約4.5 mの範囲で，床と思われる硬化面のみを検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は一部貼床で非常に堅固である。竪穴部の深さは確認面から最大18cmを測る。また，炉の北側で楕円形を呈する土坑が検出されている（P1）。規模は長径91cm，短径71cm，深さ38cmを測る。上部は，にぶい黄褐色砂質土の貼床で覆われ，その下部層もロームブロックを多く含むにぶい黄褐色砂質土で構成されている。出土遺物はない。（柱穴）撹乱ピットが至るところに及び，破壊が著しいために，本来の柱穴が残存していたとしも，その認定は難しい。（炉・カマド）硬化面範囲の南端部で焼土と土器片を顕著に伴う範囲を確認し，掘りくぼんだ結果，地床炉と思われる楕円形を呈する浅い掘りかたが検出され，規模は現状で東西幅46cm，南北幅57.5cm，深さ13cmを測る。（出土遺物）出土遺物は炉内を中心に少量出土している。古墳時代前期のS字口縁甕が主体的に出土している。（時期）遺構状況や出土遺物から，古墳時代前期の所産か。

SI38（第23図）

（位置）第9トレンチ中央部付近のX40Y17グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SD 7と重複し，SD 7が本遺構の西側を掘り込んで構築している。現代の耕作地造成や作物等による撹乱が激しく遺構の破壊が著しい。辛うじて床面と思われる硬化面の一部を検出したに過ぎない。（規模・形態等）トレンチ東壁際において東西約1.0 m，南北約2.0 mの範囲で，床と思われる硬化面を検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）硬化面は堅固で，竪穴部の深さは確認面から最大9 cmを測る。北壁側の一部で壁溝を検出。（柱穴）不明。（炉・カマド）不明。（出土遺物）平安時代の土師器片が，範囲内の撹乱層中から中心に少量出土。（時期）出土遺物から10世紀前半代の所産か。

SI39（第24図）

（位置）第10トレンチ北側のX47Y19グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SD 7・8と重複し，SD 7・8が本遺構を掘り込んで構築している。現代の耕作地造成や作物等による撹乱が激しく遺構の破壊が著しい。床面と思われる硬化面と，壁溝の一部を検出したに過ぎない。（規模・形態等）トレンチ東壁際において東西約0.35 m，南北約2.3 mの範囲で，床と思われる硬化面を検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は一部が非常に硬化しており，竪穴部の深さは確認面から最大20cmを測る。北壁側の一部で壁溝を検出。（柱穴）不明。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI40（第24図）

（位置）第10トレンチ北側のX46～47Y19グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SD 7・8と重複し，SD 7・8が本遺構を掘り込んで構築している。現代の耕作地造成や作物等の撹乱が激しく遺構の破壊が著しい。床面と思われる硬化面と，壁溝の一部を検出したに過ぎない。（規模・形態等）トレンチ東壁際において東西南北軸それぞれ約1.0 mの範囲で，床と思われる硬化面と壁溝を検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は堅固で，竪穴部の確認面からの深さは不明。（柱穴）不明。（炉・カマド）

不明。（出土遺物）出土遺物はない。（時期）不明。

SI41（第24図）

（位置）第10トレンチ北側のX45Y18～19グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SD 7・8と重複し，SD 7・8が本遺構を掘り込んで構築している。現代の耕作地造成や作物等の撹乱が激しく遺構の破壊が著しい。床面と思われる硬化面の一部を検出したに過ぎない。

（規模・形態等）東西軸は現状で0.56 m，南北軸は現状で1.87 m，床と思われる硬化面と壁溝を検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は堅固で，竪穴部の確認面からの深さは5 cmを測る。（柱穴）不明。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は非常に少ない。土師器坏片（時期）平安時代末頃の所産か。

SI42（第24図）

（位置）第10トレンチ北側のX44～45Y18グリッドに位置する。（主軸）不明。（重複・遺存状況）SD 7・8と重複し，SD 7・8が本遺構を掘り込んで構築している。現代の耕作地造成や作物等の撹乱が激しく遺構の破壊が著しい。床面と思われる硬化面と，壁溝の一部を検出したに過ぎない。（規模・形態等）東西軸は現状で0.85 m，南北軸は現状で3.4 m，床と思われる硬化面と壁溝の一部を検出。形態は不明。（床・壁・壁溝・その他施設等）床面は堅固で，竪穴部の確認面からの深さは不明。（柱穴）不明。（炉・カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は非常に少ない。（時期）平安時代中～後期頃の所産か。

第2節　土坑・ピット（SK）

土坑およびピットとしたSK遺構は，計23基検出されている。なお，SK10については，調査途中で撹乱であると判明し，欠番となっている。

SK1（第25図）

（位置・形状・規模）第1トレンチX4Y3グリッドに位置する。楕円形を呈し，長軸0.84 m，短軸0.73 m，確認面からの深さ最大0.17 mを測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK2（第25図）

（位置・形状・規模）第1トレンチX5Y4グリッドに位置する。楕円形を呈し，長軸0.91 m，短軸0.67 m，確認面からの深さ最大0.47 mを測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK3（第25図）

（位置・形状・規模）第1トレンチX5Y3～4グリッドに位置する。楕円形を呈し，長軸0.94 m，短軸0.88 m，確認面からの深さ最大0.26 mを測る。出土遺物は覆土上層より現代の瓦器片が出土しているが，時期は不明。

SK4（第25図）

（位置・形状・規模）第1トレンチX5Y5グリッドに位置する。撹乱により北側を欠失し，SK 9と重複する。長楕円形を呈し，長軸0.8 m，短軸は現状で0.48 m，確認面からの深さ最大0.17 mを測る。出土遺物は覆土上層より土師器整状坏小片が出土しているが，時期は不明。

SK5（第25図）

（位置・形状・規模）第1トレンチX5～6Y5グリッドに位置する。遺構東側部分の一部が調査区外にかかる。楕円形を呈し，長軸は現状で0.60 m，短軸0.63 m，確認面からの深さ最大0.56 mを測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK6（第7図）

（位置・形状・規模）第1トレンチX9Y5グリッドに位置し，SI2を掘り込んで構築されている。遺構西側の1/3程度が調査区外にかかる。長楕円形を呈すると思われ，長軸1.22 m，短軸は現状で0.6 m，確認面からの深さ最大0.4 mを測る。出土遺物は覆土中より墨書土器片を含む土師器片が数点出土している。時期は8世紀後半代か。

SK7（第８図）

（位置・形状・規模）第１トレンチ X8Y5 グリッドに位置する。遺構東側でわずかに SI5 と重複する。新旧関係は不明。楕円形を呈し，長軸 0.51 m，短軸 0.46 m，確認面からの深さ最大 0.28 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK8（第25図）

（位置・形状・規模）第１トレンチ X8Y5 グリッドに位置する。楕円形を呈し，長軸 0.67 m，短軸 0.60 m，確認面からの深さ最大 0.47 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK9（第25図）

（位置・形状・規模）第１トレンチ X5Y5 グリッドに位置し，SK 4 と重複する。円形を呈し，長軸は現状で 0.28 m，短軸 0.25 m，確認面からの深さ最大 0.08 m を測る。出土遺物は覆土上層より縄文時代中期後葉土器片が出土しているが，時期は不明。

SK11（第７図）

（位置・形状・規模）第１トレンチ X9Y5 グリッドに位置し，SK 6 に掘り込まれ，SI2 を掘り込んで構築されている。長楕円形を呈すると思われ，長軸は現状で 0.93 m，短軸は現状で 0.66 m，確認面からの深さ最大 0.37 m を測る。出土遺物は覆土中より土師器片が数点出土しているが，当初その存在が明らかでなく，遺物は SI2 出土遺物として取り上げている。時期は７世紀末から８世紀初頭段階の所産か。

SK12（第13図）

（位置・形状・規模）第２トレンチ X5Y5 グリッドに位置し，SI12 を掘り込み構築されている。遺構東側の 1/2 以上が調査区外にかかる。長楕円形を呈すると思われ，長軸は現状で 1.46 m，短軸は現状で 0.43 m，確認面からの深さは 0.29 ～ 0.38 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK13（第17図）

（位置・形状・規模）第４トレンチ X14Y9 グリッドに位置し，SI24 を掘り込んで構築されている。遺構東側の 1/3 以上が調査区外にかかる。楕円形を呈すると思われ，長軸は現状で 0.80 m，短軸は現状で 0.22 m，確認面からの深さは 0.46 m を測る。出土遺物は覆土下層から口縁部の一部を欠く須恵器蓋形土器，土師器坏片などが出土しており，時期は８世紀後半代か。

SK14（第25図）

（位置・形状・規模）第３トレンチ X8Y6 グリッドに位置し，SD1 と重複するが，新旧関係は不明。遺構東側 1/4 程度が調査区外にかかる。楕円形を呈すると思われ，長軸は 0.93 m，短軸は現状で 0.44 m，確認面からの深さは 0.52 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK15（第25図）

（位置・形状・規模）第３トレンチ X9Y7 グリッドに位置する。遺構東側 1/4 程度が調査区外にかかる。楕円形を呈すると思われ，長軸は 0.43 m，短軸は現状で 0.22 m，確認面からの深さは 0.22 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK16（第26図）

（位置・形状・規模）第８トレンチ X28Y13 グリッドに位置する。遺構東側で SK17 と重複し，遺構西側の 1/5 程度が調査区外にかかる。SK17 を掘り込んで構築している。不整形な楕円形を呈し，長軸は現状で 0.84 m，短軸は現状で 0.96 m，確認面からの深さは 0.27 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK17（第26図）

（位置・形状・規模）第８トレンチ X28Y13 グリッドに位置する。遺構東側で SK18 と重複し，遺構西側で SK17 と重複している。SK18 を掘り込み，SK16 に掘り込まれている。不整形な楕円形を呈し，長軸は現状で 0.90 m，短軸は現状で 0.85 m，確認面からの深さは 0.28 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK18（第26図）

（位置・形状・規模）第８トレンチ X28Y13 グリッドに位置する。遺構西側で SK17 と重複している。SK17 に掘り込まれている。楕円形を呈すると思われ，長軸は現状で 0.44 m，短軸は現状で 0.65 m，確認面からの深さは 0.19 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK19（第26図）

（位置・形状・規模）第８トレンチ X32 ～ 33Y14 グリッドに位置する。遺構南側で SD4 と重複している。新旧関係は不明。長楕円形を呈し，長軸は 1.11 m，短軸は現状で 0.59 m，確認面からの深さは 0.29 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK20（第26図）

（位置・形状・規模）第８トレンチ X33Y14 グリッドに位置する。遺構南側で SD4 と重複している。新旧関係は不明。長楕円形を呈し，長軸は 0.65 m，短軸は現状で 0.59 m，確認面からの深さは 0.33 m を測る。出土遺物はなく，時期は不明。

SK21（第32図）

（位置・形状・規模）第８トレンチ X34Y14 グリッドに位置する。SD6 と重複している。SD6 の南西端の上層を掘り込んでいる。遺構西側 1/2 程度が調査区外にかかる。円形を呈すると思われ，径 0.23 m，確認面からの深さは 0.33 m を測る。出土遺物は，覆土中層から９世紀前半代の土師器皿片が出土している。当該期の所産か。

SK22（第33図）

（位置・形状・規模）第９トレンチ X39Y17 グリッドに位置し，SI37 と重複している。SI37 で報告したように SK22 との新旧関係は，現代の耕作地造成や作物等の撹乱が激しく，東壁セクションの観察からも不明。遺構東側 1/2 程度が調査区外にかかる。長楕円形を呈すると思われ，長軸 1.39 m，短軸は現状で 0.48 m，確認面からの深さは 0.16 m を測る。出土遺物は覆土中から，古墳時代末頃の土師器坏・甕形土器片が出土しているため，７世紀末から８世紀初頭段階の所産か。

SK23（第26図）

（位置・形状・規模）第10トレンチ X49 ～ 50Y19 ～ 20 グリッドに位置し，SD8 と重複している。新旧関係は不明。遺構西側の一部が調査区外にかかる。長楕円形を呈し，長軸 1.30 m，短軸は現状で 0.80 m，確認面からの深さは 0.22 m を測る。出土遺物は覆土中から，中世の陶器片および須恵質鉢片が出土しており，覆土上層部には巨大の礫が集石した状態でみられる。出土遺物から中世段階の所産と思われる。

SK24（第26図）

（位置・形状・規模）第10トレンチ X49Y20 グリッドに位置し，SD8 に掘り込まれた状態で重複している。遺構の大半が調査区外にかかり，形状・規模等は不明。掘りかた底面から，径約 0.4 m，底面からの深さ 0.07 m を測るピットが検出されている。出土遺物はなく，時期は不明。

第３節　溝状遺構（SD）

SD1（第27～30図）

本溝状遺構は，第３トレンチから第６トレンチにわたって検出されている。検出された長さ約 77 m，幅 0.65 ～ 2.00 m，確認面からの深さは数cm～最大約 0.40 m を測る。多少の蛇行はみられるものの，南北方向にほぼ直線的に延び，現在の耕作地境界線および農道にほぼ沿っている。遺構底面には粗砂および砂礫層が所々認められ，流水を伴う水路であったと思われる。

遺物の出土は極めて散在的であり，縄文時代中期，古墳時代後期，奈良・平安時代，中世段階の土器類の他，石器，刀子などの鉄製品，ウマもしくはウシの歯等がわずかながら出土している。遺構の所属年代は，出土遺物の様相から，中世以降の所産と考えられる。

SD2（第31図）

本溝状遺構は，第8トレンチ内で検出されており，本トレンチ東端に沿ったかたちで検出されている。検出された長さ約90m，幅は調査区外に東端部分がかかっているため全容は不明であるが，現状幅で最大0.90mを測る。出土遺物は極めて少なく陶磁器細片が数点出土しているのみ。本溝状遺構もSD1と同様に，現在の耕作地境界線および農道にほぼ沿っており，また旧耕作土直下から掘り込まれ，重複するSI34や，SD3～6をすべて切り込んで構築されていることから，その所属年代は近・現代以降の所産と考えられる。

SD3・4（第31図）

両溝状遺構は，二条一対で第8トレンチ内において検出されており，道路状遺構と考えられるものである。両溝状遺構は平行し，真北に対して東に約10度偏して南北方向に延びており，SD5およびSD6と直交する。SD4が古墳時代末の所産と考えられるSI31と重複しており，その新旧関係は不明であるものの，本溝状遺構が竪穴建物跡の覆土上層部分を掘り込んで構築されている可能性が高い。

検出された長さは約20m，両遺構との幅は，各溝の芯々で1.5mを測る。南端部分は，両溝状遺構ともに途切れていることから，確認されていないが東西方向に延びる道路と直行する交差地点にあたる可能性が高い。SK16～18が東西方向に延びる側溝の一部である可能性も考えられる。その所属年代は出土遺物がないため不明であるが，前述のとおり，SI31との切り合い関係からみれば，古墳時代末以降の所産と考えられる。

SD5（第31図）

本溝状遺構は，第8トレンチ内X34Y14グリッドに位置している。東西方向にのびる溝状遺構で，真西に対して北に約10度偏している。最大幅1.08m，確認面からの深さ0.34mを測り，覆土堆積状況から，2時期の変遷がみられるが，砂礫などの流水痕跡は認められない。出土遺物も少なく，覆土中層から陶磁器細片が1点出土しているのみ。所属年代は不明。

SD6（第32図）

本溝状遺構は第8トレンチ内X34～35Y14グリッドに位置している。東西方向にのびる溝状遺構で，真西に対して北に約10度偏している。最大幅4.50m，確認面からの最大深度1.06mを測る。

土層の堆積状況から，遺構の最下層では砂礫層が認められ，最低2度にわたって土石流に見舞われた状況が看取できる。砂礫層からは古墳時代前期頃の土器片が散在的に出土し，ローリング痕跡も著しい。さらに砂礫層の上層には黒褐色土やローム粒混じりのにぶい黄褐色砂質土などの水平堆積層が認められ，人為的な埋め立てを伴う改修がおこなわれた状況がうかがえる。その水平堆積層は版築状を呈し，その上面では硬化面の範囲が散在的に確認できる。このことから本来の流路を後世に道路として改修工事をおこなった可能性がある。また，北西端および南西端にみられる7・8・14・15層の土層堆積状況から，側溝を備えた道路状遺構の可能性もある。ちなみに本溝状遺構は，東西方向に延びているが，そのはるか延長線上には，現在の熊野神社が鎮座している。

その他の出土遺物としては，本溝状遺構南西端のSK21としたピットからは，土師器皿の大型破片が出土しており埋納ピット的な遺構であろう。そして遺構北東部の構築土上層のからは「北」と記した墨書土器が出土し，さらに南端側の構築土上層部からは馬歯が出土していることから，道路建設に際して地鎮などの祭祀行為がおこなわれたことが推測できる。

本溝状遺構の所属年代については，上層部における出土土器の年代から9世紀前半代の所産と考えておきたい。

SD7（第33・34図）

本溝状遺構は，第9および第10トレンチにわたって検出されている。検出された長さ約64m，幅0.48～1.50m，確認面からの深さは数cm～最大約0.30mを測る。蛇行はみられるものの，南北方向にほぼ直線的に延び，現在の耕作地境界線および農道にほぼ沿っている。遺構底面には粗砂および砂礫層が所々認められ，流水を

伴う水路であったと思われる。第９トレンチ内での土層観察の結果，本溝状遺構は２時期にわたる変遷が辿ることができ，それらを新・旧で分けている。

出土遺物は，中世段階の内耳鍋片，土師質捕鉢片や片口鉢片などが散在的に出土しており，遺構の所属年代は，その出土遺物の様相から，中世以降の所産と考えられる。

SD8（第34図）

本溝状遺構は，第10トレンチ内で検出されている。同トレンチ内を南北方向にほぼ縦断しており，SI39～42およびSK24，SD7を切り込んで構築されている。検出された長さ約32ｍ，幅0.49～0.90ｍ，確認面からの深さは0.16～最大約0.25ｍを測る。多少の蛇行はみられるものの，南北方向にほぼ直線的に延び，現在の耕作地境界線および農道にほぼ沿っている。溝内には人頭大および拳大の礫がほぼ全域にわたって混入しており，砂礫層も認められることから水路であったと思われる。所々で礫の集積も認められ，土石流的な洪水が起きた可能性も考えられる。

遺物は，溝内から散在的に出土しているが，礫の集積箇所ではややまとまって出土している。いずれも細片で流水によるローリングも顕著である。出土遺物としては，古墳時代の土師器片，奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器片，中世段階のカワラケ，土師質・須恵質の鉢片などが出土している。その出土遺物の様相から，中世以降の所産と考えられる。

SD9（第33・34図）

本溝状遺構は，第９トレンチおよび第10トレンチ内で検出されている。両トレンチ内をやや蛇行しながら南北方向に延びるが，現在の水路敷設に伴い破壊が進んでいる。第10トレンチ南壁セクションの観察では，本溝状遺構がSD7を切り込んで構築していることが判明している。また，第９トレンチ内の調査段階では，本溝状遺構をSD7として調査を進めており，遺物もSD7としてわずかであるが取り上げている。

検出された長さ約32ｍ，最小幅0.49ｍ，現状最大幅1.40ｍ，確認面からの深さは数cm～最大約0.18ｍを測る。覆土に小礫を含むことから，本溝状遺構も水路的性格を有するものと考えられる。出土遺物は少なく，調査途中で第９トレンチでSD７として取り上げた遺物の中に，土師器片や須恵器片が数点みられる程度である。所属年代についてはSD７との重複関係から，中世以降の所産としかいえない。

第４節　不明遺構（SX）

SX1（第６図）

第７トレンチのほぼ中央部分において，撹乱の合間に残存するかたちで硬化面が確認されている。北西から南東方向に細長い島状で確認され，最大幅0.8ｍを測る。この硬化面に伴っての出土遺物はないが，その周辺からはわずかに古墳時代前期の土器小片が出土している。竪穴建物跡に伴う硬化面の可能性は高いが，確証が得られないので不明遺構とした。

第4章　まとめ

第1節　古墳時代後期から平安時代中期にかけての出土遺物について

1．土器

今回の調査では，縄文時代，古墳時代後期，奈良時代，平安時代，中世にわたる土器が出土しているが，特に，律令制成立期段階の7世紀後半代から8世紀初頭段階の土器資料が比較的まとまって出土している。特にSI7号竪穴建物跡では7世紀後半代の古墳時代後期の土器資料が，またSI25号竪穴建物跡からは，奈良時代初頭段階の良好な土器資料がまとまって出土している。山梨県における古墳時代後期の土器様相については，坂本美夫・末木健両氏によって中央自動車道建設に伴って発掘調査された二之宮遺跡，姥塚遺跡などの出土資料を用いた土器編年を提示し，その後の古墳時代後期土器研究の基礎となった。その後はわずかずつながら当該資料も蓄積し，1995年には森原明廣氏が『東国土器研究』で，1999年には坂本美夫氏が『山梨県史』資料編2で編年をまとめられ，現在もそれら成果をもとに研究がおこなわれている。ここではこれら先行研究に依拠しながら，本遺跡の古墳時代後期から奈良時代初頭にかけての土器様相をまとめてみたい。

土師器

〈坏〉

坏A　扁平な半球形で丸味をおびた平底から口縁部にかけて丸味をもって立ち上がり，口縁端部がやや内湾するもの。SI7-1・4・5・6・7

坏B　器高がやや高く，扁平な半球形で丸味をおびた平底から口縁部にかけて丸味をもって立ち上がり，口縁部がやや強く内湾するもの。SI7-8

坏C　口縁部が外傾あるいは外反し，体部が半球形を呈するもの。SI7-9

坏D　丸味をおびた平底から直線的にハの字状に体部から口縁部へ立ち上がるもの。SI7-2・3

坏E1　坏形態で深い器形をとるいわゆる「畿内産土師器」で，奈良文化財研究所分類の坏Aに相当。

坏E2　丸味をおびた平底で浅い器形をとるいわゆる「畿内産土師器」で，奈良文化財研究所分類の坏Cに相当。なお，坏E1・2については，すべて破片資料が破片資料であり，高台が付くタイプとされる坏Bを把握することはできない。

坏F　盤状タイプ

坏G1　箱形形状で，体部外面のミガキ，体部および底部内面に暗文を施すが，「甲斐型坏」成立以前のもの。

坏G2　箱形形状のいわゆる「甲斐型坏」。体部外面下半のヘラ削り，体部外面の横位ないし波状のヘラミガキ，体部および底部内面に暗文を施す。

坏H　体部がハの字に立ち上がるいわゆる「甲斐型坏」で，体部内面のみに放射状に暗文を施すもしくは施さないもの。

坏I　口縁部が末縁形を呈するいわゆる「甲斐型坏」

〈皿〉

皿A　高台が付かない平底タイプのいわゆる「畿内産土師器」で，奈良文化財研究所分類の皿Aに相当。

皿B　いわゆる「甲斐型皿」器で，体部及び底部外面の回転ヘラ削り調整，底部および体部内面に同心円状暗文を施す。

皿C　暗文が消滅し，口縁端部が肥厚化，体部と底部との屈曲はなく，底部の調整は手持ちヘラ削りのもの。

〈甕〉

甕A　胴部が球形になる球胴甕。

甕B　胴部が長細くなる長胴甕。

甕C　いわゆる「甲斐型甕」で，口縁部が薄い縁のもの。

甕D　いわゆる「甲斐型甕」で，口縁部が肥厚化するもの。
その他　鉢，甑，円筒形土器

第1段階

7世紀後半段階の時期をあて，SI 7・26出土資料を中心とする。器種構成としては坏A，坏C，坏D，坏E2，甕A，甕B，甑などがみられる。坏に関しては須恵器坏蓋模倣のものがみられず，半球形の坏Aが主体を占めている。甕は球胴形，長胴形が混在している。調整方法はハケが主体である。甑は底部一本穿渡の甑であり，こうした底部をもつ甑の出土例はわずかで，唯一，二之宮遺跡133号住でみられる程度である。須恵器はTK-127段階の坏蓋があり，陶邑ないし湖西地域からの搬入が考えられる。

第2段階

7世紀末から8世紀初頭の時期をあて，SI 7・17・25などの出土資料を中心とする。器種構成としては，坏A，坏D，甕B，須恵器高台坏・壺などがみられる。半球形の坏Aは若干残る。甕Aは寸胴化が進んでおり，胴部下位に最大径をもつ形態が特徴的である。外面縦方向，内面横方向のハケ調整とナデ調整が施される。甕Bでは鉢状タイプのものがみられるようになり，甕Aと同様にハケ調整の後，ナデ調整を主体的におこなっており，その調整は入念に施している。須恵器は湖西地域と思われる甕と壺がみられる。

第3段階

8世紀前半代の時期をあて，SI18・19・22・33，SK13などの出土資料を中心とする。器種構成としては，坏F，坏G1，甕C，須恵器坏・蓋などがみられる。土師器坏類は半球形の坏は消滅し，盤状の坏が主体となり，体部外面のヘラミガキ，底部ないし体部内面には暗文を施す。甕は甕Bの長胴タイプで，ヘラ削りと粗いハケ，ナデ須恵器坏は底部回転糸切り無調整のものがみられる。

第4段階

8世紀後半代の時期をあて，SI15出土資料を中心とする。器種構成としては坏G2，甕C，須恵器坏・蓋などがみられる。甲斐型坏の成立期にあたり，体部下半のヘラ削り，体部外面の横位のヘラミガキ，体部内面および底部内面の放射状暗文などといった甲斐型坏の特徴すべてがみられる。土師器甕も長胴甕のみとなり，器壁も薄くなり，外面縦方向，内面横方向のハケ調整が施され，甲斐型甕の成立期にもあたる。須恵器は，回転糸切り無調整の坏がわずかにみられる他，擬宝珠つまみをもつ蓋がみられる。。

第5段階

9世紀半ばの時期をあて，SI 4・5出土資料を中心とする。器種構成としては坏H，皿B，甕Cなどがみられる。坏は体部がハの字状に立ち上がり，体部内面のみに放射状暗文がみられる。皿Bは体部下半および底部の回転ヘラ削り調整で，内面には同心円状の暗文がみられる。甕は第4段階と同様に，甲斐型甕の特徴を備えるものである。

第6段階

9世紀後半代の時期をあて，SI38・42出土資料を中心とする。器種構成としては皿C，甕Dなどがみられる。土師器皿は体部と底部の屈曲がなくなり丸味を帯びて立ち上がり，底部調整も前段階の回転ヘラ削りから手持ちヘラ削りとなる。甕は口縁部端部の肥厚化が進む。

以上のように，今回の発掘調査での金地蔵遺跡における古墳時代後期から奈良・平安時代の土器様相は6段階に区分できた。特に7世紀第3四半期から8世紀第2・3四半期という，律令制形成期から確立期における土器様相の一端を垣間見ることができた。山梨県全体でも当該時期の遺跡の調査例は少なく，出土土器資料の数も少なかった。律令制下における地域社会の成立を考古学的に追究するうえでは，本遺跡出土土器資料は欠かせない重要な歴史資料の一つである。かつて森原明廣氏は，7世紀後半代の土器様相は，「須恵器模倣坏の消滅」と「半球形坏の主体化」とし，「次代への遷移期」とした。今回の分析でも森原氏の分析・指摘のとおりの状況が捉えられた。森原氏も述べるように「次代（律令制成立期）の兆候をどこに見いだす

か」が重要な課題である。これについては，次に述べるように「畿内産（系）土師器」を今回の調査で抽出できたことは，この課題を解く一つの手がかりとなろう。

2．金地蔵遺跡出土の畿内産（系）土師器について

畿内産土師器とは，奈良文化財研究所編年の飛鳥Ⅰ～Ⅳ，平城Ⅰ～Ⅴという時期区分である7～8世紀代に，飛鳥・藤原地域や平城京で官人層らが中心に使用した食器で，精選された胎土でつくられ，丁寧な暗文やヘラミガキを施した土師器である（林部 1986・1992）。坏形態を中心に皿・高坏・鉢・蓋・壺などがあり，内弘美氏によれば，7世紀初頭に朝鮮半島から将来された金属製容器を模倣することにより成立したと考えられている（酒 1986）。

器種分類では，坏形態では平底で深い器形を坏A，丸底で浅いものを坏C，高台がつくものを坏Bとし，皿形態では平底のものを皿A，高台をつくものを皿Bとしている。坏A・坏B・坏C・皿Aには法量により器種の分化がみられるとし，大きい方からⅠ・Ⅱ・Ⅲと分類している。

畿内産土師器はその名のとおり，主に畿内で生産され，消費地も都城とその周辺地域に限定されていた土器であるが，畿内から遠く離れた東日本各地でも出土していることが林部均氏の研究によって明らかにされた。林部氏が1992年段階で集成した北陸・中部高地・東海地方からの東の地域を東日本として，当該地域から畿内産土師器が出土している遺跡数は67箇所に及んでいる。特に旧国の下総・武蔵・相模の3国に集中する傾向がみられるとしている。ちなみに1992年時点での集成では，甲斐国は東海道・東山道諸国の中で，唯一，畿内産土師器が出土していない地域となっており，山梨県内でも畿内産土師器を意識した積極的な報告はされていなかったといえる。

林部氏による全国各地で出土する畿内産土師器の定義については，以下のとおりである。

1）土器の形態，法量，製作技法（暗文・ヘラ磨きなど）の組合せが，畿内，とくに大和・河内で大量に出土する赤焼きで精製された粘土をつかった土師器と共通していること。

2）形態，法量，製作技法を個別に検討しても，各地域の在地でつくられた土師器のなかでは，その系譜がたどることのできないもの。

3）それぞれの地域では，きわめてわずかな量しか出土せず，在地の土師器のなかには定着しえないもの。

以上が，林部氏の畿内産土師器の定義である。氏は胎土分析などの自然科学分野の研究も重視する立場もあることを認識しながらも，畿内での当該土器の自然科学分析が進んでいない中にあっては，自然科学分野からの研究は慎重であるべきとして，まずは考古学的手法をよりどころにすべきという立場で分析に臨んでいる。

しかし近年では，愛知県一宮市所在の八王子遺跡出土の畿内産（系）土師器をめぐって，その器形や製作技法の観察，さらに八王子遺跡のみならず，東海地方各地の資料を集めて，鉱物および蛍光X線両分析手法による胎土分析を実施し，さまざまな視点から分析した結果，明らかに「畿内産土師器」ではない畿内産土師器が存在することもわかってきた（樋上 2001・2002）。金地蔵遺跡出土畿内産土師器でも，単純な肉眼観察でも在地産土師器の胎土と変わらないと判断できるような土でつくられているものが存在している。よってそれらを「畿内系土師器」と呼ぶべきとも思われるが，まだ「畿内産土師器」と「畿内系土師器」の認識は各研究者によってまちまちであるというのが現状であろう（福田 1999）。

本報告書では，こういった問題を内包していることを認識して，とりあえず「畿内産土師器」と呼称し，金地蔵遺跡出土の畿内産土師器をみていきたい。なお，器種分類については，林部分類を用い，本遺跡分類（坏E1・坏E2・Ⅲ A）は（　）で示しておく。

金地蔵遺跡から出土している畿内産土師器は以下のとおりである。

坏A（坏E1）－ SI7-13，SI14-1，SI18-1・2，SI22-1，SI22-2，SI26-1，SI28-1

坏C（坏E2）－ SI2-1，SI7-14・15，SD1-5

ⅢA（ⅢA）－ SI25-1，SD1（1トレ内）-6

不　明－ST24-4・5

上記の中で，比較的全容がわかる資料は，SI18出土の坏A（坏E1），SI25出土の皿Aである。SI18出土坏AⅠ（坏E1）は，推定口径20.5cmを測り大ぶりで，広めの底部からハの字状に口縁部が立ち上がり，端部はやや外反する。体部内面に二筒所屈曲をもち，体部外面は粗いヘラミガキを施し，内面は口縁部に横位のヘラミガキ，体部に2段の斜放射状暗文を施す。胎土は赤色粒子を含むものの，精選され緻密である。

SI25出土皿AⅠは，推定口径20cm，底径11.6cm，器高3.1cmを測り大ぶりである。広い平らな底部と短い口縁とからなり，口縁端部に面をもつ。体部および底部外面全体に粗いヘラミガキを施し，内面にはやや粗い螺旋状暗文と斜放射状暗文を施す。胎土には1mm以下～5mm大の小礫や白色粒子をやや多く含み，やや粗い。

その他，破片資料で坏A（坏E1）とした資料の特徴としては，体部内面に屈曲をもち，細身の斜放射状暗文を1段ないし2段施し，口縁端部を内側につまみあげているものがみられる。色調は赤みが強く，胎土は概してやや粗いものが多い。坏C（坏E2）もやや粗い斜放射状暗文を体部内面に，螺旋状暗文を底部内面に施し，体部画面にはヘラ削りを残したものが多い。

これら畿内産土師器が出土した各遺構の年代であるが，破片資料については後世の混入などが推測されるものの，SI7・22・24・25・26出土資料に関しては，供伴する他の出土遺物に大きな時期差が認められないことから，その竪穴の年代観をある程度反映していると考えられる。

よってSI7資料は，7世紀後半から7世紀末（飛鳥Ⅲ～Ⅳ期），SI22は8世紀前半（平城Ⅱ期），SI24は7世紀末から8世紀初頭（飛鳥Ⅳ期），SI25は7世紀末から8世紀初頭（飛鳥Ⅳ～平城Ⅰ期），SI26は7世紀後半代（飛鳥Ⅲ～Ⅳ期）と思われる。

このように金地蔵遺跡では，律令制移行期段階の7世紀後半代から，確立期の8世紀前半代にかけて畿内産土師器の存在が捉えられた。7世紀後半の在地産の土師器にも影響がみてとれるように，この時期の歴史的動向が土器様相にも反映されているようだ。本来の畿内産土師器は，林部氏が定義したように，精選された胎土，緻密そして繊細な暗文などが特徴的であるが，これまで観察してきた金地蔵遺跡の畿内産土師器は，胎土や技法的な点でも違和感があるものばかりである。『山梨県史』資料編2で掲載されている，内面に螺旋状暗文を施した笛吹市一宮町所在の西田町遺跡12号竪穴出土資料や，韮崎市所在の坂井弁ノ前遺跡4号住居出土資料の，体部内面に斜格子暗文とみこみ部に螺旋状暗文の施された資料も同様で，畿内産土師器の模倣ないし影響が考えられる。これら土器は，畿内以外で製作され，しかも畿内産土師器を模倣した土師器である「畿内産系土師器」と言っても過言ではない。しかし仮に模倣品だとしても，こうした土器が汎東日本的に存在していることは重視せねばならない。さらに畿内産土師器は，各遺跡の中で須恵器と同様に極めて客体的な搬入土器でありながら，本場の土器ではない状況をどのように捉えるのか。

近年，愛知県内出土の畿内産土師器を中心に，東海地方各地の資料を集め，鉱物と蛍光X線による胎土分析がおこなわれ（楠上2002），ごく一部は畿内産の可能性が強いものの，その他の多くが三重県内の各地で生産されたものが周辺地域にもたらされているという結果も報告されている。このことは，中央官人層が地方に赴いた時に，自ら持参した土器を使用したということが推測できるとともに，当該期においては，たとえ本物ではなくても，畿内すなわち都で使われている土器をもつということが，地方の支配者層にとってはいわばステータスシンボルの一つであり，特定階層の需要を満たすために小地域ごとに土器製作がおこなわれていた状況がうかがえる。

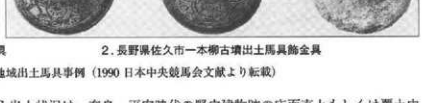
東日本各地における畿内産土師器の分布状況が示すものは，畿内から地方へというモノとして流通させた結果ではなく，ヒトが動くとともにモノも一緒に動き，その結果，各地域の事情によって模倣品が製作され，分布したした結果ではなかろうか。従来言われているように，中央官人層との人的交流の意味合いが強い遺物だと考えられる。

3．金地蔵遺跡出土の金銅製馬具について

SI7の床面直上から出土した金銅製馬具について，財団法人山梨文化財研究所保存科学室長の鈴木稔氏よりコメントをいただいたのでここに報告しておく。

不整円形を呈し，外径は26.5～26.7㎜，孔径は3.7㎜を測り中心から少々ずれている。重量は3.89gを測る。鋳造で原型をつくり，ヤスリ，タガネ，セン孔（不明）で整形している。材質は未測定だが，銅が大半を占め，他に鉛，錫も入っていると推測される。整形は比較的雑で，外縁部の厚みに差がある。八葉蓮華を刻むが，形にこだわらない自由な線を▲形のタガネで「なめくり」彫り（連続してウネウネと彫る感じ）の素朴段階の彫り。タガネのあとはU字形。セン孔は表面側からおこなっており，鍍金は整形の後，厚く丁寧で，縁の内側にまで回っており，裏の一部にも付着している。

以上のようなコメントを鈴木氏からいただいた。その用途については，発見当初，調度品などの飾金具ではないかと漠然と考えていたが，埼玉県埋蔵文化財調査事業団の田中広明氏に実見していただいたところ，馬具であるというご指摘を受けた。その事例を調べたところ，佐久市一本柳古墳と青森県八戸市鹿島沢古墳の出土馬具の中に，当該製品と酷似する事例を確認し，馬具として認定するに至った。面繋などの三繋に取り付けられた飾金具だと思われる。



1．青森県八戸市鹿島沢古墳出土馬具飾金具　　2．長野県佐久市一本柳古墳出土馬具飾金具

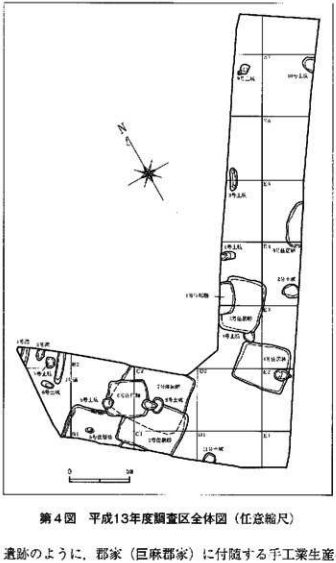
参考資料　他地域出土馬具事例（1990 日本中央競馬会文献より転載）

また，床面直上から一点だけという出土状況は，奈良・平安時代の竪穴建物跡の床面直上もしくは覆土中から皇朝十二銭や帯金具などが，一点だけ出土するという事例に酷似しており，これらは建物廃棄に伴う儀礼行為もしくは祭祀行為の際に埋納された可能性が高く，本事例も同じような状況が想定される。この竪穴の使用者が馬や馬具そのものを保有していていたのか，それとも他の所有者から譲り受けたものなのかは慎重に検討しなければならないが，いずれにしても，こうしたモノを保有できる階層，すなわち官人層などの有力者層と密接な関わりがあった人物が，本竪穴建物にいたことを示唆するものであろう。

第2節　本遺跡の性格をめぐって

今回の調査では，縄文時代中期後葉にその居住痕跡が認められ，続いて4世紀前半代のS字口縁甕を伴う古墳時代前期，7世紀後半から8世紀，9世紀の奈良・平安時代にかけて断続的な居住痕跡が認められた。特に7世紀末から8世紀初頭段階と，8世紀前半段階，8世紀後半段階，9世紀半ば段階，9世紀後半段階の居住痕跡が顕著であった。古墳時代前期の居住痕跡は，「北区」，「南区」とした今回の調査範囲全域に散在的ながら認められる。7世紀末から8世紀初頭段階および8世紀前半代の居住痕跡は，第4トレンチを中心とした「南区」に集中する傾向がみられるが，第9トレンチの西側での平成13年度調査区では当該期の良好な竪穴建物跡が検出されており，北区域にも散在的ながら広がりがみられる。さらに9世紀以降の平安時代における居住痕跡も，同じような状況を示している。

平成13年度調査では，縄文時代の土坑1基，古墳時代前期の竪穴建物跡1軒・土坑3基，奈良時代の竪穴建物跡1軒，平安時代の竪穴建物跡6軒・土坑3基・溝状遺構3条などが検出されているとされ（小坂



第４図　平成13年度調査区全体図（任意縮尺）

2003），このうち奈良時代の竪穴建物跡とされる「３号住居跡」からは，畿内産土師器坏Ｃが出土しているとともに，土師器甕では腹草型と思われる球胴甕と寸胴の長胴甕も出土しており，奈良時代でも初頭段階の様相がうかがえる。

平安時代では，１・３号溝状遺構がその検出状況から，今回調査区第８トレンチで検出されたSD３・４やSD６と同様に道路状遺構となる可能性もある。また墓壙とされる１号土坑は，須恵器大甕と９世紀半ば頃と思われる土師器坏が出土しており，報告書では遺物や覆土の状態から「墓壙」ではないかと報告されている。しかしその事実記載をみると，「１号土坑はテラスをもち，西側が一段低くなっている。その低い部分の上層に須恵器大甕の底部が据えられたように置かれていた。この須恵器の一部はその周辺から多量に出土しており，本来は完形であった可能性がある」とあり，この記載からは，人骨などが伴っていたというような事実はなく，墓壙とする根拠が薄い。「須恵器大甕の底部が据えられたように」という所見どおり，本遺構は須恵器大甕それ自体を掘り付けるための土坑とみるべきではないだろうか。山梨県内では，一般的な集落からの須恵器大甕の出土は極めて希であり，韮崎市所在の宮ノ前第５遺跡のように，郡家（巨麻郡家）に付随する手工業生産に関わる官衙関連集落遺跡や市的な遺跡からの出土にほぼ限定されている。他の遺跡においても須恵器大甕の存在が確認された場合には，その遺跡のあり方などに十分注意を払うべきだと考えている。

以上のように，金堀蔵遺跡は古墳時代以降，平安時代に至るまで連綿と集落が営まれ，SD３・４・６号溝状遺構のように道路状遺構の存在も想定される遺跡であり，中でも古墳時代後期以降，畿内産土師器や金銅製馬具，須恵器大甕など，律令官人層や官衙と密接に関わる遺構・遺物が各時期にわたってみられることから，本遺跡は，八代評家および八代郡家の成立期と存続期にかけて，官衙と密接に関わった拠点的な集落遺跡の一つであった可能性が高い。

今回の発掘調査は，道路拡幅部のみという極めて限定された範囲の調査ではあったが，数多くの竪穴建物跡をはじめとする遺構群が検出された。扇状地上の立地とは言え，当該地域においては極めて安定した土地条件であることから，当初から大規模集落等の存在は容易に予測できたが，今回の調査で遺構の密集度の高さを再確認することができた。

笛吹市が同市のキャッチフレーズとして「甲斐国千年の都」を謳っているが，確かに笛吹市八代町域は，古墳時代から奈良・平安時代，中世にかけての甲斐国の社会状況の変化を探るうえで，欠くことができない地域の一つである。古墳時代においては大遺古墳をはじめとする数多くの墳丘墓が存在し，律令制時代においては甲斐国府が置かれた甲斐国の中枢地でもある。特に今回の発掘調査地は，当該地域の政治・経済・信仰の実質的地域社会支配をおこなってきた八代郡家と極めて近接する位置にあることから，その成立段階である７世紀後半代から８世紀初頭段階の集落跡の存在が明らかになったことは非常に意義深い。評家・郡家

成立期の八代郡の様相を解明していく上で，貴重なデータを提供できたと考えている。

郡家は単なる行政執行機関だけではなく，ヒトやモノとの交流の拠点，経済，信仰，軍事，基幹産業などを統括する重要かつ先進的な場であり，律令政府はこうした郡家を拠点として地域支配を目指した。地域支配に際し支配者層の動向は，一般民衆にも強く影響を及ぼし，それは集落遺跡内の遺構・遺物群にも強く反映されている。一見等質的にみえる集落遺跡も，詳細な調査・分析をおこなうことによって，各集落遺跡の個性が浮かび上がり，地域ごとの特質を見いだすことも可能なのである。現段階では点的なデータに過ぎないが，今後の発掘調査によって面的データに十分なりうる。今回の発掘調査ならびに報告書の作成業務において，関係各位および関係諸機関より多大なるご理解，ご協力を賜り，心から感謝申し上げたい。

引用・参考文献

一宮町教育委員会他　1997『西田町遺跡調査報告書』一宮町文化財調査報告第23集

大阪府立近つ飛鳥博物館　2006『年代のものさし―陶邑の須恵器―』大阪府立近つ飛鳥博物館図録40

西　弘美　1986『土器様式の成立とその背景』真陽社

日本馬具大鑑編集委員会　1990『日本馬具大鑑』第1巻古代上 日本中央競馬会

菲崎市教育委員会・菲崎市遺跡調査会　1996『坂井堂ノ前遺跡』

樋上　昇　2001「県内遺構・遺物集成No.20 畿内産（系）土師器」『まいぶん愛知』No.64　愛知県埋蔵文化財センター

樋上　昇　2002「畿内系土師器をめぐる諸問題」『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財調査報告書第92集

林部　均　1986「東日本出土の飛鳥・奈良時代の畿内産土師器」『考古学雑誌』第72巻1号　日本考古学会

林部　均　1992「律令国家と畿内産土師器―飛鳥・奈良時代の東日本と西日本―」『考古学雑誌』第77巻4号　日本考古学会

笛吹市教育委員会　2005『夜長遺跡』笛吹市文化財調査報告第1集

福田明美　1999「千葉県におけるいわゆる畿内産土師器の再検討」『瓦衣千年―森郁夫先生還暦記念論文集』森郁夫先生還暦記念論文集刊行会

望月精司　2007「北陸西部地域における飛鳥時代の移民集落―移民系竪穴建物構造，集落経営の視点から―」『日本考古学』第23号　日本考古学協会

森原明廣　1995「山梨県地域における古墳時代後期の土器様相」『東国土器研究』第4号　東国土器研究会

八代町　1975『八代町誌』（上巻）

八代町教育委員会他　1999『堀川遺跡』八代町埋蔵文化財調査報告書第14集

八代町教育委員会他　2003『金地蔵遺跡』八代町埋蔵文化財調査報告書第15集

山梨県　1999『山梨県史』資料編2原始・古代2

山梨県教育委員会・日本道路公団　1987『二之宮遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第23集

山梨県教育委員会・日本道路公団　1987『姥塚遺跡・姥塚無名墳』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第24集

第1表　土器観察表

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI2	35	1	土師器	坏	(11.5)・　・―	口縁～体部	回転ナデ、ケズリ	回転ナデ、暗文	黒褐色、橙色	密(白色粒子、赤色粒子微、金色雲母)	良	内黒土師器、口縁端部付近を中心に黒変、内外面とも使用痕跡希薄
SI2	35	2	土師器	甕	―・　・―	口縁部	ハケメ	ハケメ	赤褐色	やや密(白・黒色粒子、赤色粒子微)	やや良	二次焼成を受け、器面の変色顕著
SI3	35	1	土師器	坏	(11.6)・―・	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	赤褐色	やや密(白・赤色粒子、金色雲母微)	やや良	使用痕跡にやや希薄
SI3	35	2	土師器	坏	―・・―	体部	ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	ミガキ、暗文	橙色	密(白・赤色粒子、黒色粒子微)	良	内黒系か、外面アバタ状に荒れる、外面にススヨゴレ
SI3	35	3	土師器	甕	(22.9)・　・―	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	にぶい赤褐色	やや粗(金色雲母、小礫少)	やや良	外面二次焼成を強く受ける
SI4	35	1	土師器	坏	(11.6)・(5.6)・3.8	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明黄褐色	やや粗(白・赤色粒子、雲母含む)	やや不良	内外面の摩滅・ヨゴレやや顕著、両面ススヨゴレあり
SI4	35	2	土師器	皿	―・(6.8)・―	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内面スス状ヨゴレ、体部外面に墨書あり、内外面の摩滅痕跡は希薄
SI4	35	3	土師器	坏	―・(4.4)・―	底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	良	胎土マーブル状、内面アバタ状に器面荒れる
SI4	35	4	土師器	坏か	・―・	体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅痕跡希薄
SI4	35	5	青磁	蓮弁文碗	(13.4)・―・―	口縁部	蓮弁文		灰オリーブ色	密(白色粒子)	良	素地灰色、失透した青緑色釉
SI4	35	6	土師器	甕	(16.2)・―・	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	褐色	やや粗(白色粒子、金色雲母、黒色雲母少、小礫)	良	
SI4	35	7	土師器	甕	―・(6.0)・―	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	赤褐色	粗(白・黒色粒子、金色雲母)	やや不良	内外面とも強く二次焼成を受ける、外面の摩滅顕著
SI4	36	8	土師器	甕	―・―・―	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	外：黒～褐色 内：黄褐色	やや粗(赤・黒色粒子少、金色雲母、小礫多)	良	外面のスス付着、内面の荒れやや顕著
SI4	35	9	土師器	甕	―・・―	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：明褐色	やや粗(赤・黒色粒子含、金色雲母多)	やや良	内面の荒れ顕著
SI4	36	10	土師器	甕	・―・	胴部	ハケメ	ハケメ	外：暗褐色 内：褐色	やや粗(赤・黒色粒子少、金色雲母少)	良	外面のスス付着顕著
SI4	35	11	土師器	S字口縁甕	(12.9)・―・―	口縁～肩部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	橙色、暗灰黄色	密(白色粒子、赤・黒色粒子少、金色雲母含)	やや良	二次焼成受ける、内面ススの付着顕著
SI4	35	12	土師器	S字口縁甕	(12.4)・―・―	口縁～肩部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	黒色、明褐色	密(白色粒子、金色・黒色雲母)	良	二次焼成受ける、口縁端部スス付着顕著
SI4	35	13	須恵器	壺	・(9.0)・―	底部～高台部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	やや密(白・黒色粒子)	良	底部内面・高台端部に自然釉付着、使用痕跡は希薄
SI4	35	14	須恵器	壺	―・　・―	胴部	回転ナデ	回転ナデ	暗灰黄色	やや密(白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄
SI4	35	15	土師器	筒形土製品	(22.4)・　・―	口縁～胴部	ハケメ、ナデ 口縁部ハケメ	ナデ、指頭痕	赤褐色	密(金色雲母多、小礫少)	良	内外面とも摩滅痕跡は希薄
SI4	36	16	土師器	筒形土製品か	―・(12.4)・―	底部	ケズリ 底部ケズリ	ケズリ	赤褐色	やや密(白・赤色粒子)	やや不良	内面摩滅やや顕著
SI5	36	1	土師器	坏	(10.8)・―・	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母微)	やや良	内外面ともに摩滅痕跡は希薄、内面微量にススヨゴレ
SI5	36	2	土師器	坏	(10.0)・―・―	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母微)	やや良	内外面ともに摩滅痕跡は希薄
SI5	36	3	土師器	坏	―・(5.8)・―	体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面スス状ヨゴレやや顕著
SI5	36	4	土師器	坏	―・　・―	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ、暗文	明赤褐色	密(白色粒子、金色雲母微)	良	内黒系、内面スス状ヨゴレやや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
S15	36	5	土師器	甕	—・—・	底部	底部木葉痕		外：黒褐色 内：橙色	やや粗(白色粒子多)	不良	
S16	36	1	土師器	甕	(11.9)・—・—	口縁～胴部	ハケメ、ミガキ	ハケメ、指頭痕、ミガキ	外：暗褐色 内：明赤褐色	密(白色粒子、赤色粒子少)	やや良	口縁部内外面の摩滅顕著、胴部全体ていねいなミガキ、二次焼成を受ける
S16	36	2	土師器	直口壺	(12.2)・　・—	口縁～頸部	ハケメ、ミガキ、赤彩	ハケメ、ミガキ、赤彩	暗赤褐色	密(白・黒色粒子)	良	内外面に赤彩施す、ていねいなつくり、二次焼成受ける
S16	36	3	土師器	器台か	—・　・—	脚部	ミガキ	ハケメ	外：橙色 内：明灰黄色	密(白・黒色粒子・赤色粒子少、金色雲母)	良	現存で孔6個確認、二次焼成を弱く受け、外面にはウルシ状に付着物あり、外面スス付着
S16	36	4	土師器	台付甕	—・—・	脚部	ハケメ	ハケメ	赤褐色	粗(白色粒子)	不良	5と同一、接点なし、二次焼成を受け内外面の摩滅顕著
S16	36	5	土師器	台付甕	—・8.7・	胴部～脚部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：橙色 内：赤褐色	粗(白・黒色粒子、金色雲母微)	不良	4と同一、接点なし、二次焼成受け、内外面の摩耗やや顕著
S17	36	1	土師器	坏	13.8・2.0・3.8	ほぼ完形	ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色、黒色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面ともに使用痕は希薄だが、内外面スス状ヨゴレやや顕著
S17	36	2	土師器	坏	10.4・—・	口縁～胴部	回転ナデ、ミガキ、ケズリ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	良	手捏状の粗いつくり、外面の口縁部～体部上半にかけてスス状ヨゴレ顕著、内外面底部にススヨゴレ
S17	36	3	土師器	坏	(10.2)・(5.0)・(4.1)	口縁～底部	回転ナデ、ケズリ、ミガキ	ヘラナデ	褐色	やや粗(白色粒子、角閃石、小礫)	やや良	底部外面および内面、アバタ状に器面荒れる
S17	36	4	土師器	坏	(12.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	外：黒褐色、にぶい赤褐色 内：黒褐色、褐色	やや粗(赤・白色粒子、金色雲母、小礫)	良	二次焼成を受ける、底部内面摩耗やや顕著
S17	36	5	土師器	坏	(10.8)・—・	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	外：にぶい赤褐色、暗赤褐色 内：赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	二次焼成を受ける、底部内面摩耗やや顕著、外面口縁部スス付着
S17	36	6	土師器	坏	(14.8)・　・—	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ、線刻	回転ナデ、線刻	外：赤褐色、黒色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	やや良	体内外に線刻あり、二次焼成を受ける、内面摩耗やや顕著
S17	36	7	土師器	坏	(17.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色、黒褐色	粗(白・赤色粒子、金色雲母)	不良	二次焼成を強く受ける、口唇部の摩耗顕著
S17	36	8	土師器	坏	11.8・3.0・4.6	ほぼ完形	ヘラケズリ、ミガキ、黒彩	回転ナデ、ミガキ、黒彩	暗褐色、黒色	密(白・赤色粒子)	良	内外面ともに使用痕跡は希薄だが、内外面器面全体におけるウルシ状もしくはタール状付着物顕著、口縁部の一部に二次焼成あり
S17	36	9	土師器	坏	13.6・2.6・4.4	ほぼ完形	回転ナデ、ミガキ、ケズリ、黒彩	回転ナデ、ミガキ、黒彩	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	不良	口縁端部全体の欠け顕著、内外面とも二次焼成を受けアバタ状に器面荒れる
S17	36	10	土師器	坏	(13.4)・—・(3.9)	口縁～底部	回転ナデ、ミガキ、ヘラナデ、黒彩 底部ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ、黒彩	外：暗褐色 内：黒褐色	密(白・赤色粒子)	良	内外面わずかに摩耗痕跡みられる、黒色土器
S17	36	11	土師器	坏	(11.4)・—・	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ、黒彩	回転ナデ、ミガキ、黒彩	にぶい橙色	密(白・赤色粒子)	不良	口唇部内面の摩耗非常に顕著、外面の摩耗も顕著、黒色土器
S17	36	12	土師器	坏	8.4・4.6・4.7	完形	ヘラナデ、ナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	明黄褐色、橙色	粗(白色粒子)	不良	手捏状の粗いつくり、内面スス状ヨゴレとカキ目状擦痕顕著
S17	37	13	土師器	坏	(14.5)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	良	畿内産土師器、内外面ともにスス状ヨゴレやや顕著
S17	37	14	土師器	皿か	(17.5)・—・	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：明赤褐色 内：赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	畿内産土師器、口唇部内面の摩耗やや顕著
S17	37	15	土師器	坏	・(5.4)・—	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、ミガキ	外：赤褐色 内：暗赤褐色	密(白・赤色粒子、角閃石)	良	畿内産土師器、内外面ともにスス状ヨゴレやや顕著
S17	37	16	土師器	坏	—・(7.0)・—	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ、線刻	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤色粒子)	やや良	底部に線刻あり、底内の摩耗やや顕著
S17	37	17	須恵器	蓋	(11.4)・(2.0)・3.8	体部～口縁部	回転ナデ 底部ケズリ	回転ナデ	外：にぶい黄色、黄灰色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	良	TK217古か、内外面ともに摩耗痕跡は希薄だが、口縁部端部の摩耗はやや顕著
S17	37	18	土師器	甕	25.6・—・	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：暗赤褐色 内：暗褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母微、小礫)	良	二次焼成を受けるがあまり顕著ではない

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI7	37	19	土師器	甕	(22.8)・—・—	口縁~胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ、指頭痕	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母多)	やや不良	二次焼成を受けたためか外面の摩滅やや顕著、内面ススヨゴレ
SI7	37	20	土師器	甕	(33.4)・—・—	口縁~胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ、指頭痕	外：にぶい黄橙色、黒褐色 内：褐色	密(白色粒子、赤色粒子少・金色雲母)	良	内外面ともにススの付着顕著
SI7	37	21	土師器	甕	(31.0)・—・—	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	不良	二次焼成を受け、器面のアレ顕著
SI7	38	22	土師器	甕	—・—・—	頚部~胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：橙色、黒色 内：橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	やや良	二次焼成を受け、内外面へのスス付着顕著、体部内面下半の摩耗やや顕著
SI7	38	23	土師器	甕	—・—・—	胴部	ハケメ	ハケメ	外：明赤褐色、暗赤褐色 内：橙色、灰褐色	密(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受けるが、摩滅痕跡はあまりみられない
SI7	38	24	土師器	甕	—・8.8・—	底部	ハケメ 底部木葉痕	ヘラナデ	暗赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫やや多)	良	二次焼成を強く受け、器面の荒れ顕著
SI7	38	25	土師器	甕	—・(9.0)・—	胴部~底部	ハケメ、ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ハケメ、ヘラナデ	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面ともにススの付着やや顕著
SI7	38	26	土師器	甕	—・10.6・—	底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	やや良	二次焼成を受け、灰の付着・器面の荒れ顕著
SI7	38	27	土師器	甕	(30.1)・—・—	口縁~胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：明赤褐色 内：赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子少、黒色粒子、小礫)	不良	須恵器甕を模倣か、二次焼成を受けたためか内外面とも赤みが強い、外面肩部を中心に摩滅顕著
SI7	38	28	土師器	甕	(23.6)・—・—	口縁~胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	赤褐色、黒褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を強く受け、外面の剥落顕著
SI7	38	29	土師器	甕	(39.4)・—・—	口縁~胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	外：赤褐色、黒色 内：明赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母微)	やや良	30と同一か、二次焼成を受け、外面のスス付着と変色、内面の器面の荒れやや顕著
SI7	39	30	土師器	甕	—・—・—	胴部	ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：橙色、黒色 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	やや良	29と同一か、二次焼成を受け、内外面のスス付着顕著
SI7	39	31	土師器	小型壺	10.7・6.2・15.0	口縁~底部	ヘラナデ、ハケメ 底部木葉痕	ヘラナデ、ハケメ	外：オリーブ褐色、黒褐色 内：明黄褐色	粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	やや不良	胴部下半から底部にかけて強く二次焼成を受ける、底部内面スス付着顕著
SI7	39	32	土師器	小型甕	(15.8)・—・—	口縁~胴部	ヘラナデ、ナデ	ヘラナデ	橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母微)	良	二次焼成を受け、口縁部内外面へのスス付着顕著
SI7	39	33	土師器	小型甕	—・—・—	胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	明赤褐色	粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	不良	二次焼成を受け、外面の剥落非常に顕著
SI7	39	34	土師器	甕	—・(8.0)・—	底部	ヘラナデ ヘラケズリ	ヘラナデ	外：黄橙色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白色粒子多・黒色粒子、小礫)	やや良	二次焼成を弱く受けている
SI7	39	35	土師器	甕	—・7.4・—	底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	外：橙色 内：黒褐色	やや粗(白・赤色粒子、金色雲母微、小礫)	不良	二次焼成を受け、外面の赤化顕著
SI7	39	36	土師器	甕	—・(9.6)・—	底部	ハケメ、ヘラナデ 底部木葉痕	ハケメ、ヘラナデ	外：暗赤褐色 内：赤褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面の変色やや顕著
SI7	39	37	土師器	甕	—・7.0・—	底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	明赤褐色	密(白・赤色粒子、小礫少)	やや良	外面強く二次焼成を受け、器面の荒れ非常に顕著
SI7	39	38	土師器	甕	—・(9.0)・—	口縁部	ヘラケズリ 底部木葉痕	ヘラナデ	外：暗赤褐色 内：黒褐色、褐色 底：黒色	密(白・黒色粒子、赤色粒子微、小礫)	やや良	二次焼成を受け、器面の赤化顕著
SI7	39	39	土師器	甑	—・—・—	胴部	ハケメ	ヘラナデ	外：暗赤褐色 内：にぶい赤褐色	密(白・黒色粒子)	良	二次焼成を受けるが摩滅痕跡はあまりみられない、底部一本線
SI7	39	40	須恵器	壺	(11.0)・—・—	口縁~胴部	回転ナデ、タタキ、自然釉	回転ナデ、ヘラケズリ	外：灰色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	良	胴部下半内面褐色状黒ズミやや顕著
SI7	39	41	須恵器	壺	(12.4)・—・—	口縁~頚部	回転ナデ、自然釉	回転ナデ	外：灰色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも磨耗痕跡は希薄
SI7	40	42	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ、自然釉	当て具痕、ナデ	外：灰色 内：灰色	密(白・黒色粒子、小礫微)	良	内外面とも磨耗痕跡は希薄だが、内面は褐色状のコゲが薄く付着

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )ー復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI7	40	43	須恵器	瓮	・—・—	肩部	タタキ	当て具痕、ヘラナデ	外：灰色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	やや良	内外面とも磨耗痕跡なし、42と同一
SI7	40	44	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ	ヘラケズリ、ヘラナデ	外：灰色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	やや良	内外面とも磨耗痕跡はないが、二次焼成を受け器面一部変色、42と同一
SI7	40	45	須恵器	壺	・—・—	胴部	タタキ	ヘラナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも磨耗痕跡はないが、スス状ヨゴレやや顕著、42と同一
SI7	40	46	須恵器	瓮	—・—・	胴部	タタキ	当て具痕、ヘラナデ	外：灰白色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	やや良	内外面とも磨耗痕跡なし、42と同一
SI7	41	47	陶器(中世)	甕	—・ ・—	肩部	ヘラナデ、自然釉	ヘラナデ	外：にぶい褐色、暗オリーブ白色 内：にぶい黄色	密(白色粒子、赤・黒色粒子微)	良	
SI12	41	1	土師器	坏	(15.0)・ ・—	口縁～体部	ミガキ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母微)	良	畿内系、口唇部の摩滅やや顕著
SI12	41	2	土師器	甕	—・(7.4)・	胴部～底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	明赤褐色、暗灰黄色	やや粗(赤色粒子少、小礫やや多)	やや良	二次焼成を強く受け、内面の摩滅顕著、外面に白色粘土状付着物
SI13	41	1	土師器	坏	(14.2)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	外：明赤褐色 内：明黄褐色	やや密(白・赤・黒色粒子、金色雲母微)	良	二次焼成を受け、器面の変色やや顕著、口唇部の摩滅顕著、内面微量にスス状ヨゴレ
SI13	41	2	土師器	坏	(11.4)・ ・—	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	明黄褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母微)	良	二次焼成を受け外面器面部分的に剥落、内面の使用痕跡は希薄
SI13	41	3	土師器	坏	(12.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子	良	二次焼成を受け、外面にアバタ状に部分的に荒れ、内面にスス状ヨゴレやや顕著
SI13	41	4	土師器	坏	—・(10.8)・	体部～底部	回転ナデ 底部ナデ	回転ナデ、線刻	外：橙色 内：黒褐色、にぶい黄橙色	密(白・赤色粒子、黒色粒子少、金色雲母微)	良	ていねいなつくり、二次焼成を受け器面変色顕著
SI13	41	5	須恵器	坏	(13.6)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰色、灰白色	密(白色粒子、雲母含、小礫少)	やや良	内外面の摩滅やや顕著
SI13	41	6	須恵器	坏	(14.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色、灰色	密(白色粒子、雲母含、小礫少)	やや不良	外面摩滅やや顕著
SI13	41	7	須恵器	坏	・(7.2)・—	底部	回転糸切り	回転ナデ	黄灰色	密(白色粒子多、雲母)	不良	内面使用痕跡あり、外面摩滅顕著
SI13	42	8	土師器	甕	(24.8)・—・—	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	褐色、明赤褐色	やや粗(金色雲母少、小礫やや少)	良	二次焼成を強く受ける、外面スス付着
SI13	42	9	土師器	甕	・—・—	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	赤褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、外面の摩滅がやや顕著
SI13	42	10	土師器	甕	—・ ・—	胴部	ナデ、ヘラケズリ	ハケメ、ナデ、ヘラケズリ	外：橙色 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	やや不良	二次焼成を受け、外面の器面の荒れ・剥離顕著
SI13	42	11	土師器	甕	—・(10.0)・—	胴部～底部	ヘラナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ	外：灰黄褐色 内：橙色	やや密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、外面白色粘土付着顕著
SI13	42	12	土師器	甕	—・(10.6)・—	胴部～底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	外：褐色 内：暗灰黄色	やや密(白・黒色粒子)	やや良	二次焼成を受け、内外面にスス付着顕著
SI13	42	13	土師器	甕	・—・—	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：赤褐色 内：明赤褐色、にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子)	良	二次焼成を受ける、内面の摩滅やや顕著
SI13	42	14	土師器	甕	・—・—	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、指頭痕	明赤褐色、橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母少)	良	内外面のスス付着顕著
SI14	42	1	土師器	坏	(15.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白色粒子、雲母)	良	畿内産土師器、内外面の使用痕は希薄
SI15	42	1	土師器	坏	11.4・7.0・4.8	口縁～底部	回転ナデ、ミガキ、ヘラケズリ、線刻 底部回転糸切り、ヘラケズリ	暗文	明赤褐色	密(赤、黒色粒子)	良	外面に線刻あり、内外面底部付近と中心に器面やや荒れる、内面スス状ヨゴレやや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI15	42	2	土師器	坏	・(8.0)・—	底部	回転ナデ、ミガキ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	暗文	外：明赤褐色 内：明赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	底部外面摩滅やや顕著、内面の使用痕跡は希薄だが器面が褐色に変色、底部にスス付着
SI15	42	3	須恵器	坏	12.4・—・—	口縁〜体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白色粒子)	やや不良	軟質、内外面ともに摩滅・ヨゴレやや顕著
SI16	42	4	土師器	甕	(34.0)・ ・—	口縁〜胴部	ナデ、ハケメ	ナデ	明褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	やや良	内外面ともやや二次焼成を受けるが、器面の荒れはあまりみられない
SI16	42	5	土師器	甕	・ ・	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、指頭痕	にぶい赤褐色	やや密(白・赤・黒色粒子、金色雲母多)	良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の変色・ススの付着やや顕著
SI15	42	6	土師器	甕	・ ・—	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	外：褐色 内：明褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫やや多)	良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の変色・ススの付着やや顕著
SI15	43	7	土師器	甕	—・—・—	胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	外：にぶい赤褐色 内：赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の変色・ススの付着やや顕著
SI15	43	8	縄文	把手	—・—・—	把手部	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ	黄褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	やや不良	
SI16	43	1	土師器	坏	・9.4・—	底部	ヘラケズリ、ミガキ 底部ヘラケズリ、ミガキ	暗文	明赤褐色	密(赤・黒色粒子、金色雲母少)	良	内黒、内外面とも使用痕跡希薄、内面スス状ヨゴレやや顕著
SI16	43	2	土師器	甕	13.4・ ・—	口縁部	ナデ	ナデ・ハケメ	明褐色	密(白・赤・黒色粒子・雲母)	良	二次焼成を受け、内外面の器面剥落・ススの付着顕著
SI16	43	3	土師器	甕	(20.4)・ ・	口縁部	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	二次焼成を受け、内外面とも赤褐色化顕著
SI16	43	4	土師器	甕	—・—・	胴部	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	外：赤褐色 内：赤褐色、暗褐色	密(白・赤、黒色粒子、小礫少)	良	内外面とも強く二次焼成を受ける、内面ススの付着顕著
SI16	43	5	土師器	甕	—・—・—	胴部	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	やや良	内外面とも強く二次焼成を受け、器面赤褐色化顕著
SI16	43	6	土師器	甕	・8.5・—	底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ナデ	外：にぶい赤褐色、黒褐色 内：赤褐色	やや密(白・黒色粒子、雲母)	やや良	外面強く二次焼成を受け、スス・炭の付着顕著
SI16	43	7	土師器	甕	・(12.0)・—	底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	外：黒褐色、褐色 内：暗褐色	やや密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	やや良	二次焼成強く受ける
SI16	43	8	土師器	甕	—・ ・	胴部	ハケメ	ハケメ、ナデ	外：明褐色、黒色 内：赤褐色、灰褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	被熱のため内面やや変化
SI16	43	9	須恵器	甕か	・ ・—	胴部	タタキ	ナデ	灰白色	密(白色粒子多、黒色粒子)	良	
SI17	43	1	土師器	坏	(11.0)・—・—	口縁〜体部	回転ナデ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色	粗(白・赤・黒色粒子)	不良	内外面とも器面の剥落顕著
SI17	43	2	土師器	坏	(16.0)・—・—	口縁〜体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	黒色	やや粗(白・赤色粒子、金色雲母)	やや不良	内外面とも二次的に黒色化する
SI17	43	3	土師器	鉢	(17.0)・—・—	口縁〜体部	回転ナデ、暗文	回転ナデ、暗文	外：明黄褐色 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも二次焼成を受け、外面のスス状ヨゴレ・器面の変色やや顕著
SI17	43	4	須恵器	高台坏	(14.8)・(11.0)・(3.7)	口縁〜高台部	回転ナデ、自然釉	回転ナデ	外：灰白色、灰オリーブ色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	良	口縁端部の摩滅と高台端部の欠け顕著、内面スス付着
SI17	44	5	土師器	甕	21.0・10.0・35.5	口縁〜底部	ヘラケズリ、ナデ 底部木葉痕	ヘラケズリ、ナデ	外：橙色、黒褐色 内：橙色	密(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	やや良	外面胴部炭化物付着、外面のススの付着は破砕した後付着した可能性が大きい、内外面とも二次焼成やや強く受ける
SI17	44	6	土師器	甕	(34.6)・—・—	口縁〜胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	明黄褐色、橙色、黒色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面ともスス付着、二次焼成による器面の変色顕著、口縁部のつくり雑
SI17	44	7	土師器	甕	(20.8)・—・—	口縁〜胴部	ハケメ、ヘラナデ	ヘラナデ、ヘラケズリ	外：明赤褐色、褐色 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	やや良	内外面ともにスス付着、二次焼成による器面の変色顕著、内面は摩滅顕著
SI17	44	8	土師器	甕	(10.8)・—・—	口縁〜胴部	ヘラナデ、ハケメ	ハケメ、ヘラナデ	黄橙色	粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	やや不良	内外面ともに摩滅やや顕著、二次焼成を受けた痕跡希薄

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )ー復元値、[ ]ー現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI17	44	9	土師器	甕	(33.0)・—・—	口縁部	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	外：にぶい赤褐色 内：明黄褐色	密(白・黒色粒子、石英、小礫)	良	外面、被熱後におけるススの付着顕著
SI17	44	10	土師器	甕	(37.0)・—・—	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：褐色、黒色 内：明褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	不良	内外面ともに二次焼成を受け、外面スス付着、内面の器面変色顕著
SI17	45	11	土師器	甕	(26.0)・—・—	口縁～胴部	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	外：明赤褐色 内：橙色	やや粗(白・赤色粒子、金色雲母、小礫)	やや良	内外面ともにスス付着、二次焼成による器面の変色顕著、胴部下半内面の摩滅顕著
SI17	45	12	土師器	甕	(10.0)・—・	口縁～胴部	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面ともに二次焼成による器面の変色顕著
SI17	45	13	土師器	甕	—・(9.8)・—	胴部～底部	ヘラケズリ、ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ	外：明赤褐色、暗赤褐色 内：橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	やや良	内外面とも二次焼成を受け、外面、スス・炭付着、内面の摩滅顕著
SI17	45	14	土師器	甕	・(5.4)・—	胴部～底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ナデ、指頭圧調整	橙色、暗赤褐色	密(白・黒色粒子、赤色粒子微)	やや良	内外面ともに二次焼成を強く受け、器面の変色・スス付着顕著
SI17	45	15	土師器	甕	・(10.0)・—	底部	ヘラナデ	ヘラナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面ともに二次焼成を受け、スス・炭の付着やや顕著
SI17	45	16	土師器	甕	—・(9.8)・—	底部	ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ヘラケズリ、ヘラナデ	外：赤褐色 内：橙色、黒褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも二次焼成受け、器面の変色、スス付着、摩滅やや顕著
SI17	45	17	土師器	甕	—・(4.4)・	底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	外：明褐色 内：にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、ススの付着顕著、14と同一だが接点なし
SI17	45	18	須恵器	長頸壺	—・—・—	頸部	回転ナデ、沈線、自然釉	回転ナデ	灰白色、オリーブ黒色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともに使用痕跡希薄
SI17	45	19	須恵器	甕か壺	—・—・—	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	やや良	内面の使用痕跡希薄
SI18	45	1	土師器	坏	(20.6)・—・(5.6)	口縁～底部	ヘラケズリ、ミガキ 底部ヘラケズリ、ミガキ	ミガキ 底部ミガキ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	盤内面土師器、内外面アバタ状に器面荒れ、内面スス状コゲレ顕著、底部内面にもミガキ施す
SI18	45	2	土師器	坏か	—・—・—	底部	底部ミガキ、線刻	底部ミガキ、線刻	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	良	盤内面土師器、内外面に線刻あり、内面の摩滅やや顕著で、線刻もやや不鮮明
SI19	45	1	土師器	坏	・(9.0)・—	底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内面の摩滅やや顕著
SI19	45	2	土師器	坏	・　・—	底部	ナデ 底部線刻	ナデ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内外面ともに摩滅やや顕著、底部に線刻あり、線刻のうち一本は深く刻されている
SI19	45	3	土師器	甕	—・—・—	胴部	ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、内外面ともに摩滅やや顕著
SI20	46	1	土師器	埦	(13.0)・—・—	口縁～体部	ナデ、ミガキ、ヘラケズリ	ナデ、ミガキ	橙色	緻密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面ともに黒彩を施す、内面摩滅やや顕著
SI20	46	2	土師器	埦	(14.6)・—・—	口縁～体部	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	明褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面にウルシ状付着物
SI20	45	3	土師器	甕	—・—・—	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明褐色	やや密(白・黒色粒子、大粒の赤色粒子、金色雲母)	良	外面スス付着顕著
SI20	46	4	土師器	甕	・—・—	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	やや密(白・赤・黒色粒子、2.3mmの白い礫多し)	良	内外面とも二次焼成受ける
SI20	46	5	土師器	S字口縁甕	(11.0)・—・—	口縁部	ナデ、ハケメ	ナデ、指頭痕	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面ともスス付着顕著
SI20	46	6	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ	ケズリ、ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面の摩滅痕跡は希薄、内面のオコゲやや顕著
SI22	46	1	土師器	坏	—・(12.0)・	底部	ヘラケズリ、ナデ、ミガキ 底部ヘラケズリ、ミガキ	ナデ、暗文、ミガキ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	盤内面土師器、底部外面縁部および底部内面の摩滅やや顕著
SI22	46	2	土師器	坏	—・—・—	体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、ミガキ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	盤内面土師器、内外面とも摩滅やや顕著
SI22	46	3	土師器	埦	—・　・	底部	ヘラケズリ、ミガキ 底部回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、ミガキ	黒褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも黒彩施す、内面の摩滅やや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI22	46	4	須恵器	坏	(12.4)・(9.8)・4.1	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰褐色	やや粗(白・黒色粒子、角閃石)	良	底部内面の摩滅顕著、口縁部を除く内面および外面の体部下半～底部全面にかけて黒変
SI22	46	5	須恵器	坏	－・(7.3)・－	底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	良	内面の摩滅やや顕著
SI22	46	6	須恵器	高台坏	・(6.8)・－	高台部	回転ナデ 底部付高台	回転ナデ	灰色	やや粗(白色粒子少量含む)	良	高台端部の摩滅やや顕著
SI22	46	7	土師器	甕	(22.0)・－・－	口縁部	ナデ、ハケメ	ハケメ	外：にぶい黄橙色 内：褐灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を強く受ける、口縁端部～内面にかけてスス付着顕著
SI22	46	8	土師器	甕	－・－・	胴部	ヘラケズリ、ナデ	ヘラナデ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を強く受け、内外面の変色顕著
SI22	46	9	土師器	甕	－・・－	胴部	ヘラケズリ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：にぶい黄橙色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面の変色、ススの付着顕著
SI22	46	10	土師器	甕	－・(8.0)・	底部	ナデ 底部木葉痕	ナデ	にぶい黄橙色	粗(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を強く受ける、内面器面の剥落顕著
SI22	46	11	須恵器	坏	(19.0)・－・－	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面の使用痕跡にやや希薄
SI22	47	12	須恵器	甕	－・・・－	胴部	タタキ、釉	ナデ、当て具痕	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅痕は希薄
SI22	47	13	須恵器	壺	－・・－	肩部	ナデ、釉	ナデ	灰黄色	密(白・黒色粒子)	良	内面ヨゴレやや顕著
SI22	47	14	須恵器	壺	－・・－	肩部	タタキ	ナデ、当て具痕	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内面のヨゴレやや顕著
SI22	47	15	須恵器	甕か壺	－・－・－	胴部	タタキ、線刻	ナデ	灰黄色	やや粗(白・黒色粒子)	良	内面滑らか、磨り痕あり、割れ口も3面磨り痕あり、外面のタタキメも磨耗により潰れる、外面に線刻あり
SI22	47	16	土師器	紡錘車	孔直径0.8・短径3.1・長径4.3・厚2.0・重43g		ナデ 底面ナデ	ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子)	不	ていねいなつくり、厚台形形式、長径側の面取りなし、長径側面の摩滅やや顕著
SI22	47	17	縄文	深鉢	－・・－	胴部	ナデ	ハの字文	明黄褐色	密(白・黒色粒子・角閃石)	良	曽利V
SI23	47	1	縄文	広口壺か	－・・・－	頸部	横位沈線、ハの字文か	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母、角閃石)	良	内外面ともに摩滅やや顕著
SI23	47	2	縄文	深鉢	－・・－	胴部	隆帯、ハの字文	ナデ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母、角閃石)	良	内外面ともに摩滅顕著
SI24	47	1	土師器	坏	(9.0)・－・－	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内面アバタ状に器面の荒れ顕著
SI24	47	2	土師器	坏	(11.2)・・－	口縁～体部	回転ナデ、手持ちヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	不	内外面ともに使用痕跡希薄
SI24	47	3	土師器	坏	・－・(6.4)	底部	回転ナデ、手持ちヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文、ミガキ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄だが、スス状オコゲやや顕著
SI24	47	4	土師器	坏か	－・・－	体部	回転ナデ、ヘラケズリ、暗文、ミガキ	回転ナデ、暗文、ミガキ	明赤褐色	密(白・黒色粒子)	良	畿内産土師器
SI24	47	5	土師器	坏か	・・－・－	体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文、ミガキ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	畿内産土師器、内外面ともに摩滅あまり顕著ではない
SI24	47	6	土師器	鉢	(16.0)・(10.0)・6.9	口縁～底部	回転ナデ、ミガキ 底部ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内面のスス状オコゲ・器面の剥落顕著
SI24	47	7	須恵器	坏	(14.1)・－・－	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	内外面ともに使用痕跡希薄
SI24	47	8	須恵器	蓋	(18.0)・・－	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	灰黄褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面の使用痕跡は希薄だが、口縁部の細かな欠けやや顕著
SI24	48	9	土師器	甕	(44.0)・－・	口縁部	ナデ	ナデ、ヘラナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面ともススの付着顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI24	48	10	土師器	甕	(25.6) ・ ― ・ ―	口縁～胴部	ナデ、ヘラケズリ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、角閃石、小礫)	良	内外面とも強く二次焼成を受ける、内面下半の摩滅顕著
SI24	48	11	土師器	甕	(27.0) ・ ― ・	口縁部	ナデ	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	外面強く二次焼成を受ける
SI24	48	12	土師器	甕	― ・ ― ・ ―	胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	外：黒色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	外面全面スス付着
SI24	48	13	土師器	甕か壺	― ・ (5.0) ・ ―	底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも強く二次焼成を受ける
SI24	48	14	須恵器	鉢	(47.2) ・ ― ・ ―	口縁部	回転ナデ、蛇行沈線	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面の使用痕跡・摩滅痕跡希薄
SI24	48	15	須恵器	甕	― ・ ― ・	肩部	タタキ	当て具痕	灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	
SI24	48	16	須恵器	甕	― ・ ・ ―	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	
SI25	49	1	土師器	坏	(20.0) ・ 11.6 ・ 3.1	口縁～底部	ナデ、ヘラケズリ、ハケメ、ミガキ 底部ナデ、ミガキ	ナデ、放射状暗文、不規則な暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	畿内産土師器、内面摩滅部分的に顕著
SI25	49	2	土師器	坏	・ (8.0) ・ ―	底部	ケズリ、ミガキ 底部ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙色	緻密(白・赤・黒色粒子)	良	底部外面端部の摩滅やや顕著
SI25	49	3	土師器	坏	― ・ (12.4) ・	底部	ナデ、ミガキ 底部ケズリ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内面の摩滅やや顕著
SI25	49	4	須恵器	高台坏	(13.6) ・ (11.4) ・ 3.5	口縁～高台部	回転ナデ 付高台	回転ナデ	灰黄色	密(白・赤・黒色粒子)	良	口縁端部細かな欠け顕著、高台端部の摩滅やや顕著
SI25	49	5	須恵器	高台坏	14.4 ・ (8.6) ・ 3.9	口縁～高台部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	高台部の摩滅やや顕著、内面の使用痕跡は希薄
SI25	49	6	土師器	甕か	(16.0) ・ ― ・ ―	口縁部	ナデ、ハケメ	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	
SI25	49	7	土師器	甕	(16.6) ・ ― ・	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受けるが使用痕跡は希薄
SI25	49	8	土師器	甕	(30.0) ・ ― ・ ―	口縁～胴部	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、白色小礫多くさむ)	良	外面口縁部～胴部上半にかけてスス付着顕著、胴部下半部は器面の荒れ顕著、内面胴部下半を中心にスス付着顕著
SI25	49	9	土師器	甕	・ (9.0) ・ ―	胴部～底部	ナデ 底部木葉痕	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成強く受ける
SI25	49	10	土師器	甕	― ・ (8.8) ・ ―	胴部～底部	ナデ 底部木葉痕	ナデ	明赤褐色	粗(白・赤・黒色粒子、2～mm程の小礫多し)	良	二次焼成強く受ける
SI25	49	11	土師器	甕	― ・ (9.0) ・ ―	底部	ナデ、指頭痕 底部木葉痕	ナデ、ハケメ	にぶい橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を受けるが、使用痕跡はやや希薄
SI26	49	1	土師器	坏	(16.0) ・ ・ ―	口縁～体部	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ・ハケメ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	畿内産土師器、内外面の摩滅・器面の剥落やや顕著
SI26	49	2	土師器	坏	(12.0) ・ (4.0) ・ 4.5	口縁～底部	ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	ナデ	外：黒色 内：橙色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	外面黒色化しているが二次的なもの、口縁端部の摩滅やや顕著
SI26	49	3	土師器	高坏	― ・ ― ・	体部	ヘラケズリ、ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面ともにスス状のコゲやや顕著
SI26	50	4	土師器	坏か皿	― ・ ― ・ ―	底部	底部ヘラケズリ	ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面の変色・スス付着顕著
SI26	50	5	土師器	甕	(27.6) ・ ― ・ ―	口縁～胴部	回転ナデ、ハケメ	回転ナデ、ハケメ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子・小礫)	良	二次焼成を受け、内面荒れ特に顕著
SI26	50	6	土師器	甕	(19.7) ・ ― ・	口縁部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を受け、外面のスス付着やや顕著
SI26	50	7	土師器	甕	・ ― ・ ―	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を受け、内外面の摩滅・器面の変色・剥落顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )−復元値、[ ]−現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI26	50	8	土師器	甕	—・—・	胴部	ハケメ	ハケメ	褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、角閃石、小礫)	良	二次焼成を受け、内外面の摩滅顕著
SI26	50	9	土師器	甕	—・—・—	胴部	ハケメ、ヘラケズリ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面の器面の変色・スス付着顕著
SI26	50	10	土師器	甕	—・—・	胴部	ヘラケズリ	ナデ	赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫多)	良	二次焼成を受け、器面の変色顕著
SI26	50	11	土師器	台付甕	—・—・	底部～脚部	ハケメ、ヘラケズリ 底部ナデ	ナデ、ケズリ	橙色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、角閃石)	良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の変色・摩滅・スス付着顕著
SI26	50	12	土師器	甕	(10.0)・—・	底部	ナデ 底部木葉痕	ナデ	明赤褐色	密(白・黒色粒子、角閃石、小礫)	良	二次焼成を受け、器面の変色・摩滅顕著
SI27	50	1	土師器	S字口縁甕	—・—・—	胴部	ハケメ	ナデ	外：黒褐色 内：褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、内外面ともにスス付着顕著
SI27	50	2	土師器	S字口縁甕	—・—・—	胴部	ハケメ	ナデ	灰黄褐色	密(白・黒色粒子、角閃石、金色雲母)	良	1と同一個体、二次焼成を受け、内外面ともにスス付着顕著
SI27	50	3	土師器	台付甕	—・(10.0)・—	脚部	ナデ	ナデ、指頭痕	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、内外面とも器面の変色・劣化顕著
SI27	50	4	土師器	台付甕	・(7.4)・	底部～脚部	ハケメ、ナデ 底部ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	外：にぶい黄橙色 内：黒色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面ともにスス付着、器面の変色顕著
SI28	50	1	土師器	坏	—・—・—	体部	ヘラケズリ	暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	黒内漆、内外面ともに使用痕跡は希薄
SI28	50	2	土師器	甕	—・ ・—	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：明赤褐色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を受け、内外面ともにスス付着顕著
SI28	50	3	土師器	甕	—・—・	胴部	ヘラナデ	ハケメ	外：にぶい赤褐色 内：黒色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面ともにスス付着、白色粘土付着顕著
SI28	50	4	土師器	甕	—・—・	胴部	ハケメ	ハケメ	外：にぶい褐色 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	二次焼成を受け、器面の変色顕著、内面は剥落
SI28	50	5	土製	支脚	現存長 4.3]㎜・現存幅[2.9]㎜・孔径8.0㎜	支脚部	ナデ	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、摩滅顕著
SI29	51	1	土師器	坏	—・(6.8)・—	底部	ナデ 底部ヘラケズリ	ナデ、ミガキ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅・スス状ヨゴレやや顕著
SI29	51	2	土師器	坏	—・(6.0)・—	底部	底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内面の摩滅やや顕著
SI29	51	3	土師器	高坏	—・ ・—	脚部	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面ともに摩滅顕著
SI29	51	4	須恵器	甕	(25.0)・—・—	口縁部	回転ナデ	ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともに使用痕跡希薄
SI31	51	1	土師器	甕	—・—・—	胴部	ヘラケズリ	ヘラナデ	明褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも二次焼成をやや強く受ける
SI31	51	2	土師器	甕	—・—・—	胴部	ナデ、ケズリ	ナデ	外：にぶい黄褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも二次焼成を受け、外面白色粘土付着
SI31	51	3	土師器	S字口縁甕	—・ ・—	胴部	ハケメ	ナデ、指頭圧痕	橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも二次焼成を受ける
SI32	51	1	土師器	甕	—・—・	口縁部	ナデ	ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	
SI33	51	1	須恵器	坏	(13.4)・(7.0)・(4.3)	口縁～底部	ロクロナデ 底部回転糸切り	ロクロナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	やや軟質、底部内面を中心として、スス状ヨゴレ・摩滅顕著
SI33	51	2	須恵器	坏	(9.4)・(7.0)・(3.2)	口縁～底部	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	ロクロナデ	灰色	密(白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡やや希薄
SI33	51	3	土師器	甕	(18.0)・(9.0)・(23.0)	口縁～底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ナデ、ハケメ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	胴部下半から底部にかけて二次焼成を受け、器面の剥落顕著、内面全体スス付着、縁面の荒れやや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI33	51	4	土師器	甕	(17.9) ・ ― ・	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	丁寧なつくり、内外面とも二次焼成を受け、内面のスス状ヨゴレ顕著
SI33	51	5	土師器	甕	(16.0) ・ ― ・ ―	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、スス付着やや顕著
SI33	51	6	土師器	甕	(16.0) ・ ― ・ ―	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	外：明褐色 内：赤褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも二次焼成を受け、外面スス付着・接合痕上付着顕著
SI33	51	7	土師器	甕	― ・ ― ・	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ	褐色、黒褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、スス付着、内面の摩滅やや顕著
SI33	51	8	土師器	甕	― ・ ― ・ ―	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	外：明褐色、黒褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、内面の摩滅非常に顕著
SI34	52	9	土師器	甕	・ ― ・ ―	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	外：明褐色、黒褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、内面の摩滅非常に顕著
SI35	52	10	土師器	甕	― ・ ― ・	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	外：明褐色、黒褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、内面の摩滅非常に顕著
SI36	52	11	土師器	甕	― ・ ・ ―	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	外：明褐色、黒褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、内面の摩滅非常に顕著
SI34	52	1	土師器	柱状高台坏	・ ― ・ ―	高台部	回転ナデ 底部回転糸切り		にぶい橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	軟質、摩滅非常に顕著
SI35	52	1	土師器	甕	・ ・ ― ・ ―	頸部	ナデ	ハケメ、ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも二次焼成を受け、器面の変色・荒れやや顕著
SI37	52	1	土師器	鉢	― ・ ― ・	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	外：橙色 内：にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI37	52	2	土師器	S字口縁甕	・ ― ・ ―	胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、外面スス付着顕著
SI37	52	3	土師器	S字口縁甕	― ・ ・ ―	胴部	ハケメ	ハケメ	赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、器面の変色・摩滅顕著
SI37	52	4	土師器	台付甕	― ・ ・ ―	底部～脚部	ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい褐色	密(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	二次焼成を受け、器面の変色・摩滅顕著
SI37	52	5	土師器	S字口縁甕	・ ― ・ ―	胴部	ハケメ	ナデ、ハケメ	暗褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも二次焼成を受け、スス付着顕著
SI37	52	6	土師器	S字口縁甕	― ・ ― ・ ―	胴部	ハケメ	ナデ	にぶい赤褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を強く受ける
SI37	52	7	土師器	S字口縁甕	・ ・ ―	胴部	ハケメ	ナデ、ハケメ	褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも二次焼成を受け、スス付着および器面変色顕著
SI36	52	1	土師器	皿	(14.0) ・ (7.4) ・ (2.5)	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	赤褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面のスス状ヨゴレやや顕著
SI38	52	2	土師器	皿	― ・ (6.0) ・ ―	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	胎土マーブル状、内外面の使用痕跡希薄
SI38	52	3	土師器	甕	― ・ ― ・ ―	胴部	ヘラケズリ	ナデ	外：褐 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内面の摩滅、外面のスス・白色粘土付着顕著
SI41	52	1	土師器	坏	・ ― ・ ―	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	ナデ	赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	雑なつくり、内外面ともに摩滅非常に顕著
SI42	52	1	土師器	甑	(29.0) ・ ・ ―	口縁～胴部	ナデ	ナデ、ハケメ	明褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内外面ともに摩滅顕著
SK4	53	1	土師器	坏	― ・ ・ ―	体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	外：明褐色 内：橙色	密(白・赤色粒子)	良	内外面ともに使用痕跡は希薄
SK6	53	1	土師器	坏	・ ― ・ ―	底部	ヘラケズリ 底部墨書	回転ナデ、暗文	外：橙色 内：橙色	密(白・赤色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄、底部に墨書と線刻状の線痕あり、線刻は極めて浅く墨書を切る、底内にはわずかながらウルシ状付着物の痕跡あり
SK6	53	2	土師器	高坏	― ・ ・ ―	脚部	ヘラケズリ、ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面ともに摩滅痕跡は希薄

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK9	53	1	縄文	深鉢	— · · —	胴部	ハの字文、縦位沈線	ナデ	にぶい黄褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	曽利V、外面の摩滅やや顕著
SK13	53	1	土師器	坏	(11.0) · ·	口縁～胴部	回転ナデ、ヘラケズリ、線刻	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	体外に線刻あり、線刻は鮮明、内外面の使用痕跡は希薄
SK13	53	2	土師器	坏	(13.0) · — · —	口縁～胴部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	にぶい黄橙色、黒色	密(白・赤色粒子)	良	内外面に黒彩を施す、内面に底部下半の黒彩は剥がれる、黒色土器
SK13	53	3	須恵器	蓋	18.6 · · 4.3	つまみ部～口縁部	回転ナデ	回転ナデ	灰色、にぶい赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子、雲母、小礫)	やや不良	火襷痕顕著、口縁端部の磨耗やや顕著
SK13	53	4	土師器	甕	(37.6) · — · —	口縁～肩部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ、指頭痕	外：黒褐色、赤褐色 内：赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面ともに二次焼成を受け、スス付着・器面の変色顕著
SK13	53	5	土師器	甕	— · (10.0) · —	底部	ハケメ 底部ハケメ	ヘラナデ	外：赤褐色 内：明黄褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面ともに二次焼成を受け、器面の変色・スス状コゲレ顕著
SK21	53	1	土師器	皿	— · (6.6) · —	底部	回転ヘラケズリ 底部静止糸切り、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内面磨耗、スス付着顕著、線状の擦痕もみられる、外面の摩耗痕跡は希薄
SK22	53	1	土師器	坏	(14.9) · · —	口縁～体部	ナデ、ケズリ	ナデ、ミガキ	橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK22	53	2	土師器	甕	· (9.6) · —	胴部～底部	ナデ、ケズリ 底部木葉痕	ナデ	赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	やや良	二次焼成を受け、内外面とも器面の変色、内面の摩滅顕著
SK23	54	1	須恵器	鉢	— · · —	胴部	ヘラケズリ	ナデ	にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともに器面の荒れ・コゲレ顕著
SK23	54	2	陶器	壺	— · (23.4) · —	胴部～底部	ナデ	釉がかかっている	にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子)	やや良	内外面ともに摩滅やや顕著
SD1	54	1	縄文	深鉢	— · — · —	胴部	櫛歯刺突文、隆帯、沈線	ナデ	明赤褐色	密(白・灰・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著、曽利V(古)
SD1	54	2	縄文	深鉢	· — · —	胴部	垂沈線	ナデ	赤褐色	粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	不良	内外面とも摩滅顕著
SD1	54	3	縄文	深鉢	— · · —	胴部	綾杉状沈線	ナデ	外：明黄褐色 内：にぶい黄橙色	やや密(白・黒色粒子、金色雲母)	やや良	内外面とも摩滅やや顕著
SD1	54	4	土師器	器台か	— · · —	脚部	ハケメ、ヘラナデ	ヘラケズリ	外：橙色、黒色 内：明黄褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	底部と脚部に孔をもつ、外面スス状コゲレやや顕著
SD1	54	5	土師器	坏	(19.0) · · —	口縁～体部	ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、暗文	赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	やや良	畿内産土師器、内外面とも摩滅・スス状コゲレやや顕著
SD1	54	6	土師器	皿	— · — ·	底部	底部ヘラケズリ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	不良	畿内産土師器、外面アバタ状に器面の荒れおよび内面の摩滅顕著
SD1	54	7	土師器	甕	— · (4.2) · —	底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、線刻	ヘラナデ	外：赤褐色 内：明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の変色顕著
SD1	54	8	須恵器	坏	(23.0) · — · —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子やや多)	やや良	内外面とも使用痕跡は希薄
SD1	54	9	須恵器	坏	· (7.0) · —	底部	ヘラナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰オリーブ色	やや粗(白色粒子やや多)	やや粗	やや軟質、内外面ともに摩滅やや顕著
SD1	54	10	須恵器	甕	(10.0) · — · —	口縁～頸部	回転ナデ、自然釉	回転ナデ	灰白色、灰オリーブ色、橙色	密(白色粒子)	良	酸化鉄斑付着顕著
SD1	54	11	須恵器	甕	(23.2) · — · —	口縁部	回転ナデ、自然釉	回転ナデ	外：灰白色、灰オリーブ色 内：灰色	密(白・黒色粒子、小礫)	やや良	内外面とも摩滅やや顕著 、自然釉が所々剥がれる
SD1	54	12	須恵器	壺か	· — · —	肩部	タタキ、釉	ナデ	外：灰オリーブ色、黒色 内：灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面に黒色塗布の痕跡あり、摩滅もやや顕著
SD1	54	13	須恵器	壺か	· — · —	肩部	タタキ、釉	ヘラナデ	外：オリーブ黒色 内：オリーブ灰色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面に黒色塗布の痕跡あり、摩滅もやや顕著
SD1	54	14	須恵器	壺か	— · — · —	胴部	タタキ	ナデ	外：灰色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面に使用痕跡は希薄

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、[ ]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SD1	54	15	須恵器	壺	—・—・—	胴部	タタキ	ヘラケズリ	外：灰色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SD1	54	16	灰釉陶器	碗	—・(10.8)・—	底部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレやや顕著
SD1	54	17	灰釉陶器	壺	—・—・—	胴部	回転ナデ、自然釉	回転ナデ	外：灰白色、灰オリーブ色 内：灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともに使用痕跡は希薄
SD1	56	18	瓦質	鍋か鉢	(34.0)・—・—	口縁部	回転ヘラナデ、ヘラナデ	回転ヘラナデ、ヘラナデ	外：浅黄色 内：灰黄色	粗(白・黒色粒子)	不良	やや軟質、内外面ともに褐色状ヨゴレ顕著
SD1	56	19	陶器	壺	—・—・—	胴部	ナデ、タタキ	ナデ	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色	密(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	
SD6	55	1	土師器	壺	(13.6)・—・—	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	赤色、明黄褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面に赤彩を施すが摩滅のため遺存状態は悪い
SD6	55	2	土師器	壺	—・—・—	頸部	ハケメ、ミガキ	ハケメ、ミガキ	赤色、明赤褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	やや良	内外面ともに赤彩を施す、器面の摩滅やや顕著
SD6	55	3	土師器	鉢	—・—・—	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：赤褐色、黒色 内：赤褐色	やや粗(白色粒子)	やや良	二次焼成を受け、器面の変色・摩滅やや顕著
SD6	55	4	土師器	S字口縁甕	(20.0)・—・—	口縁～頸部	ハケメ、ヘラナデ	ヘラナデ、ハケメ	外：橙色、灰褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、内外面とも器面の変色・外面のスス付着顕著
SD6	55	5	土師器	小型甕	(3.4)・—・—	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	赤褐色	やや粗(白色粒子、雲母)	良	軟質、内外面ともに摩滅やや顕著
SD6	55	6	土師器	坏	(14.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	粗(白・赤色粒子、金色雲母)	不良	内外面ともに摩滅・器面の剥落・スス状ヨゴレやや顕著
SD6	55	7	土師器	坏	—・(8.0)・—	底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	底部外面鋸歯状痕跡あり、内面の使用痕跡は希薄、底部外面の端部の摩滅やや顕著
SD6	55	8	土師器	高台坏	—・(6.0)・—	底部～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り、回転ヘラケズリ、付高台	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅顕著、内外面ススヨゴレあり
SD6	55	9	土師器	坏	—・(8.0)・—	底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	底部外面に「北」墨書あり、文字はややかすれるが比較的鮮明、外面の摩滅等の痕跡は希薄で、内面は器面の一部が剥落、スス状ヨゴレなどがやや顕著
SD6	55	10	須恵器	甕	(48.6)・—・—	口縁部	回転ナデ、櫛描波状文	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	やや良	内外面ともに使用痕跡は希薄
SD6	55	11	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ、自然釉	当て具痕	外：暗オリーブ色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	やや良	内外面ともに摩滅やや顕著
SD6	55	12	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ	ナデ	外：灰オリーブ色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	不良	内外面ともに摩滅やや顕著
SD7	56	1	土師質	鍋(内耳)	(28.0)・—・—	口縁～胴部	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内面のスス付着顕著
SD7	56	2	土師質	鍋	—・(15.4)・—	底部	ナデ 底部ケズリ、ナデ	ナデ	外：にぶい黄褐色 内：灰色	やや密(白・黒色粒子、金色雲母)	やや良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の変色・摩滅顕著
SD7	56	3	土師質	擂鉢	—・—・—	胴部	ナデ	櫛歯状条線、ナデ	灰色	密(白・赤色粒子、雲母)	やや良	内外面ともに摩滅非常に顕著
SD7	56	4	土師質	片口	—・—・—	—	ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面ともに摩滅顕著
SD7	56	5	土師質	内耳鍋	—・—・—	把手部	ナデ	ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内耳鍋か？、スス状ヨゴレやや顕著
SD8	56	1	土師器	壺	—・(10.0)・—	底部	ハケメ、ミガキ	ハケメ	外：明黄褐色 底外：黒褐色 内：明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子、小礫)	不良	内外面ともに摩滅顕著で、内面の器面剥落顕著
SD8	56	2	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ	ナデ	外：黄灰色 内：浅黄色	密(白・黒色粒子)	良	内外面の摩滅やや顕著

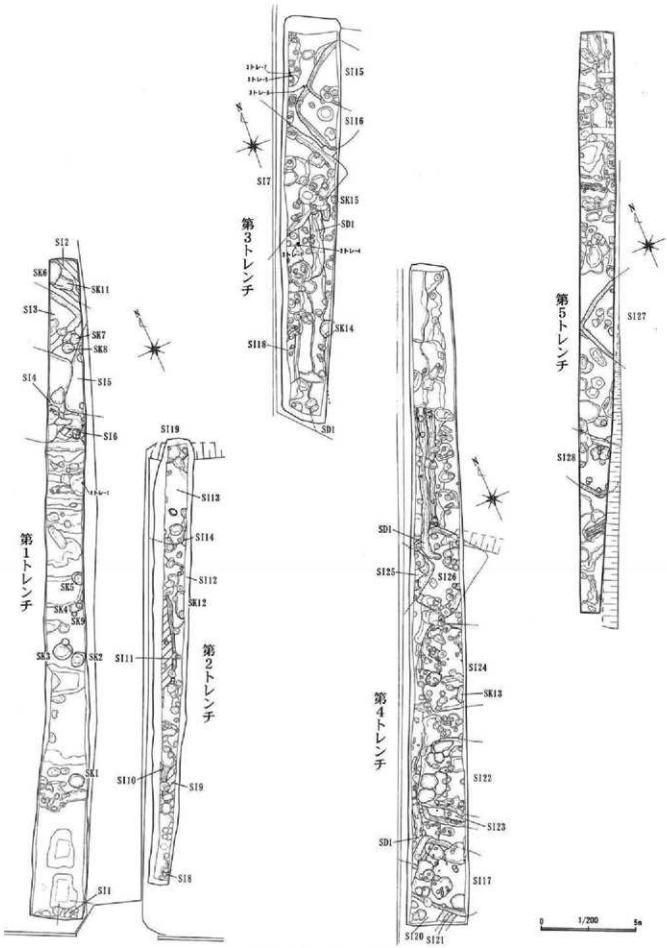
出土遺構	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )=復元値、〔 〕=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SD8	56	3	須恵器	瓷	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	当て具痕、ナデ	外：灰色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともに使用痕跡は希薄
SD8	56	4	土師器	坏	(6.2) ・ (7.0) ・ (2.8)	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面ともにわずかに摩滅するが、使用痕跡は希薄
SD8	56	5	土師器	坏	(6.4) ・ 〔…〕・ —	口縁～底部	回転ナデ、線刻	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面ともにわずかに摩滅するが、使用痕跡は希薄、ミガキ か
SD8	56	6	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面ともにわずかに摩滅するが、使用痕跡は希薄、ミガキ か
SD8	56	7	青磁	碗	・ — ・ —	体部	草弁文、軸	釉	緑灰色、灰白色	密(白・赤色粒子)	生	草弁文、龍泉窯系のあるべき青色、表地は灰色で施釉
SD8	56	8	土師質	鉢	(36.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	外：にぶい黄褐色 内：黒褐色	粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	やや良	内外面スス付着、内面のスス付着部炭に類若
SD8	56	9	須恵質	鉢	(36.2) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	外：にぶい黄橙色、褐灰色 内：褐灰色	精(白・黒色粒子)	やや良	外面のスス付着、内面の黒斑顕著
3Ⅱ-1	56	1	土師器	鉢	・ (8.0) ・ —	底部	ナデ 底部ナデ、線刻	ヘラナデ	外：にぶい黄橙色 内：黒褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内面黒色処理、底外に墨刻あり、外面の摩滅やや顕著
3Ⅱ-2	56	2	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	畿内系、内外面とも器面一部剥落
3Ⅱ-3	56	3	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部～高台	みがき、黒谷 底部回転糸切り、線刻	ヘラナ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	外面内面に線刻あり、摩滅やや顕著、外面器面剥落するが、黒斑顕著
3Ⅱ-4	57	4	須恵器	坏	— ・ — ・ —	底部	ナデ	回転ナデ	黄灰色	密(白色粒子多、黒色粒子)	良	二次焼成を受け、外面の黒ずみ・摩滅やや顕著
3Ⅱ-5	57	5	須恵質	硯	(31.8) ・ — ・ —	口縁部	ナデ	ナデ	灰黄色	やや粗(白・黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅やや顕著
3Ⅱ-6	57	6	須恵質	擂鉢	— ・ (12.2) ・ —	胴部～底部	ナデ 底部ケズリ、ナデ	擂目状条痕、ナデ	にぶい黄色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅顕著
3Ⅱ-7	57	7	青磁	碗	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、自然釉	ナデ、断続状	外：暗オリーブ灰色 内：灰褐色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	内面器面一部剥落
4Ⅱ-1	57	1	土師器	坏	・ (7.4) ・ —	底部	ヘラケズリ、ミガキ 底部ミガキ、線刻	回転ナデ、暗文、線刻	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	やや良	底外に墨刻あり、線刻に類例、底部外面アバタ状に炭れる、線刻にそれを切って施されている
4Ⅱ-2	57	1	土師器	5平11段重	(12.0) ・ — ・ —	複色	ハケメ、ナデ	ナデ、指頭痕	複色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、内外面ともに器面の発泡・スス付着顕著
7Ⅱ-1	37	2	土師器	有台椀	— ・ — ・ —	底部～脚部	ヘラナデ 底部ヘラナデ	ヘラナデ	褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	良	二次焼成を受け、内外面ともに摩滅顕著
7Ⅱ-2	57	3	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面ともに摩滅やや顕著
7Ⅱ-3	57	4	土師器	坏	・ ・ (5.0) ・ —	底部	ヘラナデ 底部回転糸切り	ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅やや顕著
7Ⅱ-4	57	5	土師器	鉢か	・ (7.0) ・	底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ	橙色	粗(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅顕著
7Ⅱ-5	57	6	須恵器	甕か瓶	— ・ — ・ —	頸部	回転ナデ、軸	回転ナデ	褐灰色 釉：オリーブ黄色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子)	良	内外面ともに摩滅顕著
表採	57	1	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	底部	ヘラケズリ 底部線刻、ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	橙色	粗(白・赤・黒色粒子)	良	底部外面に「井」線刻あり、線刻に続くやや不鮮明、内外面ともに摩滅やや顕著

第2表　石製品観察表

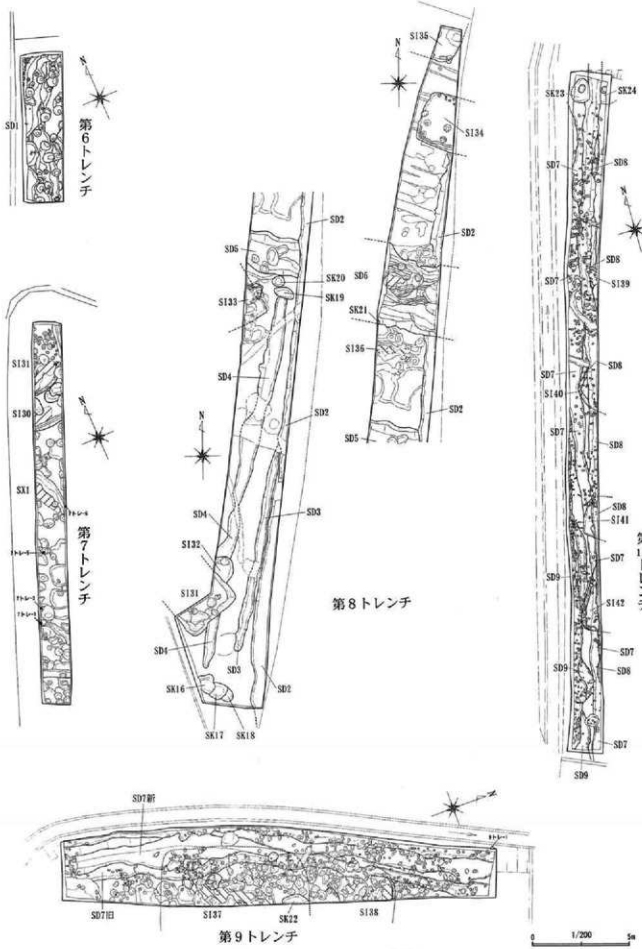
出土地点	挿図番号	番号	分類	法量(cm) 長	幅	厚	重量(g)	石材	色調	備考
				※( )は推定値又は現存値						
S17	41	52	磨石	[10.6]	[6.9]	4.3	400.00			
S17	41	53	縁石	12.4	5.1	3.2	214.00			
S17	41	54	縁石	10.2	5.6	25.0	220.00			
S116	43	11	縁石か	10.1	4.8	2.5	230.00			
S117	45	21	黒鉛石画芦	3.4	2.4		5.00			
SD1	55	22	打製石斧	13.1	4.6		124.00			
0トレ	57	1	五輪塔(空輪)	18.6	上：12.2 下：11.0	10.1	1900.00		灰黄色	

第3表　金属製品観察表

出土地点	挿図番号	番号	分類	法量(cm) 長	幅	厚	重量(g)	材質	備考
				※( )は推定値又は現存値					
S14	35	17	刀子	12.30	0.70	0.30	11.00	鉄	
S17	41	48	馬具(鉄金具)	外径26.5～26.7mm、孔径3.7mm			3.89	青銅	鍍金、八葉蓮華文、タガネによる「なめくり」形り
S17	41	49	刀子	9.70	0.90	0.20	10.00	鉄	
S17	41	50	角釘	14.10	0.80	0.5～0.7	57.00	鉄	
S17	41	51	角釘か	2.60	0.40	0.20	0.71	鉄	
S116	43	10	鉄滓	7.00	3.80	2.90	96.00	鉄	
S117	45	20	棒状鉄製品	6.70	0.40	0.30	5.00	鉄	
S122	47	18	鋤	21.00	3.00	0.3～0.4	135.00	鉄	断面Y字形
S138	52	4	角釘	9.80	0.80	0.60	16.00	鉄	
SD1	55	20	刀子	4.80	0.80	0.30	4.00	鉄	
SD1	55	21	角釘	6.70	0.70	0.50	8.00	鉄	
1トレ	56	1	棒状鉄製品	9.30	0.50	0.40	10.00	鉄	

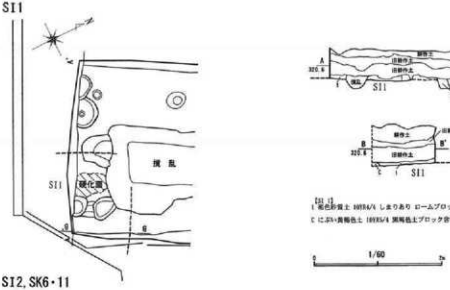


第５図　第１～５トレンチ全体図

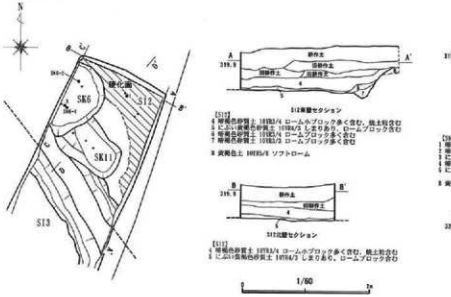


第6図　第6～10トレンチ全体図

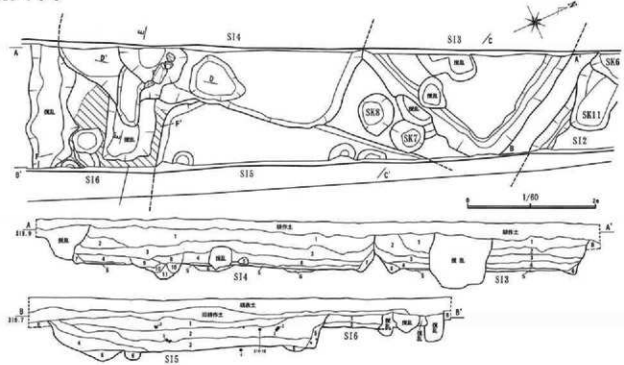
SI1



SI2, SK6・11



SI3・4・5・6



第7図　SI1・2, SI3～5(1), SI6(1), SK6・11

【SI13】
1 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック含む
2 褐色砂質土 10YR4/6 ロームブロック含む
3 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック含む
4 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ロームブロック・焼土粒含む
5 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ロームブロック・焼土粒含む
6 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ロームブロック多く含む
7 黒褐色土 10YR3/4 ソフトローム

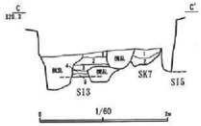
【SI14】
1 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック含む
2 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック多く含む
3 暗褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロック多く含む、焼土小ブロック含む
4 暗褐色砂質土 10YR3/3 ロームブロック・焼土ブロック含む
5 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/3 ロームブロック多く含む
6 灰黄褐色砂質土 2.5Y4/2 焼土・炭化粒含む
7 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/3 ロームブロック多く含む
8 褐色砂質土 7.5YR4/3 焼土ブロック・ロームブロック含む
9 暗褐色砂質土 10YR3/3 ロームブロック多く含む
10 赤褐色砂質土 5YR4/8 焼土ブロック多く含む
11 褐色砂質土 7.5YR4/4 焼土小ブロック・ロームブロック含む

【SI15】
1 褐色砂質土 10YR4/4 ローム粒多く含む
2 暗褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロックやや多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ロームブロック・焼土粒ブロック多く含む
4 褐色砂質土 10YR4/6 ロームブロック多く含む
5 暗褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロック含む
6 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ロームブロック多く含む

【SI16】
1 暗褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロック含む
2 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック多く含む
3 褐色砂質土 10YR4/6 ロームブロック含む

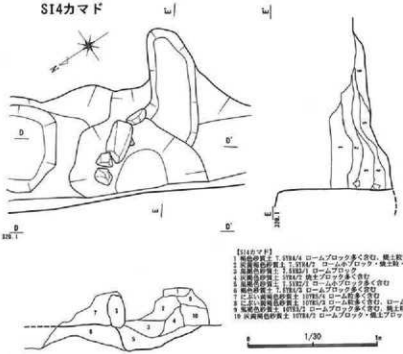
8 黒褐色土 10YR3/8 ソフトローム

SK7



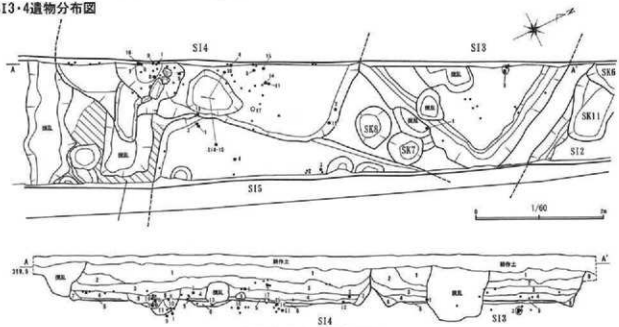
【SK7】
1 暗褐色砂質土 10YR3/3 ロームブロック含む
2 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック多く含む

SI4カマド

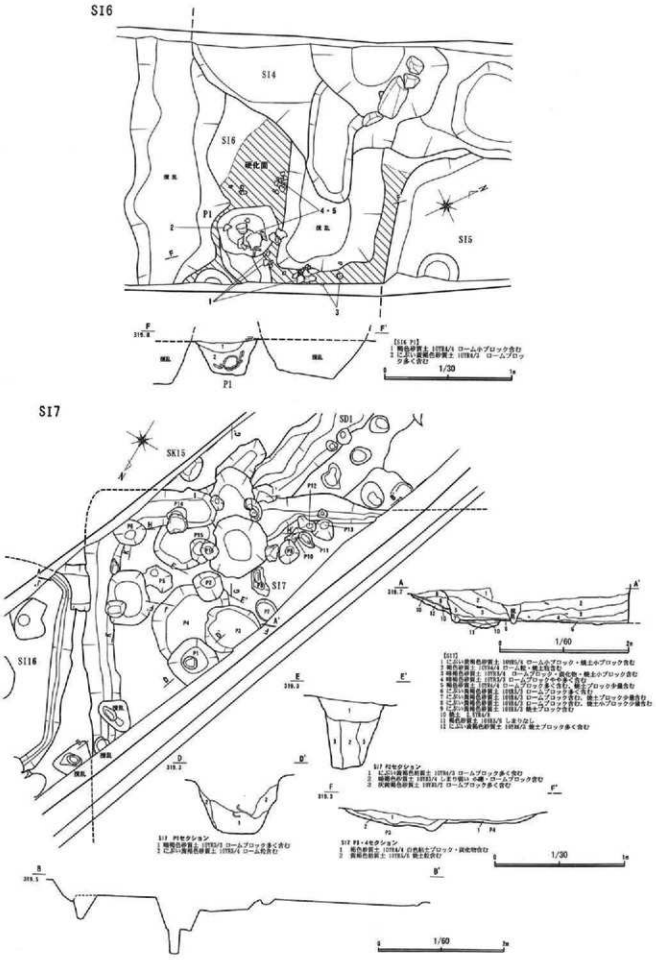


【SI4カマド】
1 褐色砂質土 7.5YR4/4 ロームブロック多く含む、焼土粒含む
2 灰褐色砂質土 7.5YR4/2 ロームブロック・焼土粒・炭化粒含む
3 黒褐色砂質土 7.5YR3/1 ロームブロック
4 にぶい褐色砂質土 7.5YR4/3 焼土ブロック多く含む
5 黒褐色砂質土 7.5YR2/1 ロームブロック多く含む
6 褐色砂質土 7.5YR4/3 ロームブロック含む
7 にぶい褐色砂質土 10YR5/3 ロームブロック含む
8 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ロームブロック含む、ロームブロック含む
9 褐灰色砂質土 10YR4/1 ロームブロック多く含む、焼土粒含む
10 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 ロームブロック・焼土ブロック含む

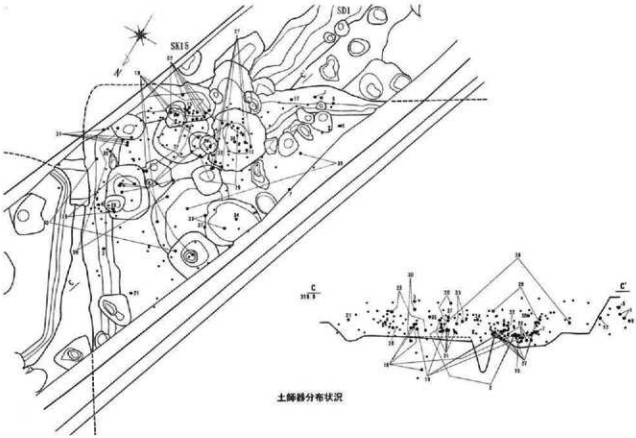
SI3・4遺物分布図

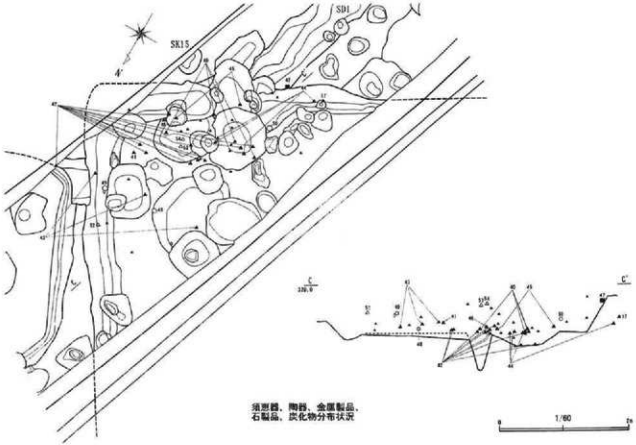


第８図　SI3～5(2), SK7



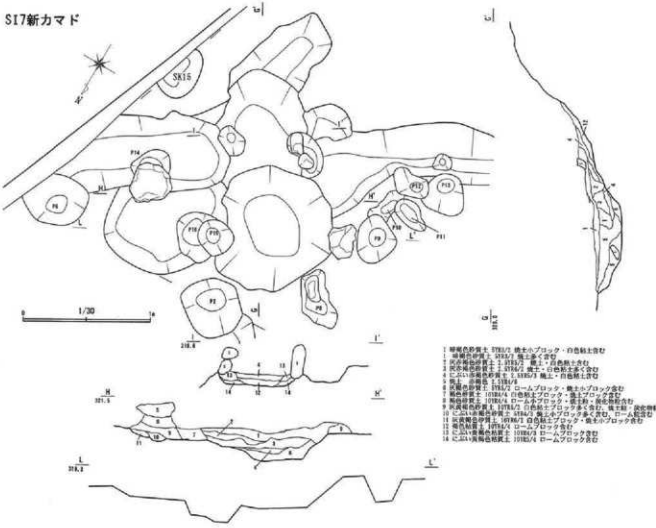
第9図　SI6(2), SI7(1)



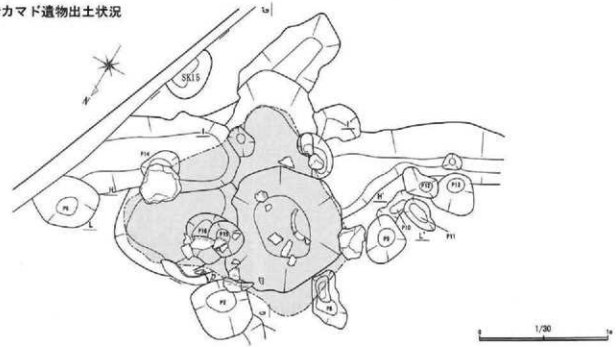


第10図　SI7(2)

SI7新カマド

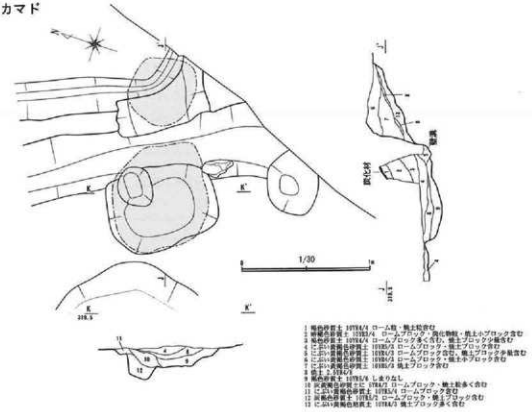


SI7新カマド遺物出土状況

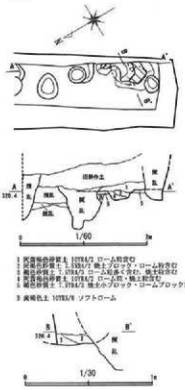


第11図　SI7(3)

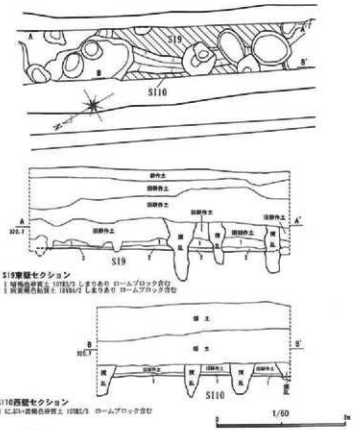
SI7旧カマド



SI8

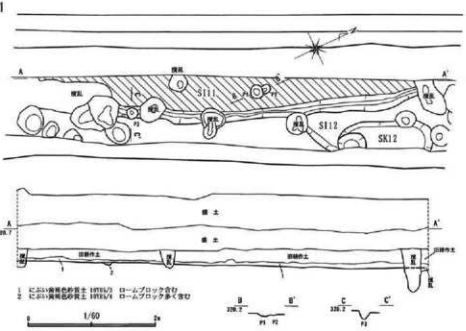


SI9・10

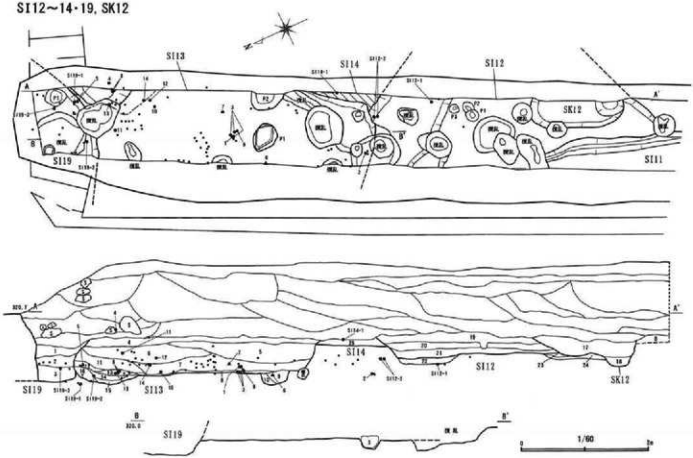


第12図　SI7(4)，SI8～10

SI11



SI12～14・19, SK12



【SI19】
1 褐色砂質土 10YR4/6 ロームブロック多く含む
2 褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロック含む
3 暗褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロック多く含む

【SI12】
4 灰褐色砂質土 10YR4/2 ロームブロック含む
5 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック少量含む
6 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック含む
7 暗褐色砂質土 10YR3/4 ロームブロック・焼土粒・炭化物粒含む
8 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ロームブロック・焼土粒・炭化物粒含む
9 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ロームブロック含む
10 にぶい褐色砂質土 10YR5/3 ロームブロック含む
11 灰褐色砂質土 7.5YR4/2 ロームブロック・白色粒土ブロック・焼土粒含む
12 灰褐色砂質土 10YR4/2 ロームブロック・白色粒土ブロック・焼土粒含む
13 褐灰色砂質土 10YR4/1 ロームブロック・白色粒土ブロック・焼土粒含む
14 焼土 明赤褐色 5YR5/8
15 にぶい褐色砂質土 10YR4/3 焼土粒・ロームブロック含む
16 褐灰色砂質土 10YR4/1 焼土小ブロック含む

【SI13】
17 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 ロームブロック多く含む
18 暗褐色砂質土 10YR3/3 ロームブロック含む

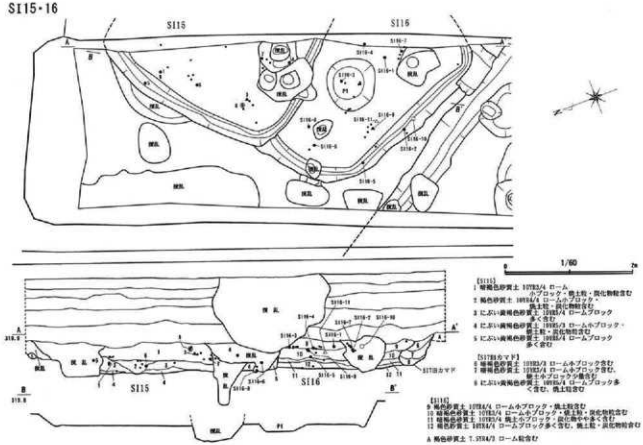
【SI14】
19 暗褐色砂質土 10YR3/3 ロームブロック含む
20 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック含む
21 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロック含む
22 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ロームブロック含む、焼土小ブロック含む
23 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/3 ロームブロック含む
24 褐色砂質土 10YR ロームブロック多く含む

【SK12】
25 灰褐色砂質土 10YR4/2 ロームしょうぶろっく・炭化物粒含む

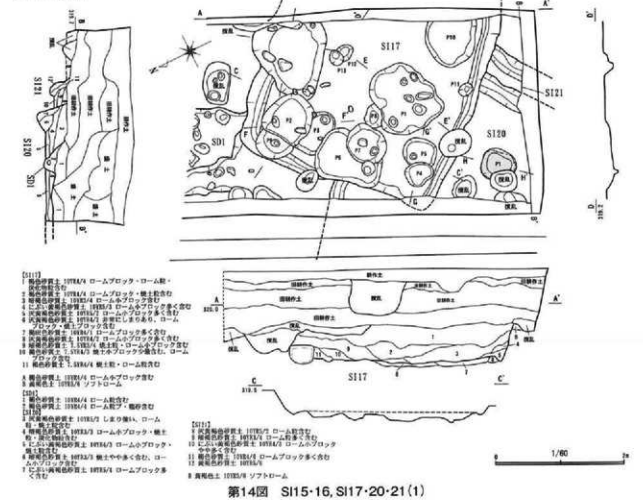
B 炭褐色土 10YR3/6 ソフトローム

第13図　SI11～14・19, SK12

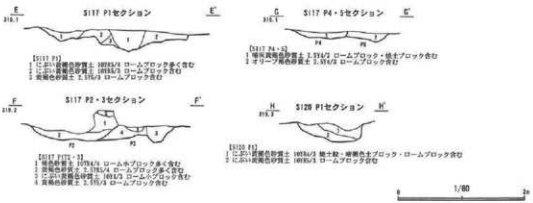
SI15・16



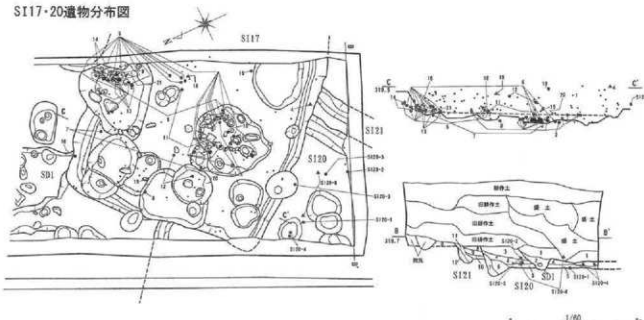
SI17・20・21



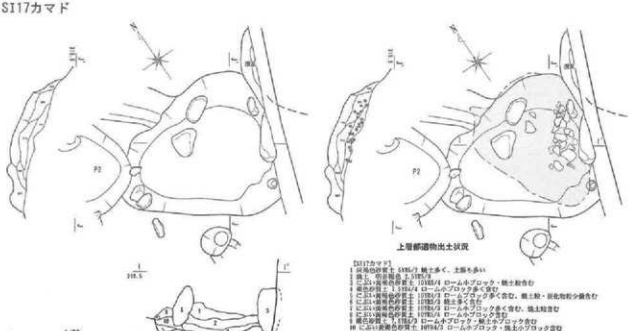
第14図　SI15・16, SI17・20・21 (1)



SI17・20遺物分布図

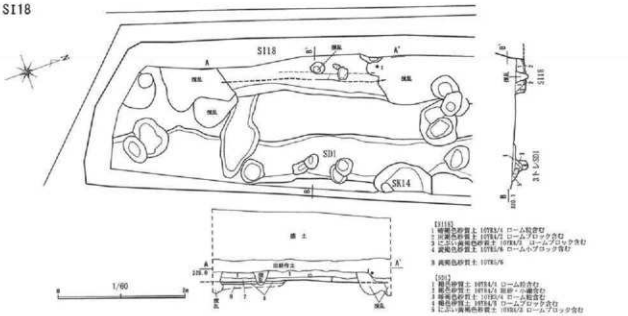


SI17カマド

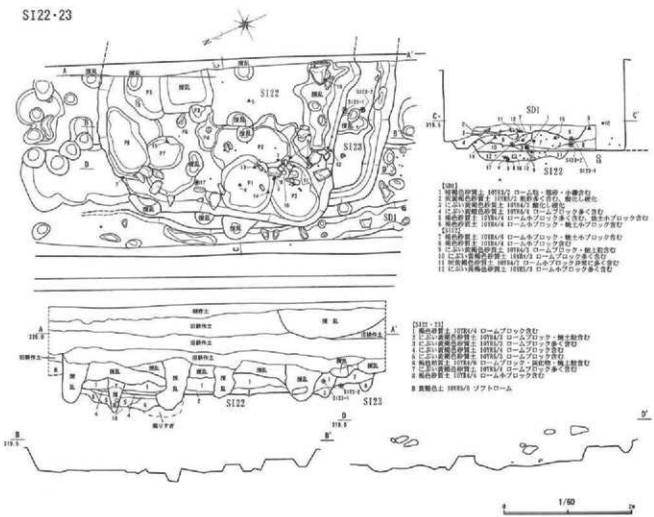


第15図　SI17・20・21(2)

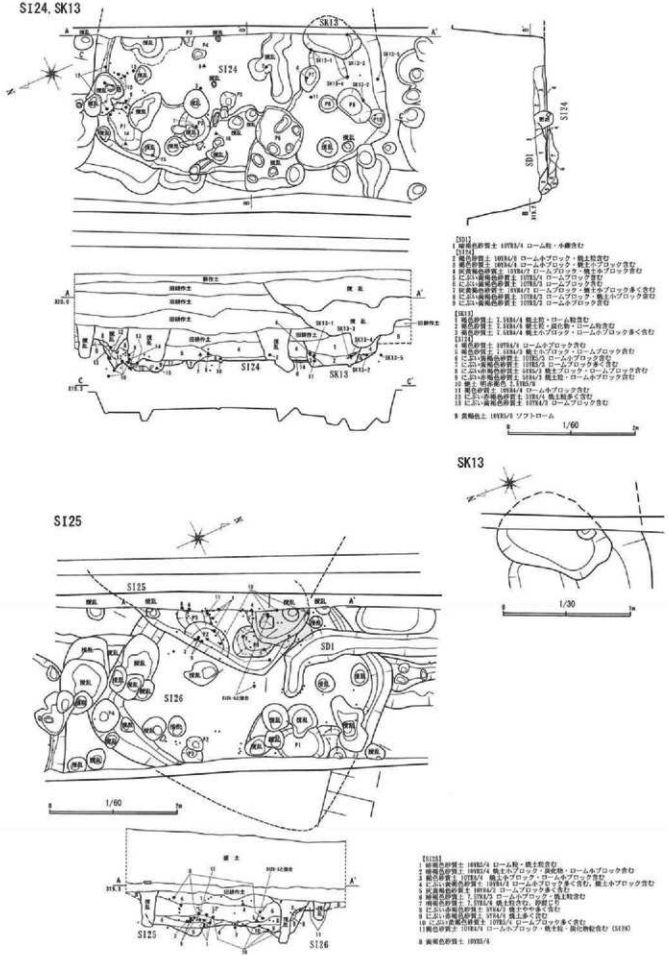
SI18



SI22・23

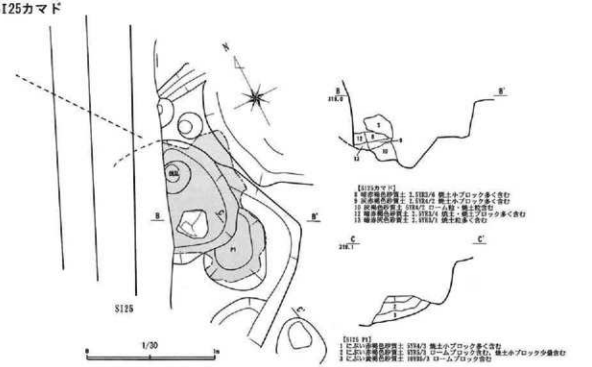


第16図　SI18・22・23

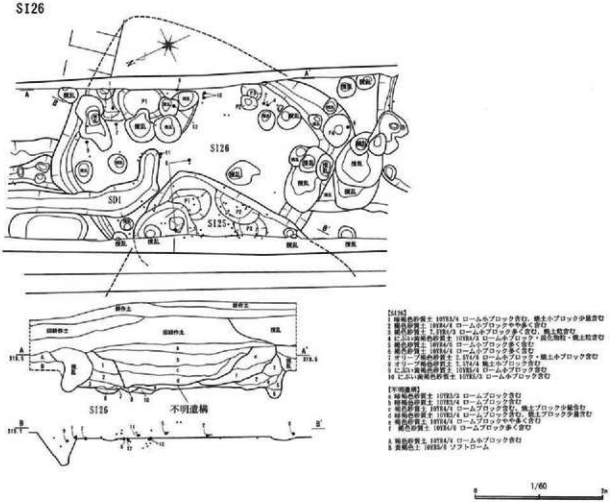


第17図　SI24, SI25(1), SK13

SI25カマド

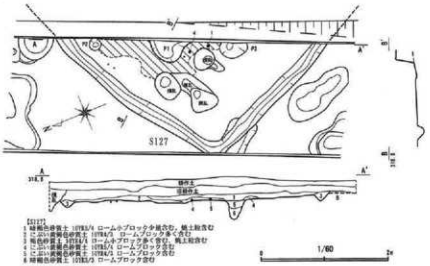


SI26

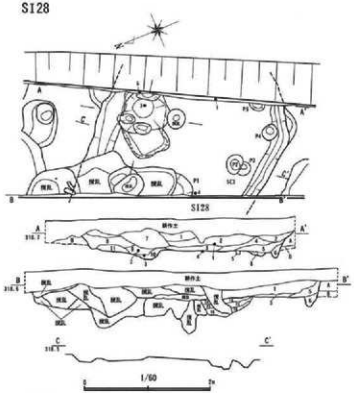


第18図　SI25(2)、SI26

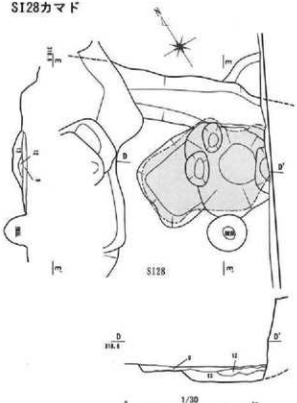
SI27



SI28

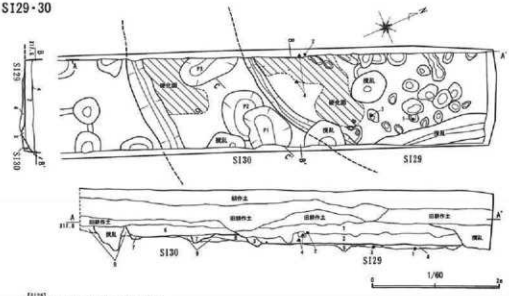


SI28カマド

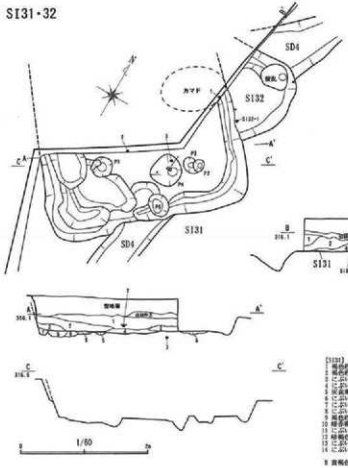


第19図　SI27・28

SI29・30

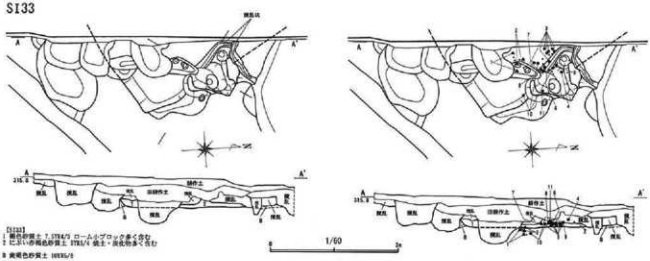


SI31・32

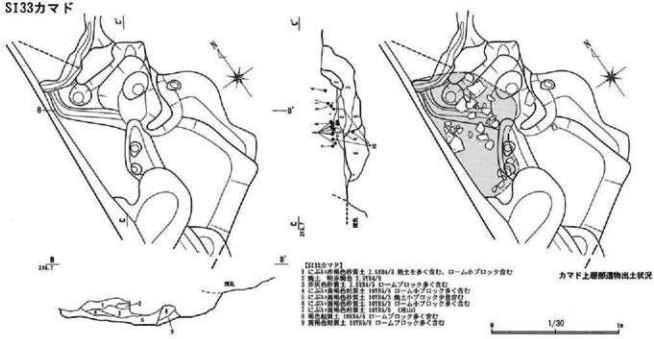


第20図　SI29~32

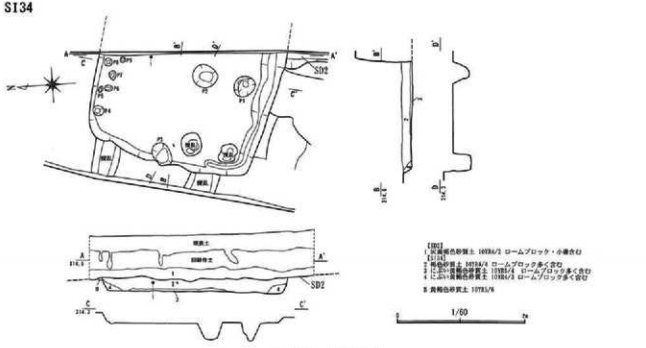
SI33



SI33カマド

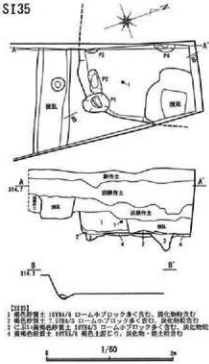


SI34

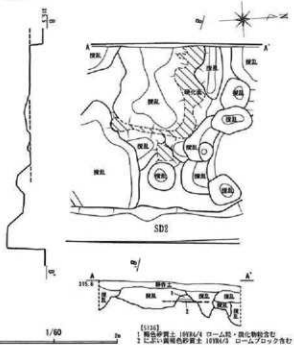


第21図　SI33・34

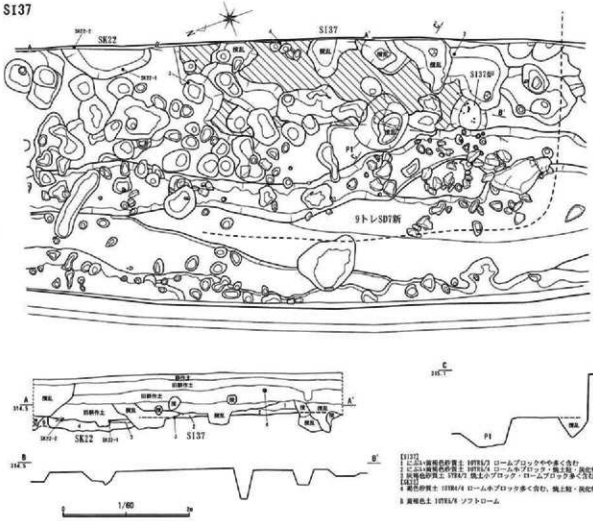
SI35



SI36

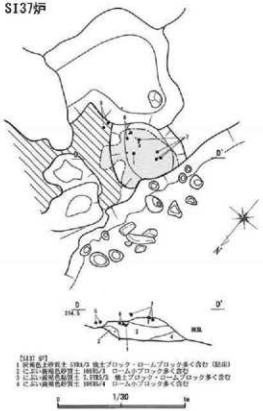


SI37

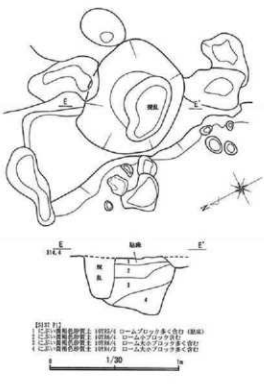


第22図　SI35・36, SI37(1)

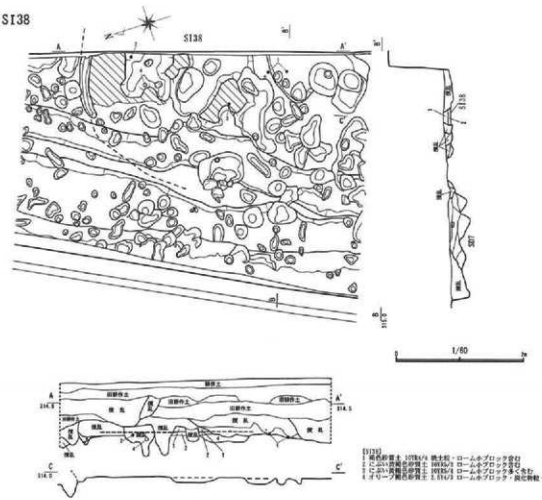
SI37炉



SI37 P1

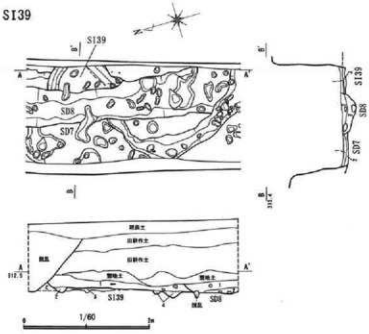


SI38

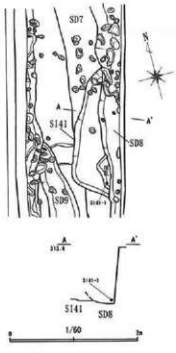


第23図　SI37(2), SI38

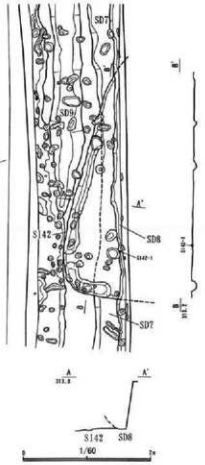
SI39



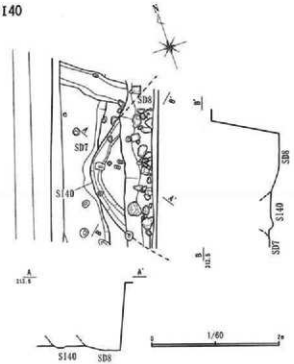
SI41



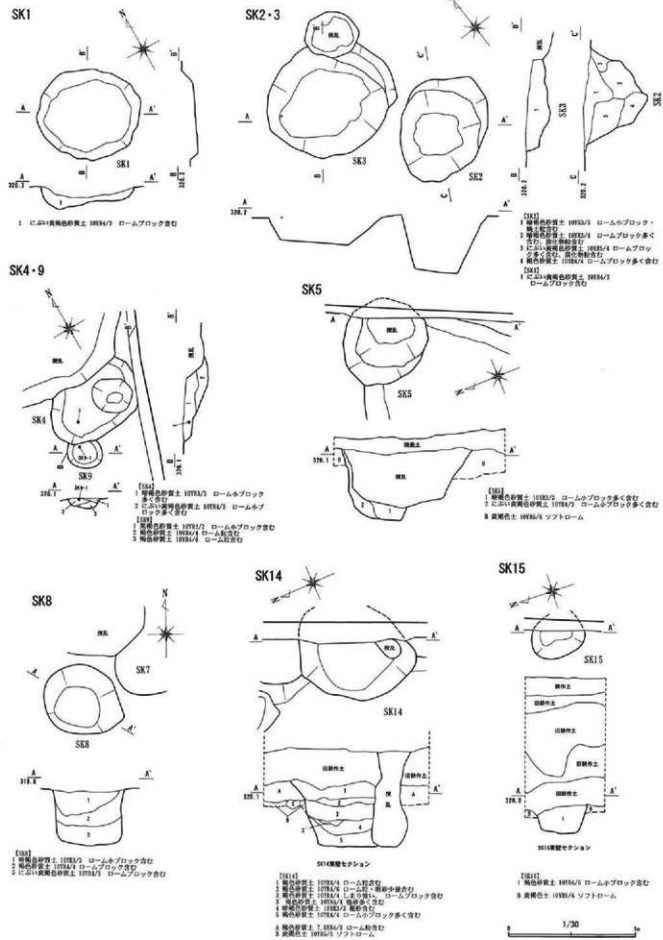
SI42



SI40

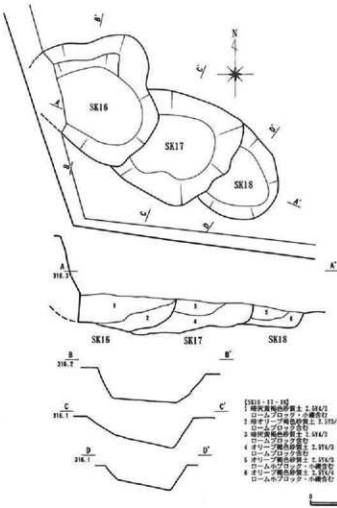


第24図　SI39～42

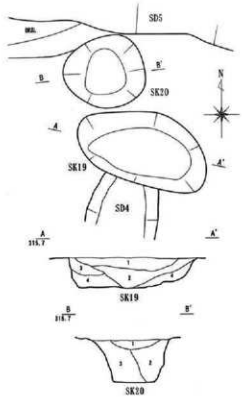


第25図　SK1～5・8・9・14・15

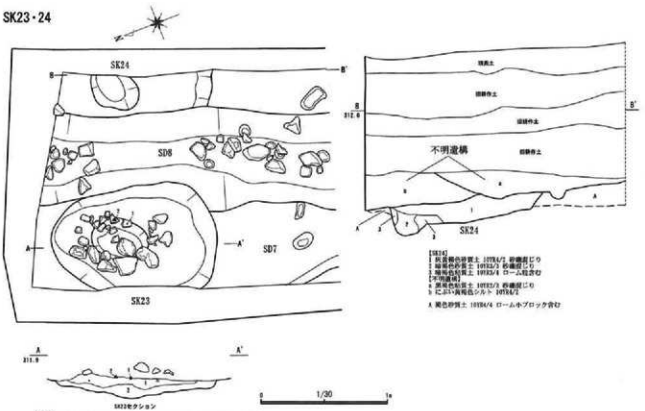
SK16～18



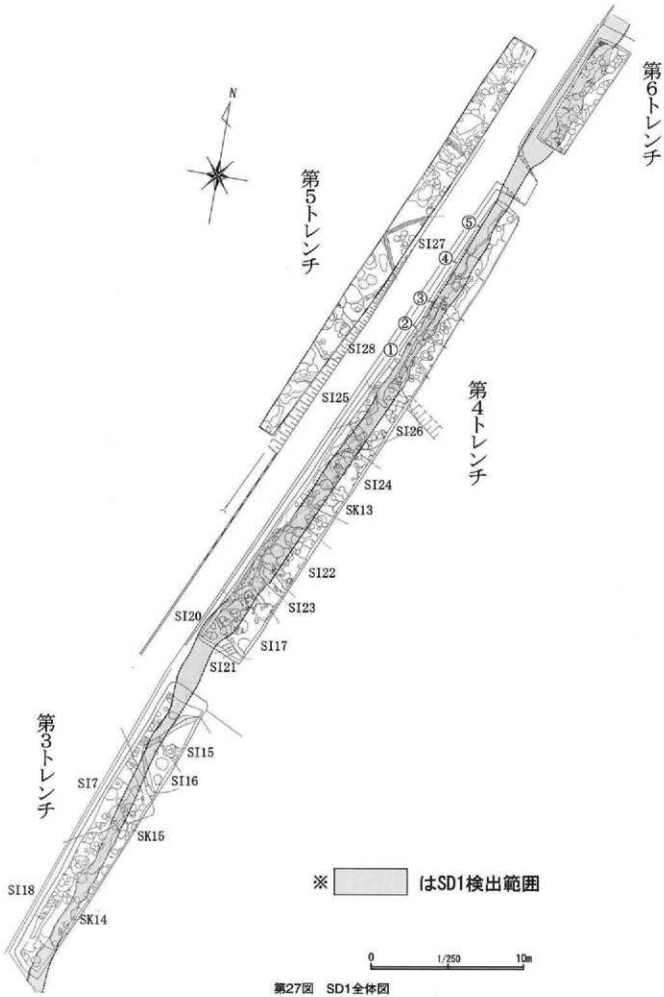
SK19・20



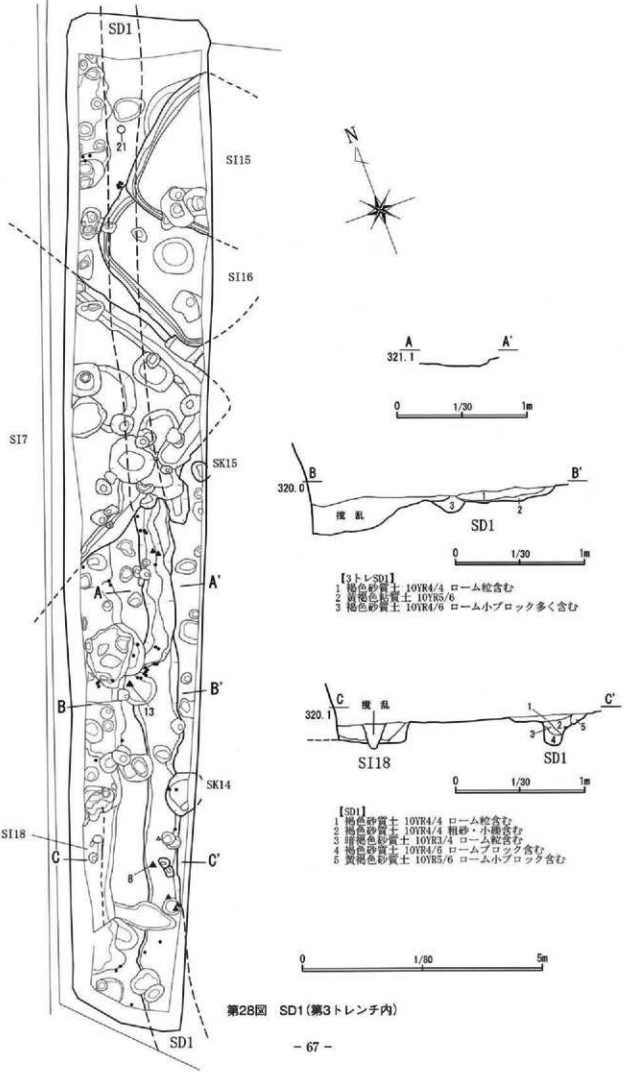
SK23・24



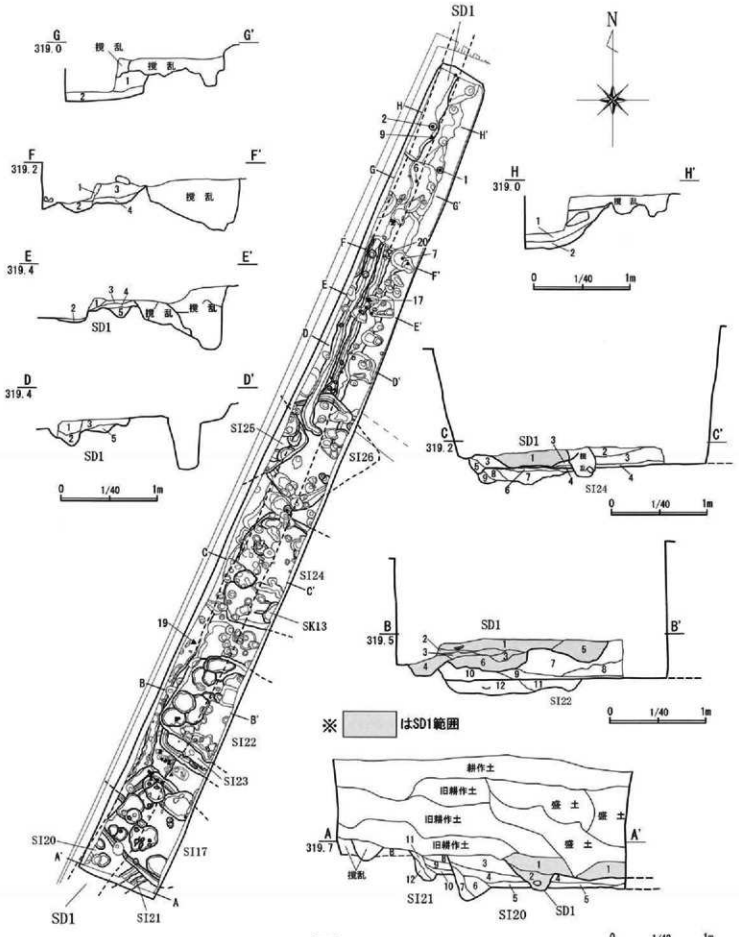
第26図　SK16～20・23・24


第6トレンチ
第5トレンチ
第4トレンチ
第3トレンチ
N
SI27
SI28
SI25
SI26
SI24
SK13
SI22
SI20
SI23
SI17
SI21
SI15
SI7
SI16
SK15
SI18
SK14
⑤
④
③
②
①
※ はSD1検出範囲
0
1/250
10m

第27図　SD1全体図

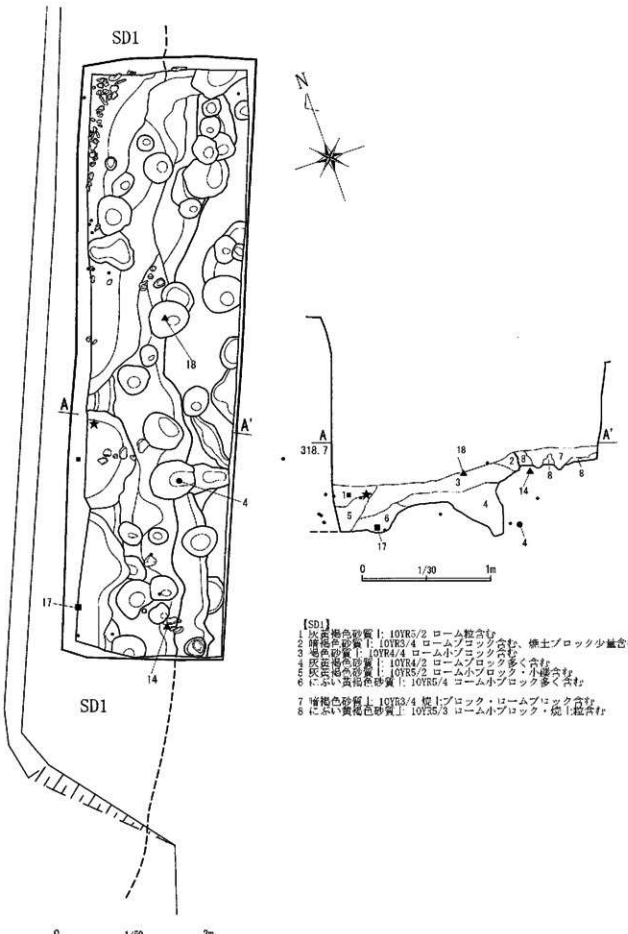


第28図　SD1（第3トレンチ内）

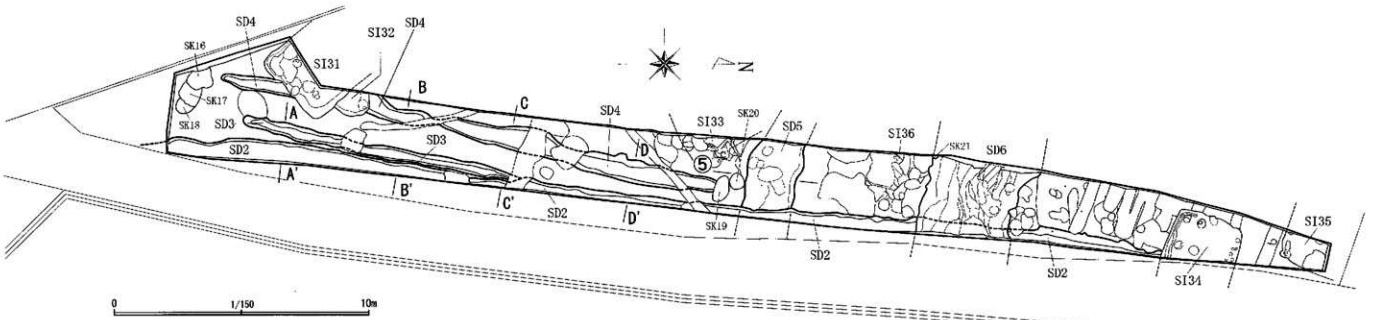


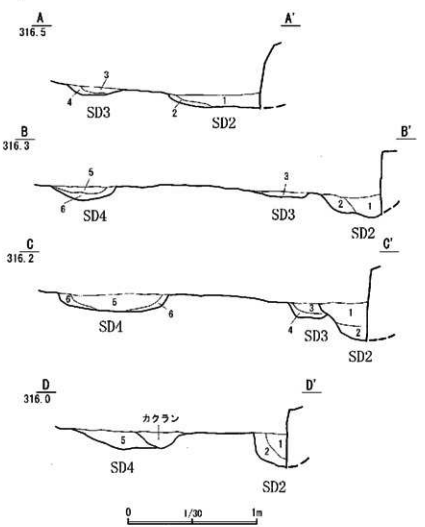
【SD1】
1 暗褐色砂質土 10YR3/2 ローム粒・粗砂・小礫含む
2 灰黄褐色砂質土 10YR5/2 粗砂多く含む、酸化し硬化
3 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 酸化し硬化
4 にぶい黄褐色砂質土 10YR6/4 ロームブロック多く含む
5 褐色砂質土 10YR4/4 ローム小ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
6 褐色砂質土 10YR4/4 ローム小ブロック・焼土小ブロック含む

第29図 SD1（第4トレンチ内）

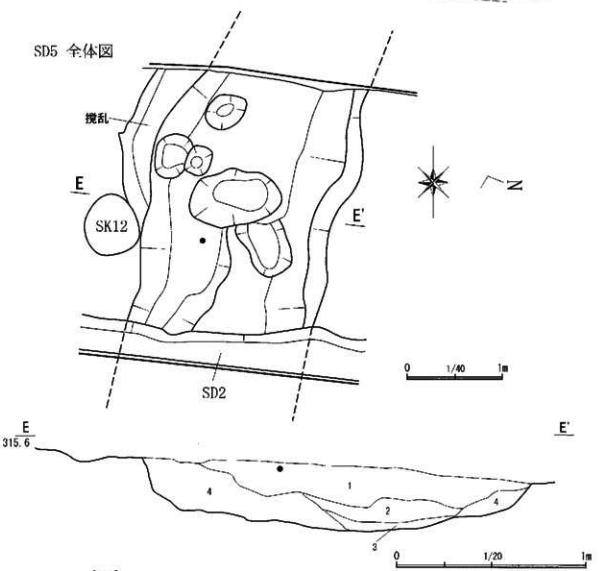


第30図　SD1（第6トレンチ内）



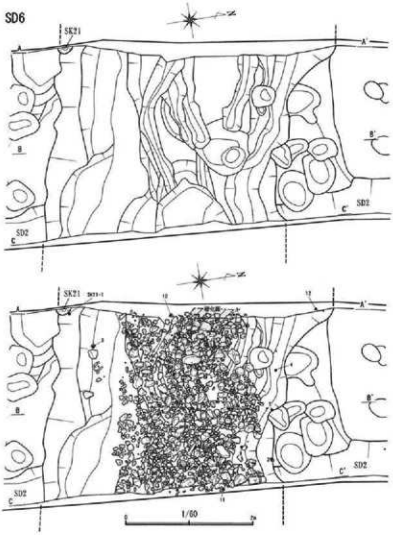


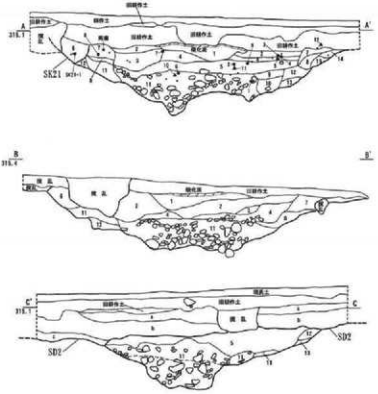
【SD2・3・4】
1 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ローム小ブロック多く含む
2 黄色砂質土 10YR4/6 ローム小ブロック多く含む
3 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 ローム小ブロック多く含む
4 黄褐色砂質土 10YR5/6 ローム小ブロック多く含む
5 灰黄色砂質土 10YR6/2 ローム小ブロック含む
6 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ローム小ブロック含む



【SD5】
1 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 ローム小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ローム小ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ローム小ブロック多く含む
4 褐色砂質土 10YR4/6 ローム小ブロック含む

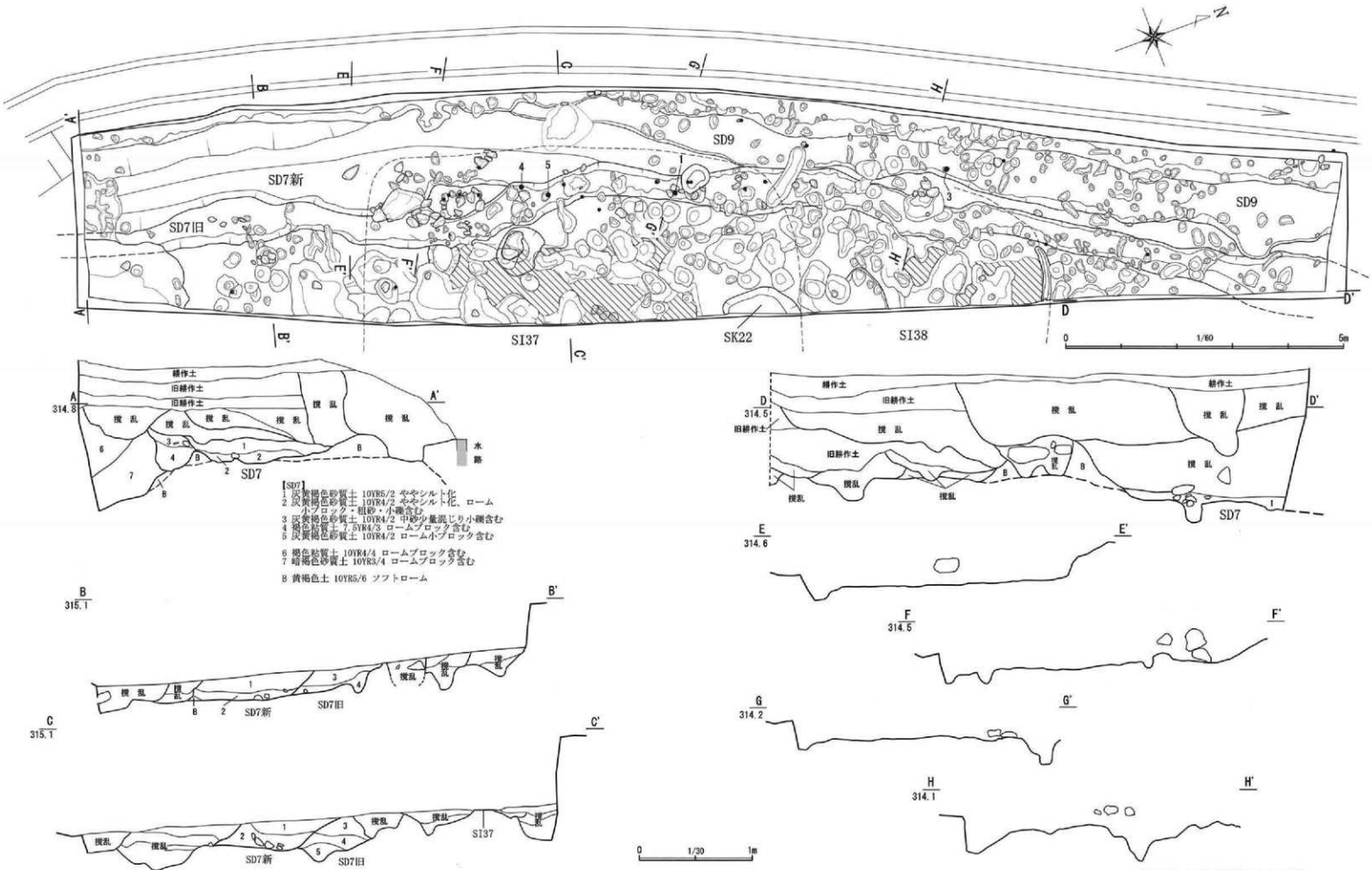
第31図 SD2・3・4・5(第8トレンチ内)



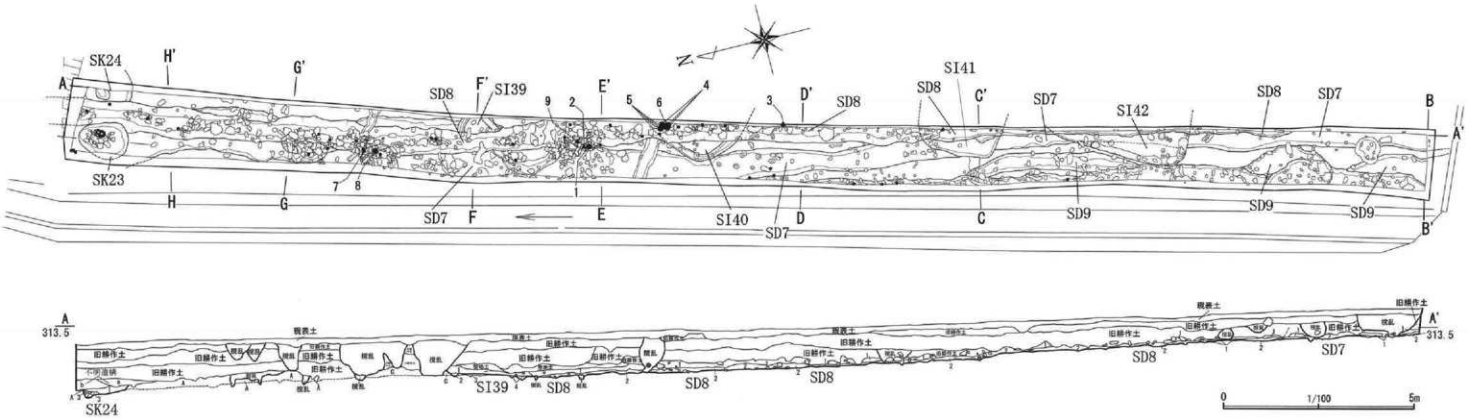


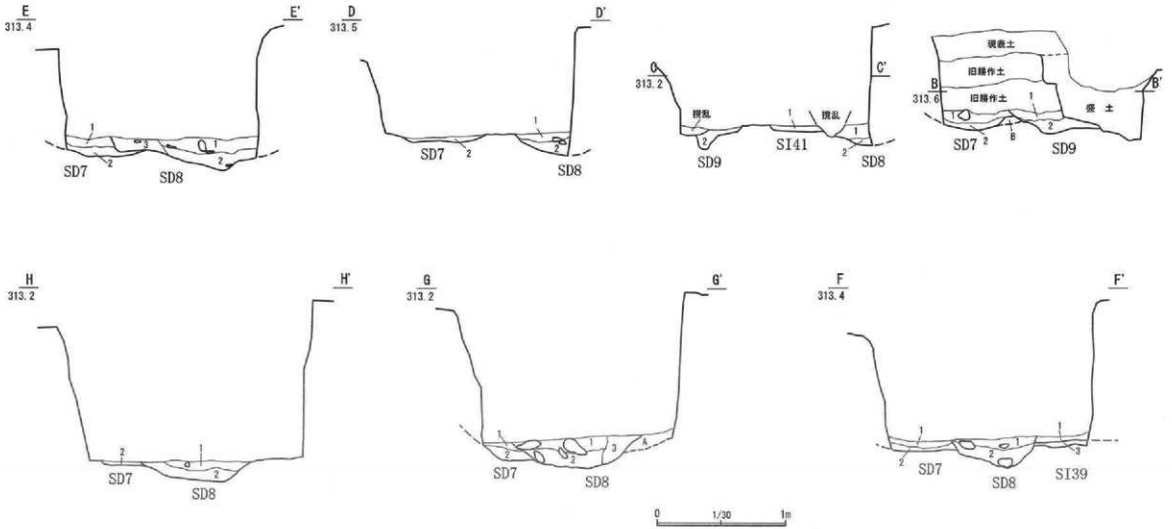
SD6鳥歯出土微細図

第32図　SD6(第8トレンチ内)



第33図　SD7・9(第9トレンチ内)





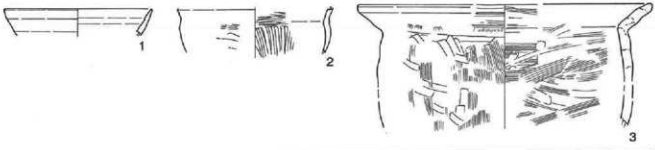
【SI39】
1 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロックやや多く含む
2 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ロームブロック多く含む
3 褐色砂質土 10YR4/6 ローム小ブロック多く含む
4 褐色砂質土 10YR4/4 ローム小ブロック・小礫含む
【SI41】
1 褐色砂質土 10YR4/4 ロームブロックやや多く含む
【SD7】
1 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 粗砂含む
2 灰黄褐色砂質土 10YR5/2 粗砂・小礫含む
【SD8】
1 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/4 ロームブロック・小礫含む
2 褐色砂質土 10YR4/4 礫・粗砂・ローム小ブロック含む
3 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ローム小ブロック・小礫含む
【SD9】
1 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 小礫含む
2 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 ロームブロック多く含む
【SK24】
1 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 砂礫混じり
2 暗褐色砂質土 10YR3/3 砂礫混じり
3 暗褐色粘質土 10YR3/4 ローム粒含む
【不明遺構】
a 黒褐色粘質土 10YR2/3 砂礫混じり
b にぶい黄褐色シルト 10YR4/2

A 褐色砂質土 10YR4/4 ローム小ブロック含む
B 黄褐色土 10YR5/6 ソフトローム
C 黄褐色粘質土 10YR5/6 ハードローム

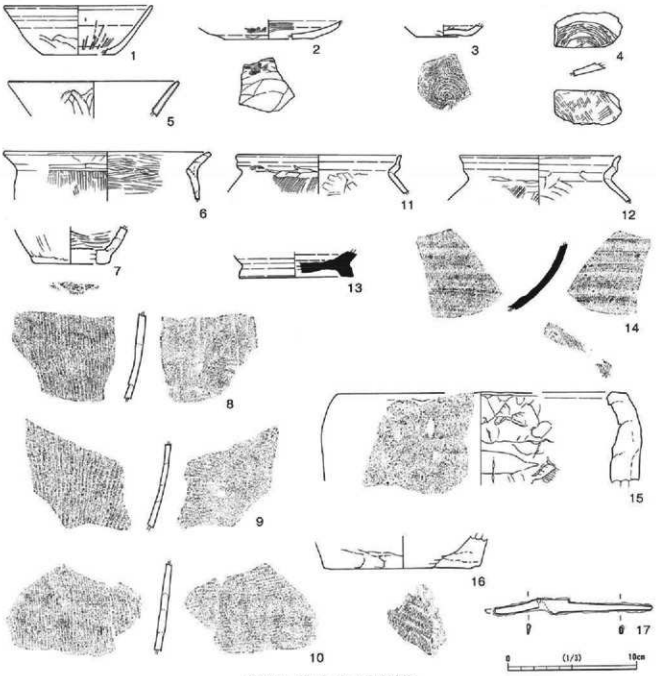
第34図　SD7・8・9（第10トレンチ内）

SI2

SI3

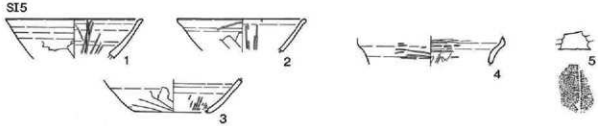


SI4

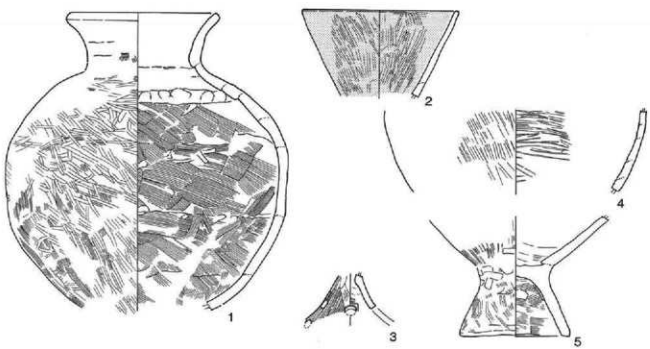


第35図　SI2・3・4出土遺物

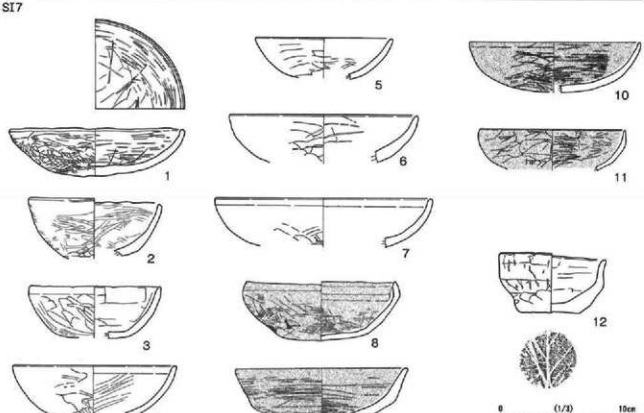
SI5



SI6

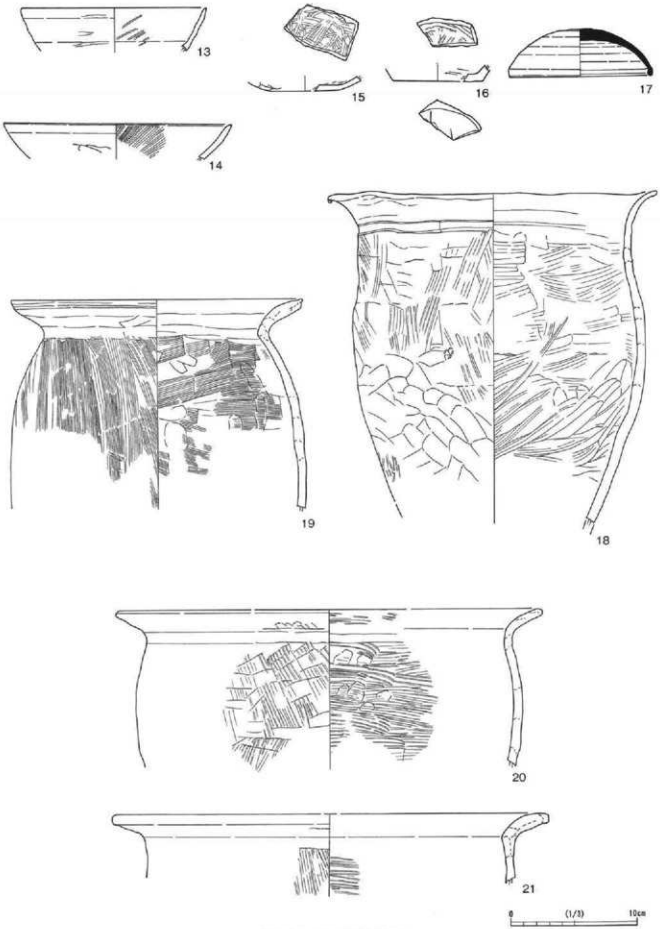


SI7



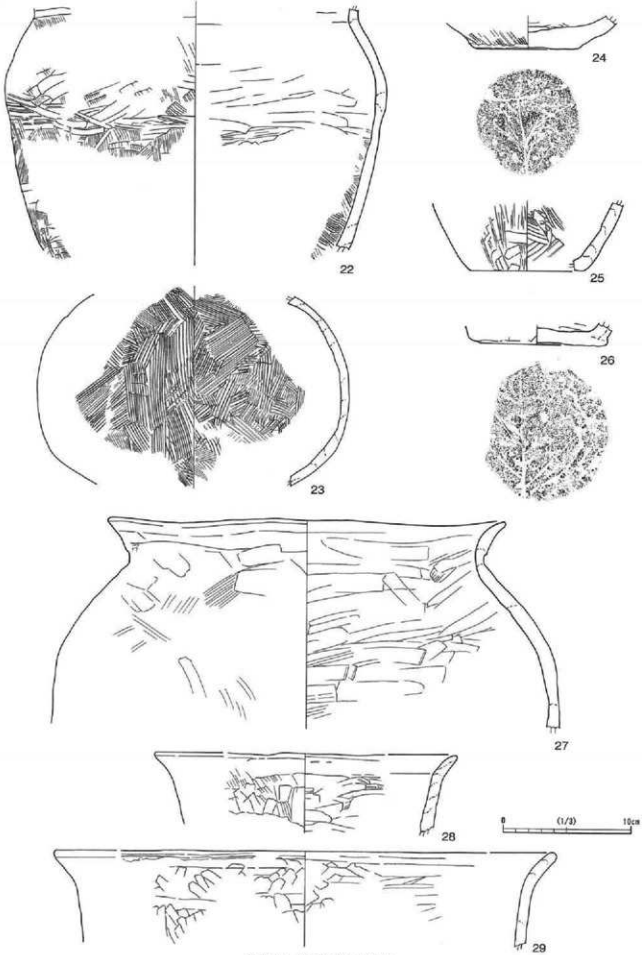
第36図　SI5・6・7(1)出土遺物

SI7



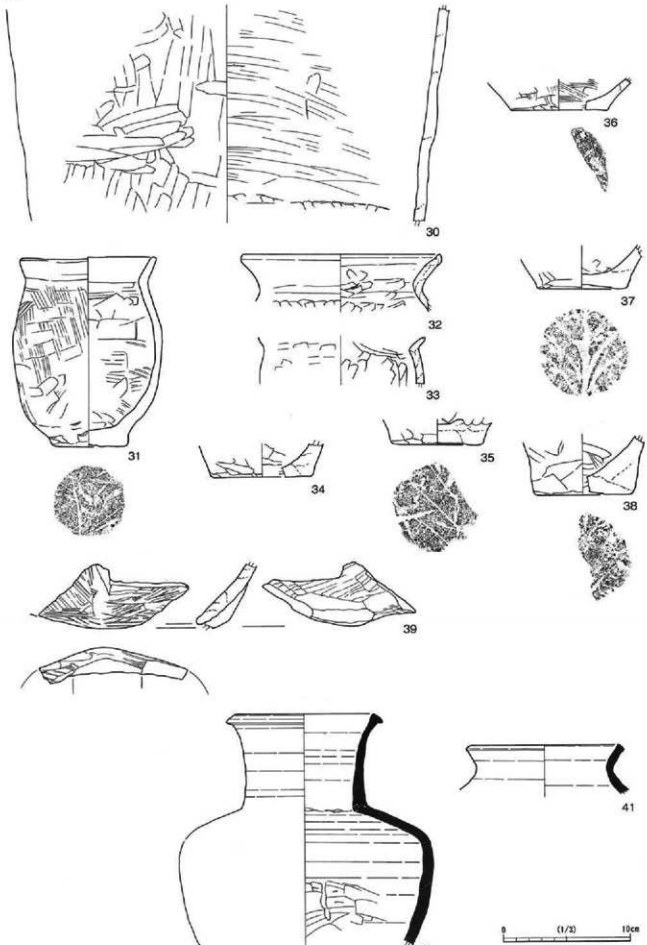
第37図　SI7(2)出土遺物

SI7

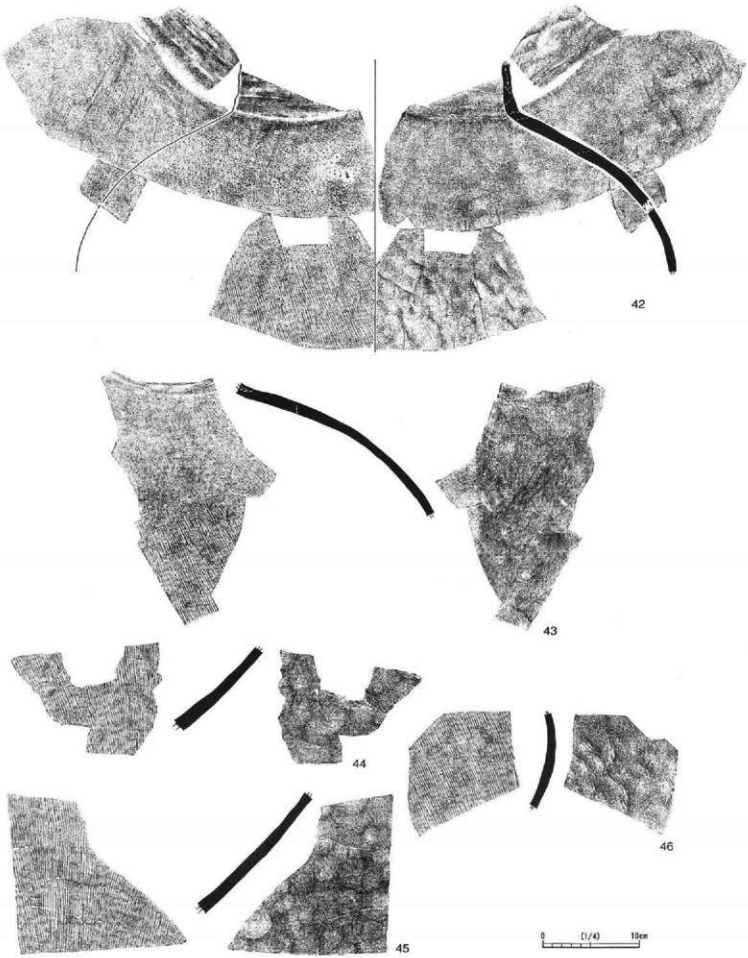


第38図　SI7(3)出土遺物

SI7

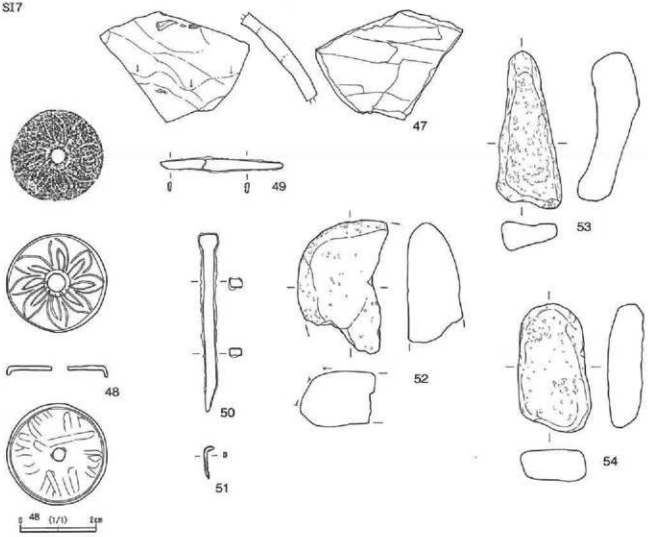


第39図　SI7(4)出土遺物

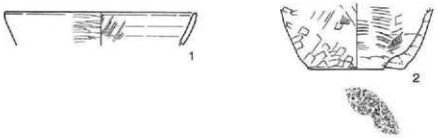


第40図　SI7(5)出土遺物

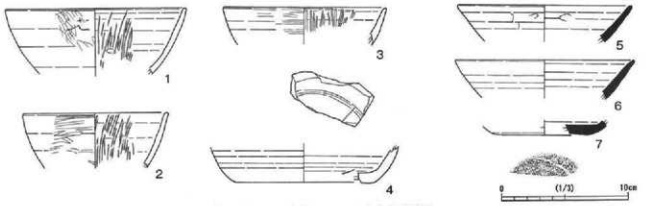
SI7



SI12

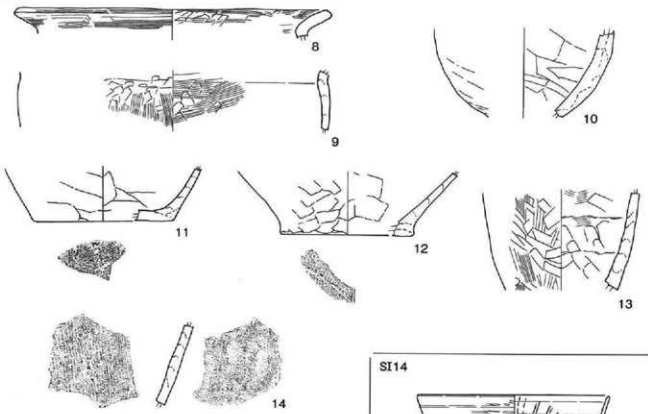


SI13



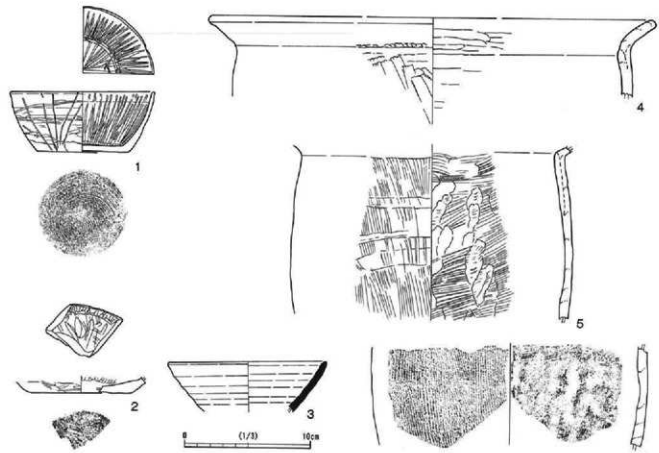
第41図　SI7(6)・12・13(1)出土遺物

SI13



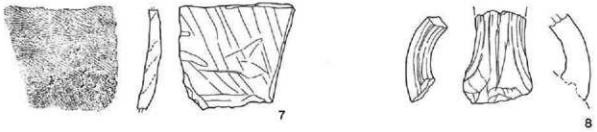
SI14

SI15

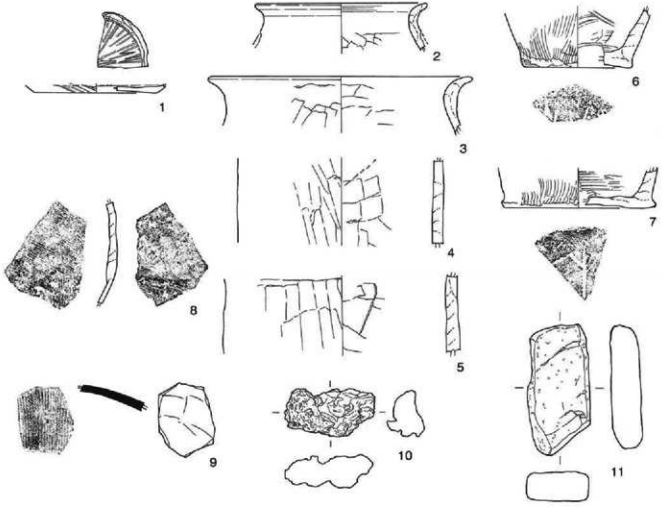


第42図　SI13(2)・14・15(1)出土遺物

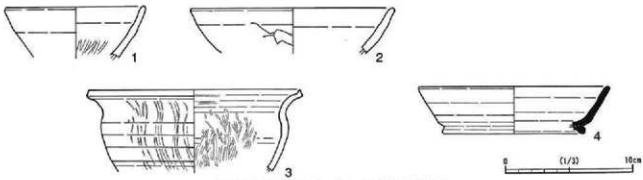
SI15



SI16

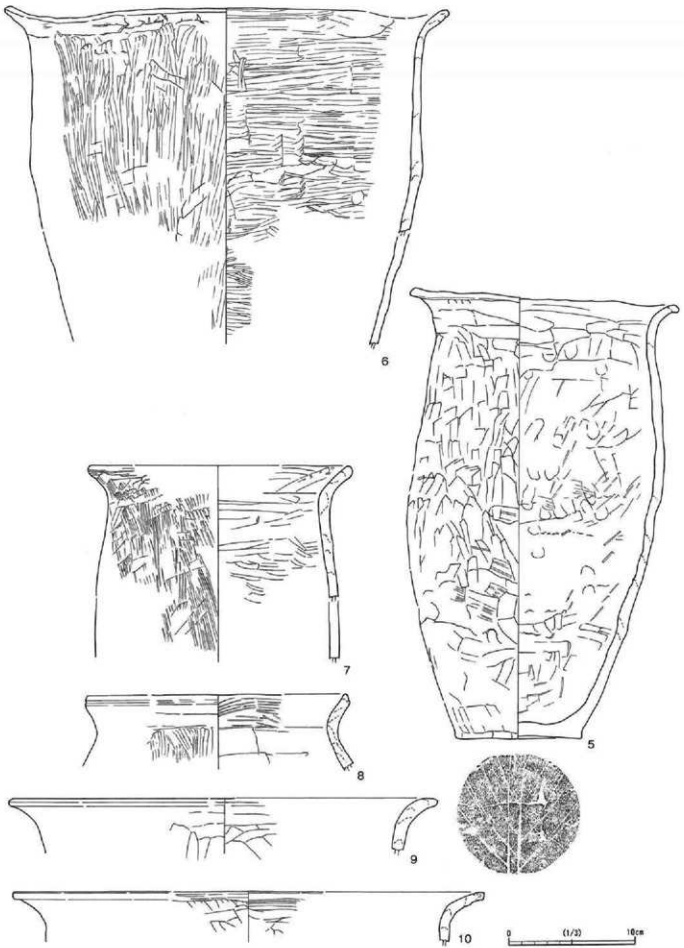


SI17



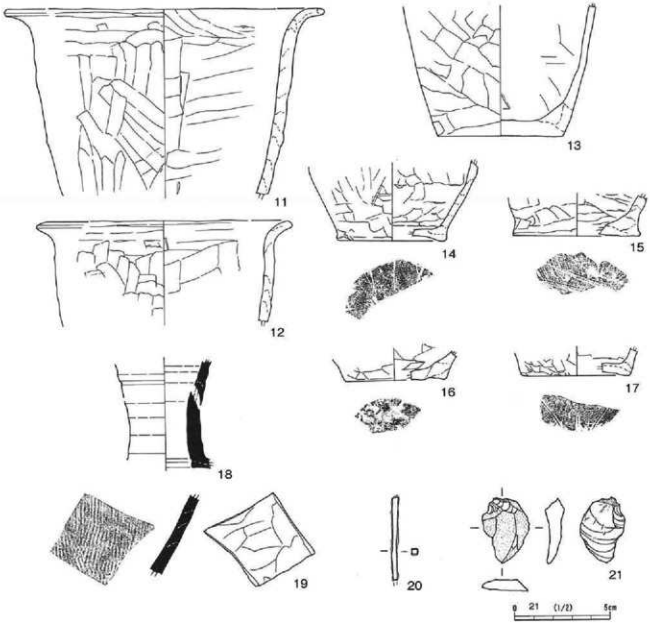
第43図　SI15(2)・16・17(1)出土遺物

SI17

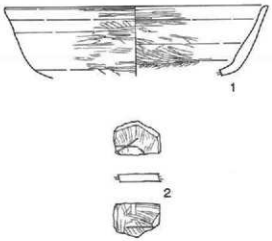


第44図　SI17(2)出土遺物

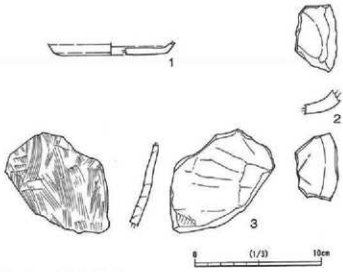
SI17



SI18

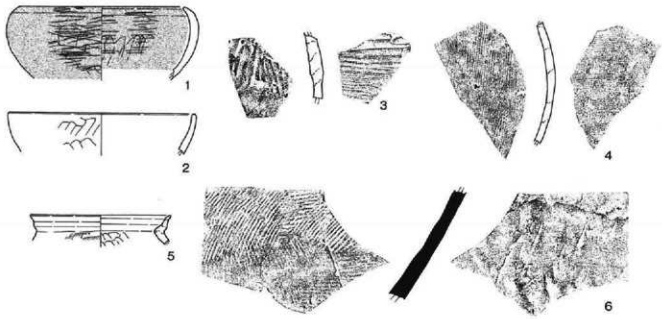


SI19

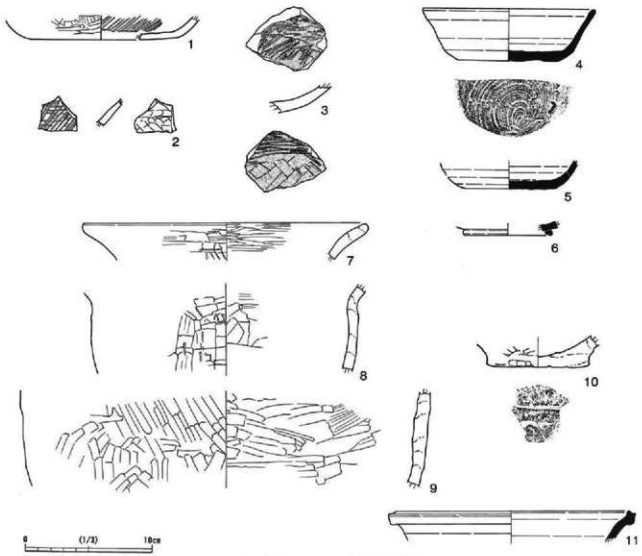


第45図　SI17(3)・18・19出土遺物

SI20

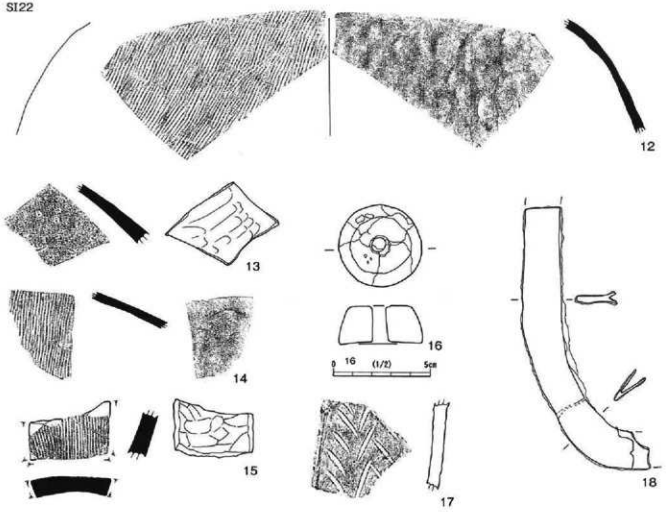


SI22



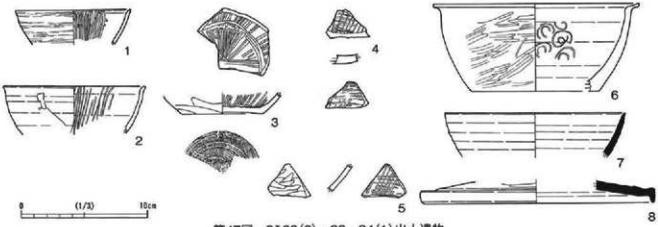
第46図　SI20・22(1)出土遺物

SI22



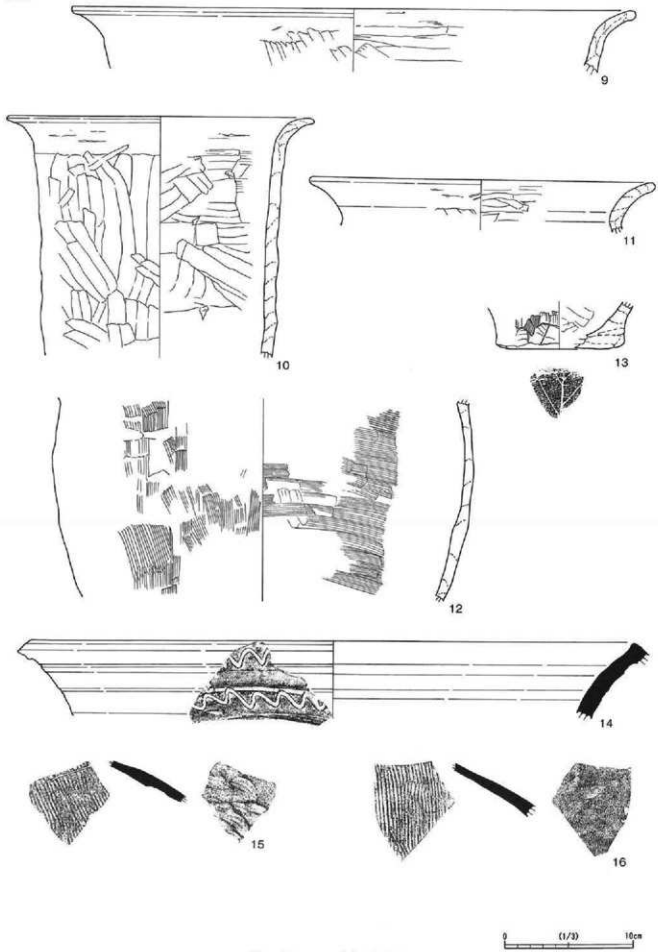
SI23

SI24



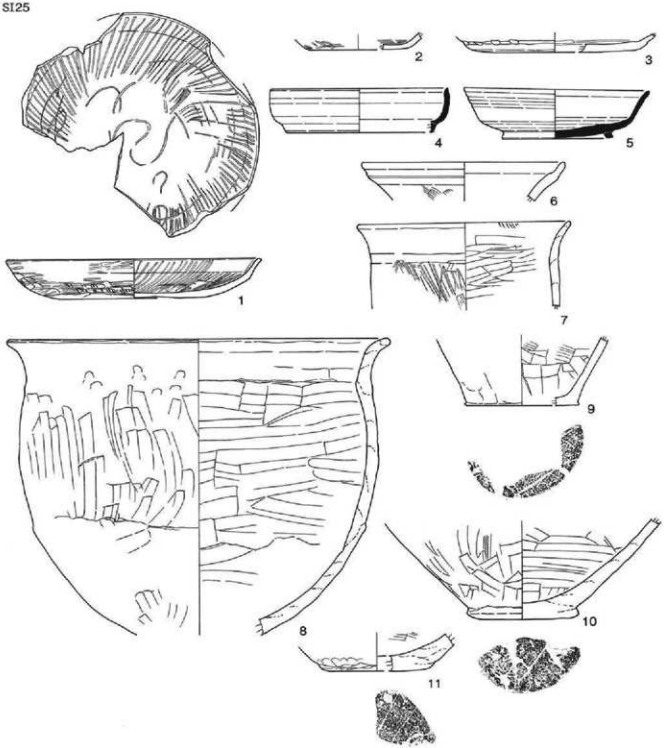
第47図　SI22(2)・23・24(1)出土遺物

SI24

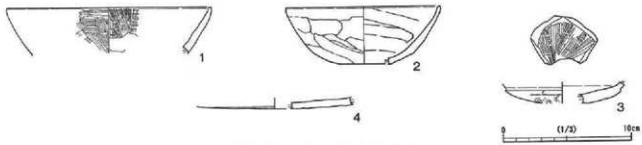


第48図　SI24(2)出土遺物

SI25

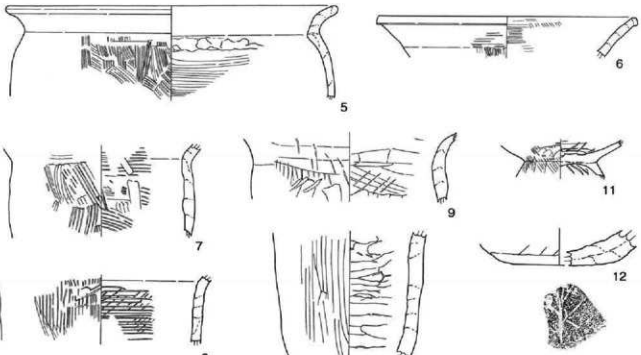


SI26

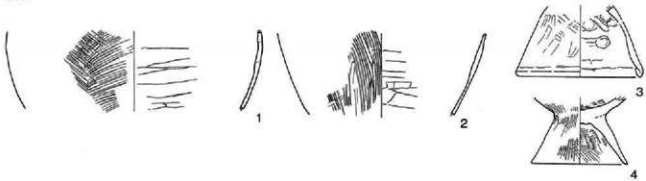


第49図　SI25・26(1)出土遺物

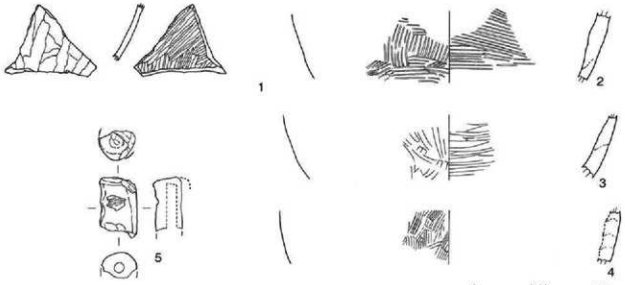
SI26



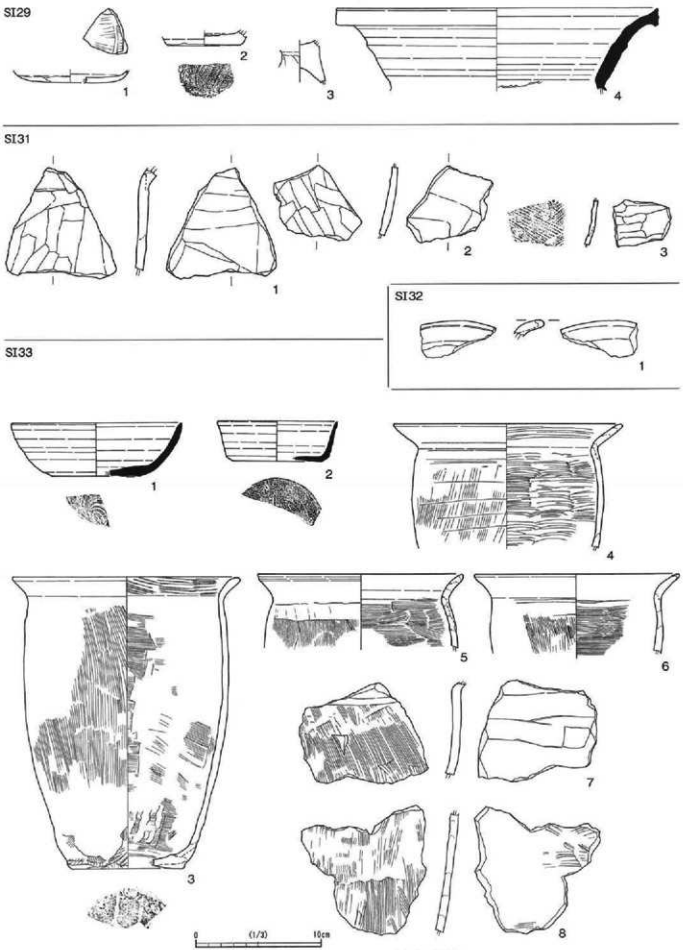
SI27



SI28

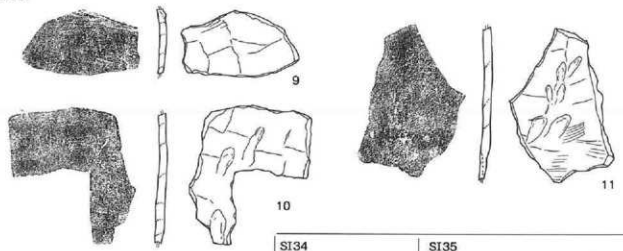


第50図　SI26(2)・27・28出土遺物

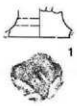


第51図　SI29・31・32・33(1)出土遺物

SI33

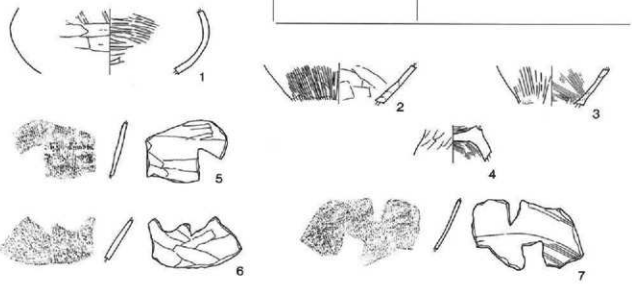


SI34

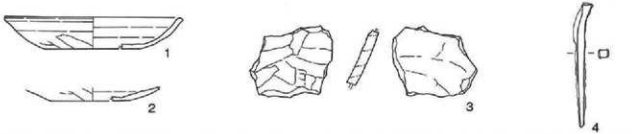


SI35

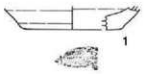
SI37



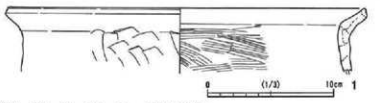
SI38



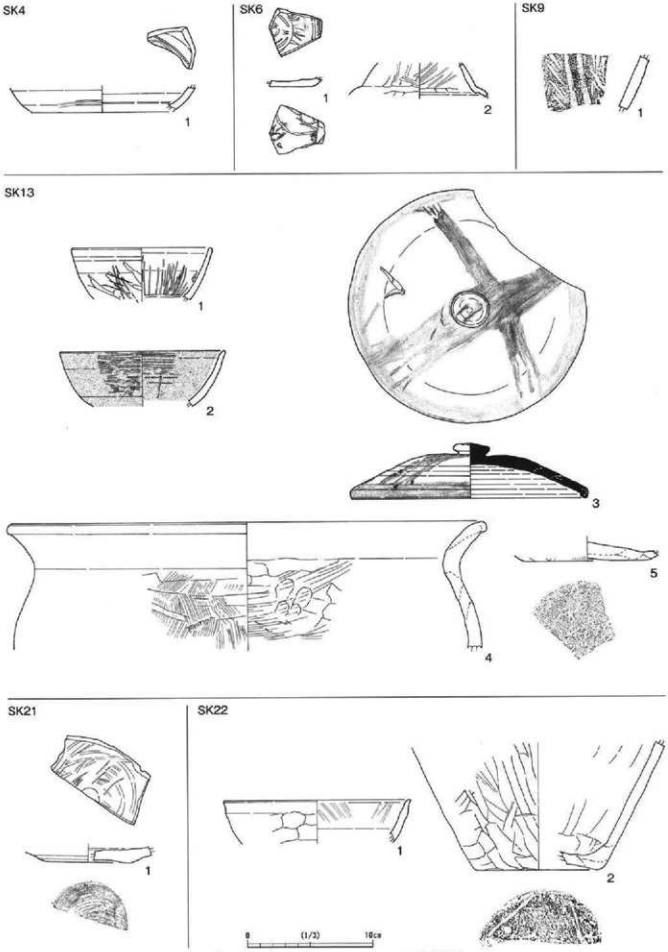
SI41



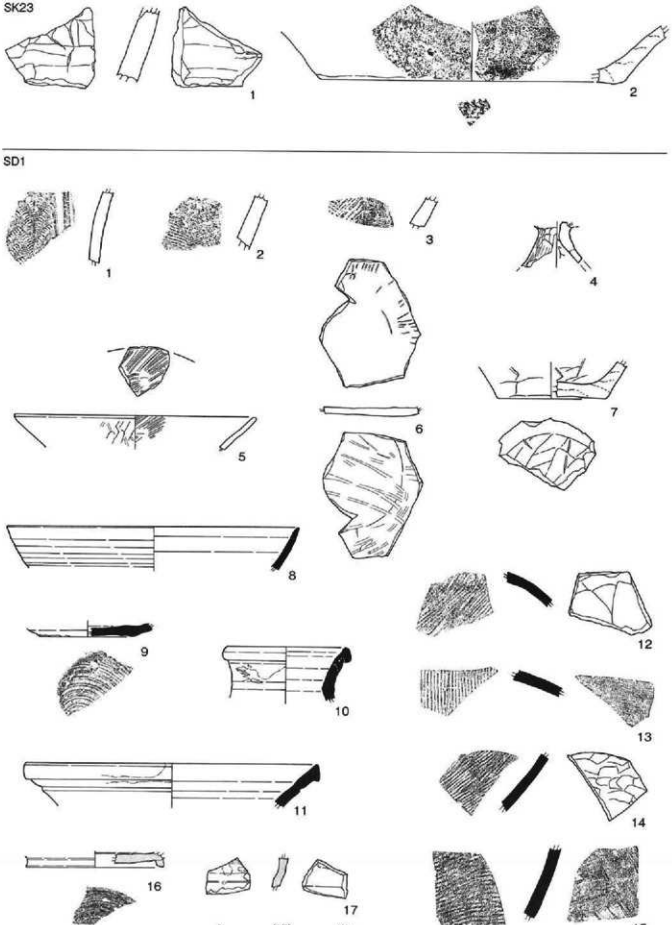
SI42



第52図　SI33(2)・34・35・38・41・42出土遺物

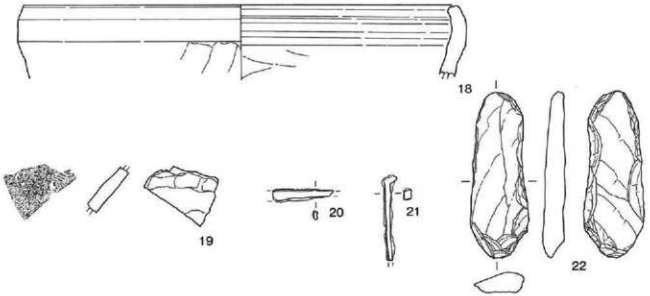


第53図　SK4・6・9・13・21・22出土遺物

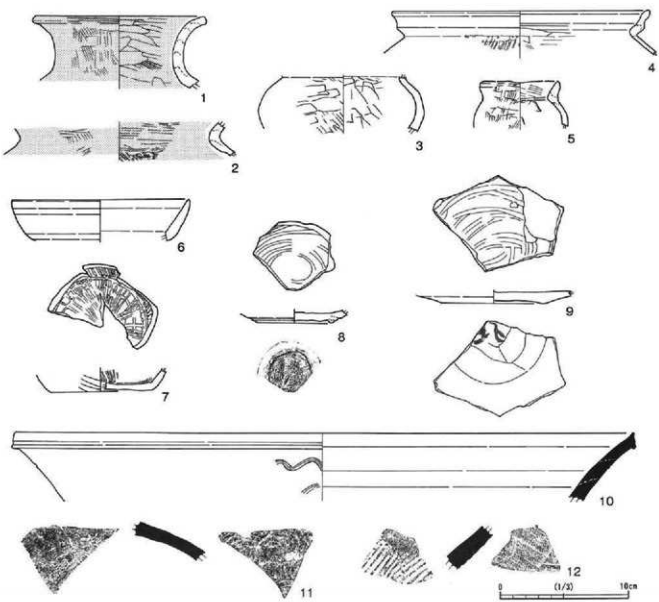


第54図　SK23、SD1(1)出土遺物

SD1

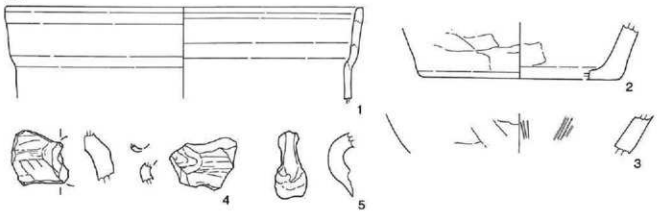


SD6

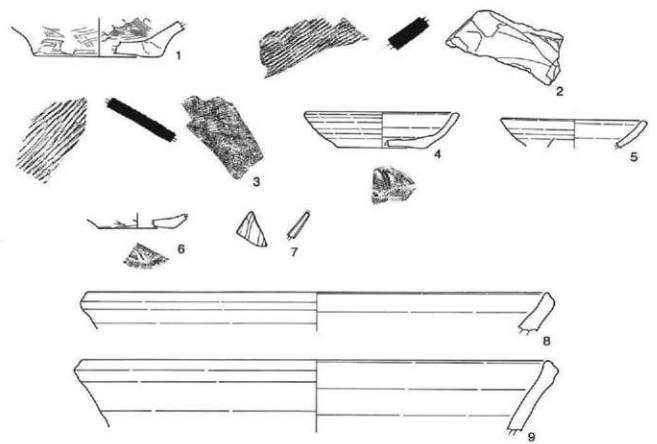


第55図　SD1(2)・SD6出土遺物

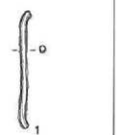
SD7



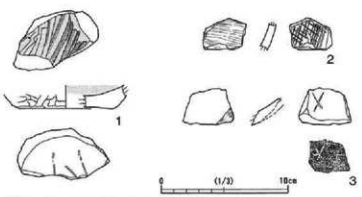
SD8



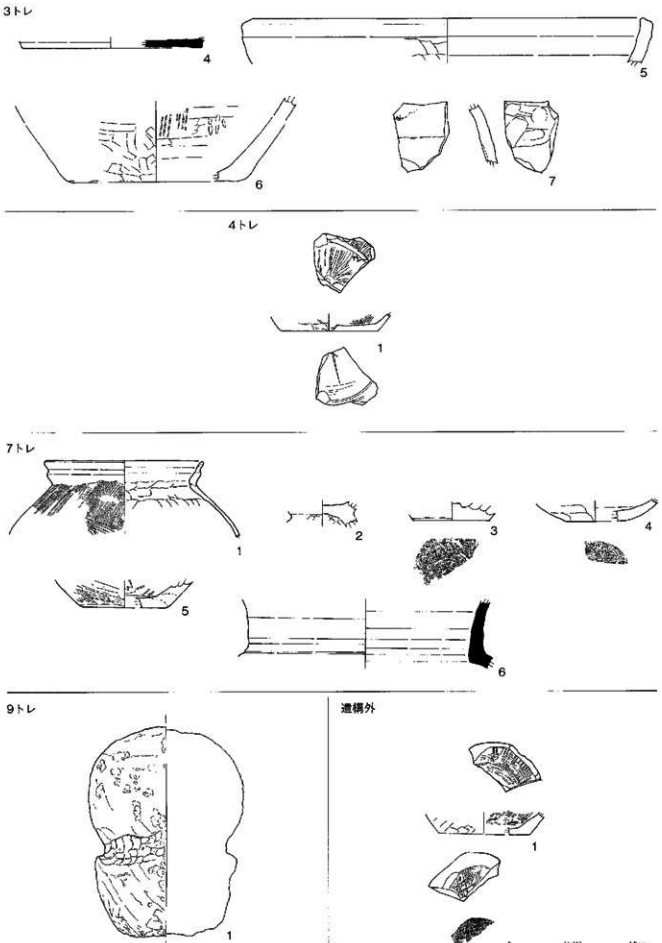
1トレ



3トレ



第56図　SD7・8, 第1トレンチ・第3トレンチ(1)出土遺物



第57図　第3トレンチ(2)・第4・7・9トレンチ，遺構外出土遺物

付編１　金地蔵遺跡出土炭化材の樹種同定

小　林　克　也（パレオ・ラボ）

１．はじめに

金地蔵遺跡は山梨県笛吹市八代町北に所在し，御坂山地の中央部から発して甲府盆地に至る浅川が形成する扇状地上に立地する，古墳時代～近現代にかけての複合遺跡である。本遺跡ここでは竪穴建物跡が検出され，遺構内より炭化材が出土した。ここでは出土した炭化材の樹種同定を行った。

２．試料と方法

試料は７世紀後半の竪穴建物跡であるSI7から出土した炭化材２点である。確認できる試料については，残存半径と残存年輪数の計測を行った。残存半径は，試料で残存している半径を直接計測し，残存年輪数については残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は，横断面（木口），接線断面（板目），放射断面（柾目）についてカミソリなどで割断面を作製し，整形して試料台に両面テープで貼り付けた。その後乾燥させ，イオンスパッタで金コーティングを施し，走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行った。なお，同定試料の残りは笛吹市教育委員会に保管されている。

３．結　果

同定の結果，広葉樹のブナ属と樹種不明の広葉樹の２分類群が算出した。試料No.1（取り上げNo.210）はブナ属で，試料No.2（取り上げNo.227）は広葉樹であった。

表１　金地蔵遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料No.	出土遺構	取り上げNo.	樹種	木取り	残存半径(cm)	残存年輪数	時期	備考
1	SI7	210	ブナ属	板目?	1.1	10	7世紀後半	板材か
2	SI7	227	広葉樹	芯持丸木	-		7世紀後半	直径2mm

残存年輪数の計測では，試料No.1は残存年輪数1.1cm内に10年輪がみられ，試料No.2は直径2mmで年輪界は確認できなかった。同定結果一覧を表１に示す。

次に同定された材の特徴を記載し，各試料の走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) ブナ属 *Fagus*　ブナ科　図版１　1a-1c（No.1）

小型の道管が単独ないし２～３個複合して密に散在する散孔材である。年輪の終わりでは道管は径を減じる傾向がみられる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で，幅１～７列となる。

ブナ属にはブナとイヌブナがあり，冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は重硬で強度があるが，切削加工は困難でない。

(2) 広葉樹　Broad-leaf wood　図版１　2a-2c（No.2）

小型の道管が単独ないし２～３個複合してやや密に散在するが，１年生の枝材で年輪界が確認できず，２次木部の成長が未熟であるため環孔材，散孔材の区別が出来なかった。また接線断面や放射断面では放射組織が確認できず，広葉樹までの同定とした。

４．考　察

同定の結果，SI7ではブナ属と広葉樹が各１点産出した。試料No.1のブナ属は，SI7内の主柱穴と考えられているピット付近より，床面から浮いた状態で出土した。今形を保ってはいないが板状をしており，木取りは板目であった。建築材や木製品などであった可能性が考えられる。ブナ属は一般的に材の乾燥時に狂いが出やすいが，強度が高くて加工性は悪くないという性質から，建築材として利用されていた可能性が考え

られる。

試料 No.2 の広葉樹は，SI7 内の汨カマド付近で床面より浮いた状態で出土した直径 2mm ほどの細い材であり，用途としては焚き付けの際の着火材や竪穴建物跡の屋根の被覆材などの可能性が考えられた。しかし SI7 ではカマドの作り替えが行われており，当該跡の廃棄時には旧カマドは機能していなかったと考えられている。したがって材の用途は，竪穴建物跡の被覆材であった可能性が高い。

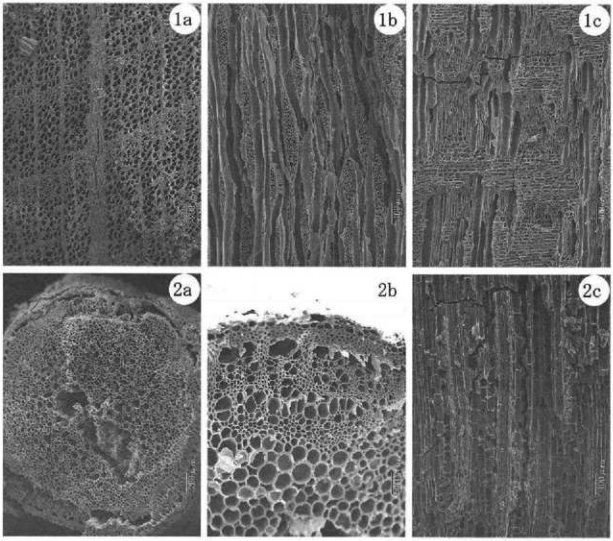
金地蔵遺跡と同じく甲府盆地に立地する甲府市大坪遺跡では，奈良～平安時代の建築部材 5 点の樹種同定が行われ，ヒノキ属が 3 点，ヒノキとサワラが各 1 点産出した（松葉，2002）。また大坪遺跡では花粉分析も行われており，古墳時代中期～奈良時代初頭？においては，木本ではスギとコナラ属コナラ亜属（以下コナラ亜属と呼ぶ）が多く生育する森林が広がっていたと推測され，ブナ属を構成するブナとイヌブナも少量であるが確認されている（鈴木，2002）。

大坪遺跡で同定された建築部材にブナ属は含まれていなかったが，金地蔵遺跡と大坪遺跡はどちらも甲府盆地に立地し，植生が類似していた可能性が高い。金地蔵遺跡の周辺森林でもブナ属が生育し，建築材として利用されていた可能性が考えられる。

引用文献

松葉礼子（2002）大坪遺跡から出土した木製品（奈良～平安時代）の樹種同定．大坪遺跡発掘調査会編「大坪遺跡―平成 12 年度調査地点の報告―」：28-30，大坪遺跡発掘調査会．

鈴木　茂（2002）大坪遺跡東区の花粉化石．大坪遺跡発掘調査会編「大坪遺跡―平成 12 年度調査地点の報告―」：34-39，大坪遺跡発掘調査会．



図版1　金地蔵遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. ブナ属（No.1）　2a-2c. 広葉樹（No.2）
1a: 横断面・1b: 接線断面・1c: 放射断面
2a: 横断面・2b: 横断面拡大・2c: 放射断面

付編２　金地蔵遺跡から出土した炭化種実

佐々木　由香・バンダリ スダルシャン（パレオ・ラボ）

１．はじめに

山梨県笛吹市八代町に位置する金地蔵遺跡は，甲府盆地の南東部の御坂山地北麓の甲府盆地に至る浅川の扇状地上に立地し，古墳時代から平安時代を主体とする集落跡である。特に奈良・平安時代では古代甲斐国にあたる八代郡の八代・長江郷域にあたるとみられ，郡家の所在郷であった可能性がきわめて高いと考えられている。ここでは竪穴住居跡の覆土から回収された炭化種実の同定を行い，当時の利用植物や生産作物について検討した。

２．試料と方法

試料は，竪穴建物跡の覆土を水洗して回収された炭化種実である。試料の内訳は，SI4 が１試料（カマド覆土），SI7 が７試料（新カマド覆土，旧カマド覆土，P1（柱穴／ピット）覆土下層，№ 35 土器内，№ 84 土器内，№ 85 土器内，№ 21 上器内），SI8 が１試料（炉覆土），SI13 が２試料（カマド覆土とカマド焼土），SI17 が１試料（カマド焼土），SI25 が２試料（カマド焼土と№ 43 土器内），SI28 が１試料（カマド焼土），SI33 が２試料（カマド覆土とカマド焼土），SI37 が２試料（炉覆土と炉焼土），SI15 が１試料（№２土器内）の計 20 試料である。遺構の時期は，出土土器から判断して SI18 と SI37 が古墳時代前期，SI7 と SI17，SI25，SI33 が７世紀後半代，SI28 が７世紀後半か？，SI13 が８世紀前半代，SI15 が８世紀後半代，SI14 が９世紀後半代である。

土壌の回収と水洗は（財）山梨文化財研究所によって行われた。抽出・同定・計数は，肉眼および実体顕微鏡下で行った。微細な破片が多く，計数が困難な分類群についてはおおよその産出量を記号（+）で示した。試料および残渣は笛吹市教育委員会に保管されている。

３．結　果

同定の結果，得られた炭化種実は，木本植物ではモモ炭化核の１分類群，草本植物ではアカザ属炭化種子とササゲ属アズキ亜属アズキ型（以下アズキ型）炭化種子，マメ科Ａ炭化種子，シソ属炭化果実，メナモミ属炭化果実，イヌビエ属炭化種子，イネ炭化種子（玄米），アワ炭化種子，コムギ炭化種子，イネ科炭化種子，ホタルイ属炭化果実・炭化種子の 11 分類群の計 12 分類群が同定された。オオムギかコムギかを識別できなかった一群はオオムギ-コムギとした。この他に残存が悪いために科以下の同定ができなかった不明炭化種実があり，タイプ別にＡからＤに分けた。同定の識別点を欠く種実の一群は同定不能炭化種実とした。種実以外には炭化した虫えいと子嚢菌が得られた（表１・２）。各遺構からは未炭化のイヌタデ果実とアカザ属種子，スベリヒユ属種子，ハコベ属種子，マメ科種子，エノキグサ属種子，カタバミ属種子，メハジキ属果実，メヒシバ属果実，オヒシバ属種子，イヌビエ属内外頴，エノコログサ属外頴，不明種子が得られたが，遺跡の立地から当時の生の種実は残存しないと判断されるため，検討の対象外とした。

以下に，時期別に遺構ごとの炭化種実出土傾向を記載する（同定不能炭化種実と虫えい，子嚢菌は除く）。

［古墳時代前期］

SI18：同定可能な種実は得られなかった。

SI37：シソ属がやや多く，マメ科Ａとイヌビエ属，イネ，オオムギ-コムギがわずかに得られた。

［７世紀後半代］

SI7：新カマド内からアズキ型とマメ科Ａ，イネ，アワ，コムギ，不明Ｂ，不明Ｃがわずかに得られた。旧カマドからアカザ属とイネ，アワがわずかに得られた。P1 からオオムギ-コムギとイネ科，ホタルイ属

表1　金地蔵遺跡から出土した炭化種実（括弧は破片を示す）

	ケースNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	遺構名	SI4				SI7				SI8	SI13	
	採取地点	カマド	新カマド	旧カマド	P1 (北ピット)	No.35土器内	No.34土器内	No.83土器内	No.21土器内	炉	カマド	
	採取層位	焼土	覆土		焼土下層					焼土	焼土	焼土
	土壌採取重量(kg)	4.8	25.4	8	7.5	0.085	0.049	0.085	0.04	2.6	22.8	8
分類群	部位/推定時期	9C後				7C後				古墳前期	8C前	
アカブ属	炭化種子			1								
ササゲ属アズキ亜属アズキ	炭化種子		1 (5)									
マメ科A	炭化種子		1 (8)								(1)	
イヌビエ属	炭化種子										1	
イネ	炭化種子		1 (11)	(1)							1	
アワ	炭化種子		4	1		(1)					1	
コムギ	炭化種子		1									
オオムギ-コムギ	炭化種子				1							
イネ科	炭化種子				1							
ホタルイ属	炭化果実				1							
不明D	炭化種実	1										
不明B	炭化種実		1									
不明C	炭化種実		1									
同定不能	炭化種実	(52)	(141)	(9)	(28)	(2)				(11)	(69)	(45)
虫えい		1 (1)			1 (2)					1	(2)	
子嚢菌	炭化子嚢				1							

表2　金地蔵遺跡から出土した炭化種実（括弧は破片を示す）

	ケースNo.	12	14	15	16	17	18	19	20	21
	遺構名	SI17	SI25	SI28	SI33		SI37		SI15	SI25
	採取地点	カマド	カマド	カマド	カマド		炉		No.2土器内	No.43土器内
	採取層位	焼土	焼土	焼土	覆土	焼土	焼土	覆土		
	土壌採取重量(kg)	10.3	5.6	13.1	6.4	2.8	13.2	12	0.057	0.1551
分類群	部位/推定時期	7C後		7C後か?	7C後		古墳前期		8C後	7C後
モモ	炭化核					1				
マメ科A	炭化種子							1		
シソ属	炭化果実						11	4 (1)		
メナモミ属	炭化果実				1					
イヌビエ属	炭化種子						4	1		
イネ	炭化種子	1	1 (2)	(1)	(1)	1 (1)		(1)		
オオムギ-コムギ	炭化種子							2		
ホタルイ属	炭化果実	1								
	炭化種子	2								
不明D	炭化種実		1							
同定不能	炭化種実	(34)	(18)	(91)	(11)	(23)	(61)	(77)	(75)	(2)
虫えい		1 (2)		5 (2)			5 (9)	3 (6)		
子嚢菌	炭化子嚢	6								

No. 13は欠番、++:10～20点

がわずかに得られた。No.35 土器内からアワがわずかに得られた。

SI17：イネとホタルイ属がわずかに得られた。

SI25：イネと不明 D がわずかに得られた。

SI33：モモとメナモミ属，イネがわずかに得られた。

［7 世紀後半か？］

SI28：イネがわずかに得られた。

［8 世紀前半代］

SI13：マメ科 A とイヌビエ属，イネ，アワがわずかに得られた。

［8 世紀後半代］

SI15：同定可能な種実は得られなかった。

［9 世紀後半代］

SI18：不明 A がわずかに得られた。

次に，産出した主要な分類群の炭化種実の記載と図版を掲載し，同定の根拠とする。なお，図版ではレイアウトの都合上，イネ科とコムギの順序を逆にして配置した。

(1) モモ　*Amygdalus persica* L.　炭化核　バラ科

すべて微細な破片で，計測はしていない。完形ならば，上面観は両凸レンズ形，側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。

(2) ササゲ属アズキ亜属アズキ型　*Vigna angularis* var. *angularis* type　炭化種子　マメ科

上面観は方形に近い円形，側面観は方形に近い楕円形。長楕円形の臍の内部に厚膜（Epihilum）が残存する（小畑ほか，2007）。へそは全長の半分から2/3ほどの長さ。種瘤が突出する。現生種と大きさを比較すると，野生種と栽培種双方を含む（小畑，2008）。長さ4.0mm，幅3.0mm，厚さ2.8mm。

(3) マメ科A　Leguminoseae sp. A　炭化種子

上面観は狭楕円形，側面観は楕円形で，表面は平滑で強い光沢がある。臍は残存していない。長さ7.5～7.7mm，幅4.6～5.5mm，厚さ3.0～5.0mm程度。へその構造は不明であるが，全体の形状は扁平なダイズ属に似る。

(4) イヌビエ属　*Echinochloa* spp.　炭化穎子　イネ科

側面観は長卵形，断面は片凸レンズ形であるが，厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く，長さは全体の長さの2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。長さ1.4mm，幅1.0mm程度。

(5) イネ　*Oryza sativa* L.　炭化種子（玄米）　イネ科

上面観は両凸レンズ形，側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり，両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.3mm，幅2.9mm程度。

(6) アワ　*Setaria italica* P.Beauv.　炭化種子　イネ科

上面観は楕円形，側面観は円形に近い。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは全長の2/3程度。長さ1.2mm，幅1.3mm程度。

(7) コムギ（パンコムギ）　*Triticum aestivum* L.　炭化種子　イネ科

上面観・側面観共に楕円形。腹面中央部には，上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には，扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く，幅に対して厚みがあるため，全体的に丸っこい傾向がある。断面形状は腹面側が窄み，背面側が円形となる（Jacomet, 2006）。またコムギの場合，側面観で最も背の高い部分（幅の広い部分）が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが，一般的に日本産コムギと呼称しているものはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。長さ3.2mm，幅2.2mm，厚さ2.3mm。破片でコムギかオオムギかの識別ができなかった一群はオオムギ-コムギとした。

(8) イネ科　Gramineae sp.　炭化種子

上面観は楕円形，側面観は倒卵形で，下端部には狭三角形の胚がある。表面は円滑で光沢がある。長さ1.0mm，幅0.8mm。

(9) 不明A　Unknown A　炭化種実

上面観は扁平，側面観は長楕円形だが全体的に反っている。表面は平滑。ムラサキシキブ属に似るが表面構造等が不明であった。長さ2.2mm，幅1.2mm。

(10) 不明B　Unknown B　炭化種実

上面観は楕円形，側面観は長卵形で，先端が曲がる。表面は平滑。キク科に似るが，外果皮は失われており，同定できなかった。長さ2.0mm，幅1.1mm。

(11) 不明C　Unknown C　炭化種実

上面観はいびつな三角形，側面観は角のある長楕円形。表面は平滑で，縦方向の稜がある。長さ1.9mm，幅1.5mm。シソ科のメハジキ属に似る。

(12) 不明D　Unknown D　炭化種実

上面観は楕円形，側面観は長倒卵形。表面は平滑か。状態が悪い。長さ2.1mm，幅1.2mm。

4．考　察

竪穴建物跡から得られた炭化種実を同定した結果，栽培植物を中心とした種実が得られた。以下，時期ごとに考察する。

古墳時代前期では，2棟中1棟の炉から水田作物のイネと畑作作物のオオムギ-コムギ，栽培種と野生種

の両方の可能性を含むマメ科Aとイヌビエ属が得られた。マメ科Aは形状からダイズ属の可能性がある。イヌビエ属は形状から野生のイヌビエに近く，イネなどに随伴して持ち込まれた可能性がある。

7世紀後半代では，4棟中4棟から炭化種実が得られ，共通して水田作物のイネが得られた。SI7からは畑作作物であるアワとコムギ，オオムギ-コムギが得られた。また栽培種と野生種の双方の可能性を含むアズキ型とダイズ属に似るマメ科Aが得られた。アカザ属は種によっては利用するが，路傍や道端に生育する草本植物である。ホタルイ属は抽水植物のため，建物内の水溜内に生育していたか，イネに伴って持ち込まれたなどの可能性が考えられる。SI7のNo.35土器内からはアワが1点得られたが，土器との関係は不明であった。土器内面に付着した炭化物が残存していれば，炭素窒素同位体比分析を行うことにより，アワを含むC4植物を煮炊きしたかどうか，検討することができよう。SI33のカマドの焼土からは利用しない部位であるモモ核が得られた。果肉を利用後，残滓をカマド内に入れて燃やしたことなどが考えられる。

7世紀後半か？とされるSI28からは水田作物のイネが得られた。

8世紀前半代のSI13からは水田作物であるイネと畑作作物であるアワ，栽培種と野生種の双方の可能性を含むマメ科Aとイヌビエ属が得られた。マメ科Aは上述したようにダイズ属に近い。イヌビエ属は野生のイヌビエなどに近い形状であったため，イネなどの作物に随伴して持ち込まれた可能性がある。

8世紀後半代のSI15からは同定可能な種実は得られなかった。

9世紀後半代のSI18からは不明Aが得られた。

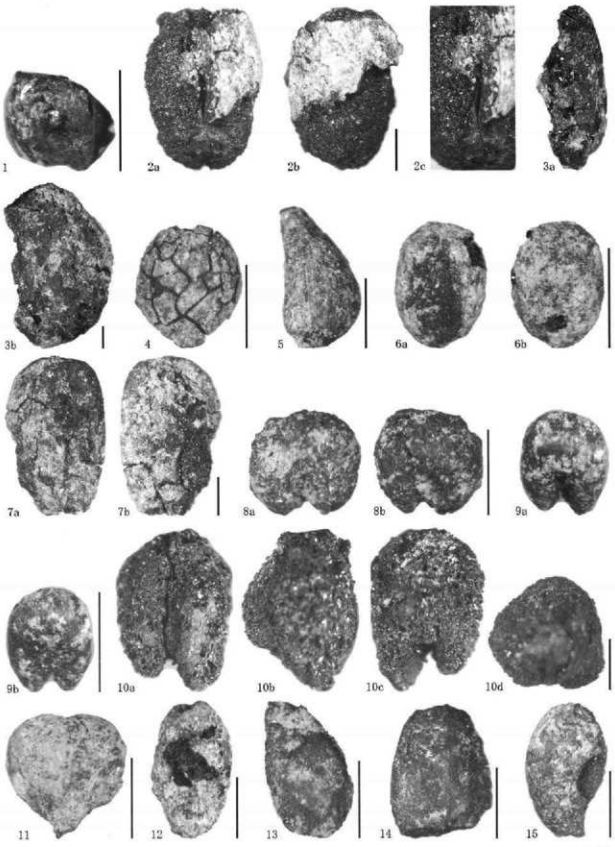
試料はカマドを中心とした種実が利用された場の土壌であるため，アズキ型やマメ科Aは栽培種でなかったとしても，当時の人々が利用した可能性が高い。利用されたと推定される種実として，古墳時代前期ではイネとオオムギ-コムギ，マメ科A，7世紀後半代（？を含む）ではモモとイネ，アワ，コムギ，オオムギ-コムギ，アズキ型，マメ科A，8世紀前半代ではイネとアワ，マメ科Aがあげられる。各時期に稲作と畑作に加えてマメ類が栽培または利用され，7世紀後半代にはそれらに加えてモモが栽培されていたことが明らかとなった。

引用文献

Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab. (2006) Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition. IPAS, Basel Univ.

小畑弘己（2008）マメ科種子同定法．小畑弘己編「東東先史古代の穀物3」225-252，熊本大学．

小畑弘己・佐々木由香・伽波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培．植生史研究15（2），97-114．



スケール 1-15:1mm .2c は任意

図版1　金地蔵遺跡から出土した炭化種実

1. アカザ属炭化種子(№3)，2. ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子(№2)，3. マメ科 A 炭化種子(№19)，
4. シソ属炭化果実(№18)，5. メナモミ属炭化果実(№16)，6. イヌビエ属炭化種子(№18)，7. イネ炭化種子(玄米:№17)，
8. アワ炭化種子(№2)，9. イネ科炭化種子(№4)，10. コムギ炭化種子(№2)，11. ホタルイ属炭化果実(№12)，
12. 不明 A 炭化種実(№1)，13. 不明 B 炭化種実(№2)，14. 不明 C 炭化種実(№2)，15. 不明 D 炭化種実(№14)

付編３　笛吹市金地蔵遺跡より出土したウマ遺体

植　月　　学（山梨県立博物館）

SD６（溝状遺構）より出土したウマ遺体について報告する。資料はSD６上層の平安時代から中世段階に形成された道路構築の際の整地層的な層位から出土している。

検出されたのは上顎歯と骨の一部のみである。上顎歯は臼歯のみが残存しており，ほぼ一体分の左右が揃っている。筆者が受け取った段階では一部土に埋没し出土状態を留めていた（図版１）。一部臼歯は脇に落込んでいたものの，その配列はおおむね解剖学的な位置を保っており，頭頂を上にした状態で，ほぼ水平に埋没していたと推測される。歯に重複はなく，一体分である。左P2，P3を除くすべての臼歯が揃っている。

頭蓋の骨質部分はそれらしき小片１点を除き出土していない。この１点も表面の腐食が進み，遺存状況は不良である。臼歯の配列をよく留める事から，歯のみが埋められたのではなく，頭蓋骨が埋納（廃棄）されたが，骨質部は消失してしまったと推定される。また，上顎切歯も出土していないが，臼歯よりも小形であるため，消失してしまったのか，元々存在しなかったのかは明らかでない。上顎臼歯がほぼすべて残存していたにも関わらず，下顎臼歯はまったくみられなかったことから，下顎骨については元来存在しなかったと考えられる。

出土した歯の計測値を表に示した。完存標本については西中川・松元（1991）の推定式により年齢推定をおこなった。その結果，9.1～13.5歳とばらつきがあったが，その平均は11.4歳であった。

本遺体の出土については頭蓋のみ，かつ遺跡状遺構の整地層という特異な出土状況から，意図的な埋納も想定される。本遺跡例のみからは意図的とは断定できないが，多摩市落川・一の宮遺跡でも，中世～近世の道路跡の砂利層中から多数の馬歯が出土しており，意図的な埋納の可能性が指摘されている（金子 1999）。したがって，中世，あるいはその前後の時期に道路を構築するに際して何らかの意図をもって馬頭を埋納することが甲斐国や武蔵国においておこなわれていた可能性がある。この点については類例や関連史料の探索を通じて今後明らかにしていきたい。

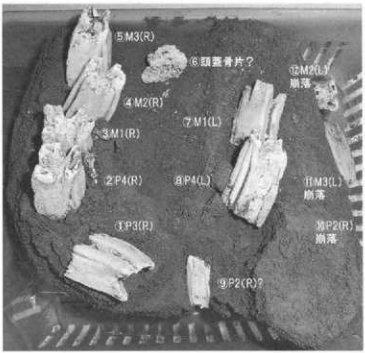
引用文献

金子浩昌　1999「動物遺体」『落川・一の宮遺跡Ⅳ』落川・一の宮遺跡（日野３・２・７号線）調査会　pp.305-346
西中川駿・松元光春　1991「遺跡出土骨同定のための基礎的研究」『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛，馬の渡来時期とその経路に関する研究』pp.164-188

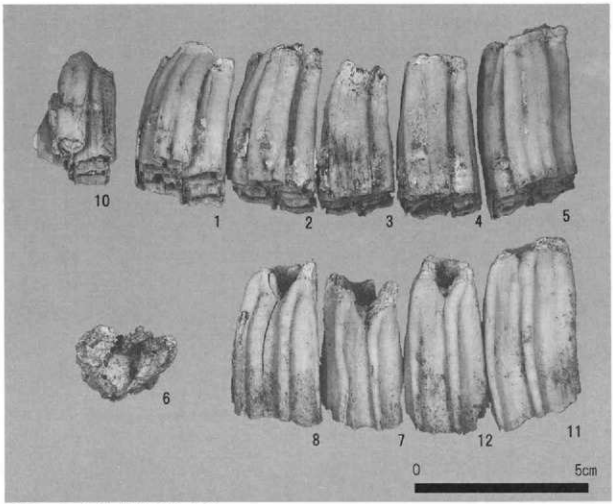
表１　同定結果

No.	部位	左右	残存状況	長さ	幅	高さ	推定月齢	年齢換算
1	上顎P3	右	完存	2617	2413	27±	162.3	13.5
2	上顎P4	右	完存	2559	2515	34	143.6	12.0
3	上顎M1	右	完存	2235	2404+	28.5	147.5	12.3
4	上顎M2	右	完存	2364	2319	34	138.0	11.5
5	上顎M3	右	完存	2615	2264	40.5±	110.8	9.2
6	頭蓋骨？	？	破片	－	－	－	－	－
7	上顎M1	左	完存	2215	2389+	30	141.1	11.8
8	上顎P4	左	完存	2544	2483	33	148.0	12.3
9	上顎P2?	右	破片(頬側歯根)	－	－	－	－	－
10	上顎P2	右	破片(舌側咬合面)	－	－	－	－	－
11	上顎M3	左	完存	2669	－	41	109.1	9.1
12	上顎M2	左	完存	2364	2472	36	131.0	10.9

※高さは歯根中心部から咬合面中心部までの値



図版1　出土状況（番号は表に同じ）



図版2　ウマ遺体（番号は表に同じ）

右上顎臼歯［10:P2、1:P3、2:P4、3:M1、4:M2、5:M3］舌側面。頭蓋骨？［6］
左上顎臼歯［8:P4、7:M1、12:M2、11:M3］頬側面。

1．遺跡景観写真（南から）

2．遺跡景観写真（北東から）

図版２

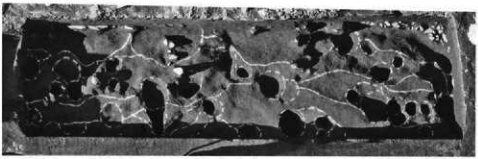
3．第３～７トレンチ空中写真（上が西）

4．第１・２トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

5．第３トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

6．第４トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

7．第５トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）



8．第６トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

9．第７トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

10．第８トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

11．第９トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

12．第10トレンチ完掘空中モザイク写真（上が西）

13. 第 1 トレンチ調査前状況

14. 第 1 トレンチ調査前状況近景

15. 第 1 トレンチ重機による表土除去作業風景

16. 第 1 トレ完掘全景（南から）

17. 第 1 トレ完掘全景（北から）

18. 第 2･3 トレンチ調査前状況近景（南から）

21. 第 4 トレンチ付近調査前状況（北東から）

19. 第 2 トレンチ完掘全景（北から）

20. 第 3 トレンチ完掘全景（南東から）

22. 第 4 トレンチ完掘全景（北から）

23. 第 5 トレンチ調査前状況（北から）

24. 第 5 トレンチ完掘（北から）全景

25. 第 6・7 トレンチ付近調査前状況
（南西から）

図版4

26. 第6トレンチ完掘全景（北から）

27. 第7トレンチ調査前状況（北から）

28. 第7トレンチ掘削風景

29. 第7トレ完掘全景（南東から）

30. 第8トレンチ付近調査前状況（南から）

31. 第8トレンチ遺構確認状況（南から）

32. 第9トレンチ付近調査前状況（南西から）

33. 第9トレンチ完掘状況（南西から）

34. 第10トレンチ付近調査前状況（南西から）

35. 第10トレンチ完掘全景（南から）

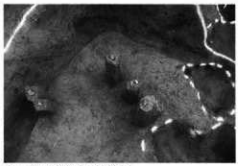
36. SI1 完掘状況（南から）

37. SI1 硬化面残骸確認状況（南から）

38. SI2・SK6・11 完掘状況（南東から）

39. SI2・SK6 遺物出土状況（東から）

40. SI3遺物出土状況および完掘状況（北西から）


41. SI3遺物出土状況1

42. SI3遺物出土状況2

43. SI4完掘状況（北東から）

44. SI4カマド完掘状況

45. SI4・5遺物・SI12完掘状況（南から）

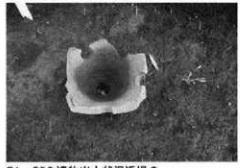
46. SI4刀子出土状況

47. SI5完掘状況（南西から）

48. SI5遺物出土状況（南西から）

49. SI6完掘状況（北西から）

50. SI6遺物出土状況近撮1


51. SI6遺物出土状況近撮2

52. SI6ピット1遺物出土状況

53. SI6ピット1遺物出土状況近撮

54. SI7完掘状況（北東から）

図版6

55. SI7 遺物出土状況（北から）

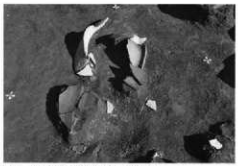
56. SI7 遺物出土状況近撮 1

57. SI7 遺物出土状況近撮 2

58. SI7 遺物出土状況近撮 3

59. SI7 床面遺物出土状況 1

60. SI7 ピット 1 遺物出土状況 1

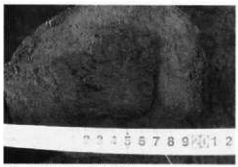


60. SI7 床面遺物出土状況 2

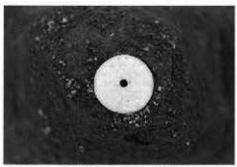
61. SI7 ピット 1 遺物出土状況近撮

62. SI7 刀子および炭化材出土状況

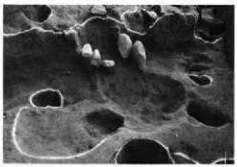
63. SI7 角釘出土状況



64. SI7 炭化材出土状況



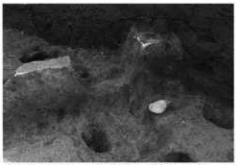
65. SI7 金銅製品（馬具）出土状況

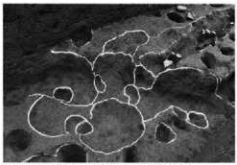


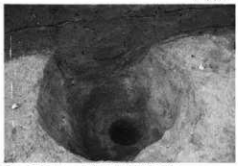
66. SI7 新カマド完掘状況

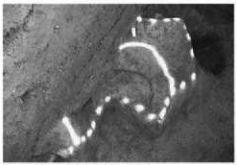
67. SI7 新カマド南北セクション

68. SI7 新カマド内遺物出土状況


69. SI7 旧カマド完掘状況（南西から）


70. SI7 新カマド掘りかた完掘状況


71. SI7 ピット掘りかた完掘状況


72. SI8 完掘状況（北から）

73. SI8 炉完掘状況（西から）

74. SI8 炉セクション

75. SI9・10 完掘状況（南東から）

76. SI11 完掘状況（南から）

77. SI12・SK12 完掘および遺物出土状況（西から）

78. SI12 遺物出土状況 1

79. SI12 遺物出土状況 2

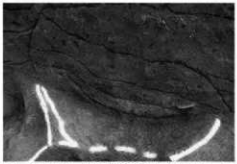
80. SI12 遺物出土状況 3

81. SI13・19 完掘状況（南西から）

82. SI13・19 遺物出土状況（北東から）

83. SI13 内遺物出土状況

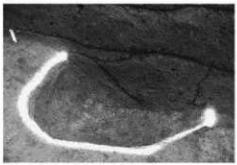
図版 8



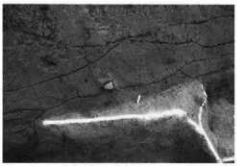
84. SI13 カマド完掘状況およびセクション（西から）

85. SI13 カマド周辺遺物出土状況

86. SI13 礎石状礫検出状況



87. SI19 内ピットセクション



88. SI14 完掘状況（硬化面のみ：北西から）

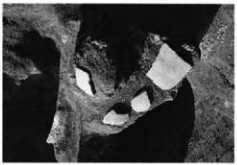
89. SI15・16 完掘状況（北東から）1

90. SI15・16 完掘状況（南から）2

91. SI15・16 遺物出土状況（西から）

92. SI15 遺物出土状況近撮 1

93. SI15 遺物出土状況近撮 2



94. SI15 遺物出土状況近撮 3

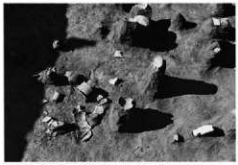
95. SI16 遺物出土状況 1

96. SI16 遺物出土状況 2

97. SI16 遺物出土状況 3

98. SI17・20・21 完掘状況（西から）

99. SI17 カマド完掘状況


100. SI17 遺物出土状況近景 1

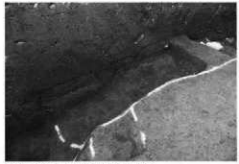
101. SI17 遺物出土状況近景 2

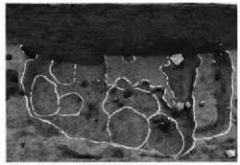
102. SI17 遺物出土状況近景 3

103. SI17 鉄製品出土状況

104. SI17 カマド内遺物出土状況

105. SI118 遺物出土状況および
南北セクション


106. SI18 完掘状況および
南北東面セクション（南から）


107. SI22・23 完掘状況（西から）

108. SI22・23 遺物出土状況（西から）

109. SI22 内遺物出土状況近景（東から）

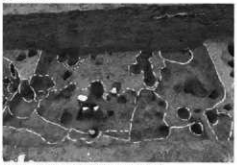
110. SI22 内出土鉄製鋤先出土状況

111. SI22 貼床内出土土製紡錘車出土状況

112. SI23 内遺物出土状況 1

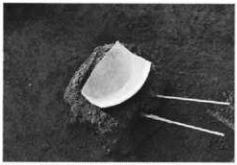
113. SI23 内遺物出土状況 2

図版 10


114. SI24 完掘状況（西から）

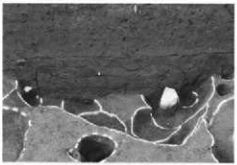
115. SI24 遺物出土状況（西から）

116. SI24 遺物出土状況近景 1


117. SI24 内遺物出土状況近景 2

118. SI24 内遺物出土状況近景 3

119. SI24 内遺物出土状況近景 4


120. SI25 完掘完掘状況（東から）

121. SI25 カマドおよびピット 1 完掘状況（南から）

122. SI25 カマドおよびピット 1 完掘状況（東から）

123. SI25 遺物出土状況（東から）

124. SI25 遺物出土状況 1

125. SI25 遺物出土状況 2

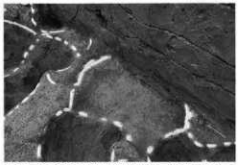
126. SI25 遺物出土状況 3

127. SI26 完掘状況（南西から）

128. SI26 遺物出土状況（西から）

129. SI26 遺物出土状況近景 1

130. SI26 遺物出土状況近景 2


131. SI26 焼土範囲確認状況（南西から）

132. SI26 カマド完掘状況（南西から）

133. SI27 完掘状況（南西から）

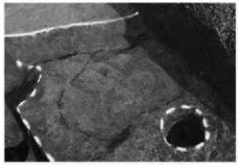
134. SI27 遺物出土状況近景 1

135. SI27 遺物出土状況近景 2

136. SI27 柱穴セクション

137. SI28 完掘状況（北西から）

138. SI28 カマド完掘状況（南西から）


139. SI28 カマド焼土範囲確認状況（南西から）

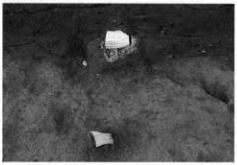
140. SI28 カマド掘りかたセクション（南西から）

141. SI28 遺物出土状況 1

142. SI28 遺物出土状況 2

143. SI29・30完掘および遺物出土状況（南から）

図版 12



144. SI29 遺物出土状況 1

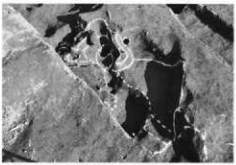
145. SI29 遺物出土状況 2

146. SI29 遺物出土状況 3

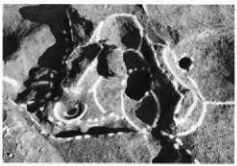
147. SI29 ピット 3 完掘状況

148. SI31・32 完掘状況（南東から）

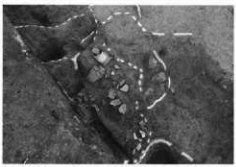
149. SI31・32、SD4 南北セクション



150. SI33 完掘状況（南西から）

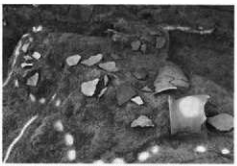


151. SI33 カマド完掘状況



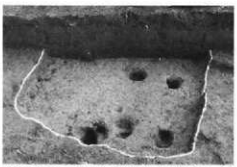
152. SI33 カマド上面遺物出土状況および焼土・袖範囲確認状況

153. SI33 南北セクション



154. SI33 カマド上面遺物出土状況

155. SI33 カマド掘りかた完掘状況



156. SI34 完掘および遺物出土状況（西から）

157. SI34 南北セクション

158. SI34 遺物出土状況

159. SI34 遺物出土状況

160. SI35 完掘および遺物出土状況（南から）

161. SI35 遺物出土状況

162. SI36 完掘および硬化面残存状況（南西から）

163. SI36 完掘および硬化面残存状況（北西から）

164. SI36 南北セクション

165. SI37 完掘状況（西から）

166. SI37 炉完掘状況（北東から）

167. SI37 炉焼土範囲確認状況（南から）

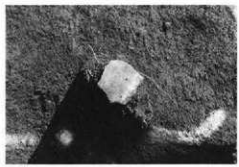
168. SI37 炉内遺物出土状況 1

169. SI37 炉内遺物出土状況 2

170. SI38 完掘状況（北西から）

171. SI38 遺物出土状況 1

172. SI38 遺物出土状況 2

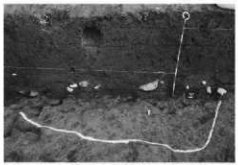

173. SI38 遺物出土状況 3

図版 14

174. SI39 完掘および遺物出土状況（西から）

175. SI39 遺物出土状況

176. SI40 完掘状況（北西から）

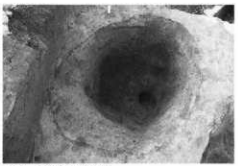

177. SI41 完掘および遺物出土状況（西から）

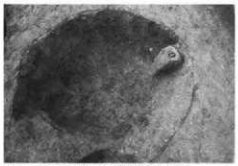
178. SI41 遺物出土状況

179. SI42 完掘および遺物出土状況
（南西から）

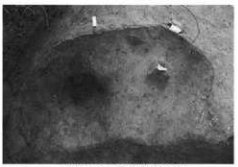
180. SI42 遺物出土状況

181. SK1 完掘状況

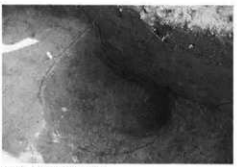

182. SK2 完掘状況


183. SK3 完掘および遺物出土状況

184. SK3 遺物出土状況


185. SK4 完掘および遺物出土状況

186. SK4 遺物出土状況


187. SK5 完掘状況

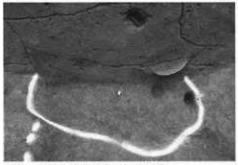
188. SK6・11 完掘状況

189. SK6 遺物出土状況

190. SK7 完掘状況

191. SK8 完掘状況

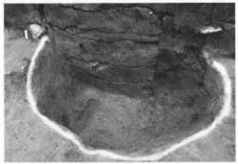
192. SK12 完掘状況（西から）


193. SK13 完掘状況（西から）

194. SK13 遺物出土状況 1

195. SK13 遺物出土状況 2

196. SK13 遺物出土状況 3


197. SK14 完掘およびセクション

198. SK15 完掘およびセクション

199. SK16・17・18 完掘状況（北東から）

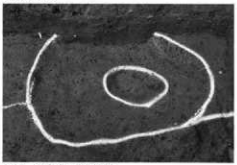
200. SK19（左）・20 完掘状況（南から）

201. SK22 完掘および遺物出土状況・セクション

202. SK22 遺物出土状況

203. SK23・24 完掘状況（西から）

図版 16



204. SK23 完掘状況

205. SK23 セクション

206. SK23 遺物出土状況 1

207. SK23 遺物出土状況 2

208. SK24 完掘状況

209. SD1（3トレ内）完掘および遺物出土状況（南東から）

210. SD1（3トレ内）完掘状況（北東から）

211. SD1（3トレ内北端）遺物出土状況

212. SD1（4トレ内）北側完掘状況（南東から）

213. SD1（4トレ内）遺物出土状況

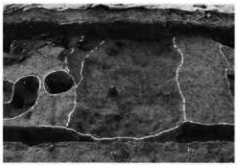
214. SD1（6トレ内）東西セクション

215. SD1（6トレ内）馬歯出土状況

216. SD2・3・4 完掘状況（南から）

217. SD2（右）・3 東西セクション

218. SD3・4 北側完掘状況（南東から）

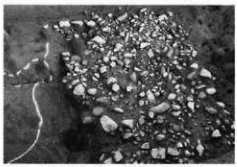

219. SD5 完掘および遺物出土状況（東から）

220. SD5 遺物出土状況

221. SD6 完掘状況（南西から）

222. SD6 上層硬化面検出状況（西から）

223. SD6 砂礫層および遺物出土状況 1


224. SD6 砂礫層および遺物出土状況 2

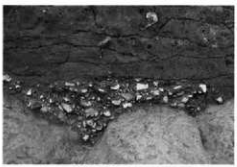
225. SD6 遺物出土状況 1

226. SD6 遺物出土状況 2

227. SD6 遺物出土状況 3

228. SD6 遺物出土状況 4

229. SD6 西壁セクション


230. SD6 西壁中央部分セクション

231. SD6 西壁南側セクション

232. SD6 西壁北側セクション

233. SD6 馬歯出土状況

図版 18

234. SD6 内 SK21 遺物出土状況

235. SD7（9トレ内）新旧完掘状況（北から）

236. SD7（9トレ内）新旧完掘状況近景および遺物出土状況

237. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況 1

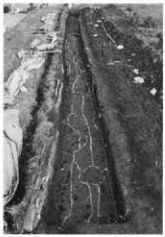
238. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況 2

239. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況 3

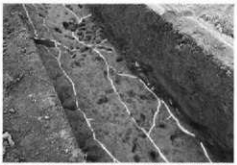
240. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況 4

241. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況 5

242. SD7（9トレ内）新旧遺物出土状況 6


243. SD7・8（10トレ内）礫除去後完掘全景（南から）

244. SD7・8（10トレ内）礫除去後完掘全景（北から）


245. SD7・8（10トレ内）礫除去後完掘近景

246. SD7・8（10トレ内）礫出土状況近景 1

247. SD7・8（10トレ内）礫出土状況近景 2

248. SD7・8（10トレ内）礫出土状況近景 3

249. SD7・8(10トレ内)・SK23礫出土状況4

250. 第9トレンチ内水路付近遺構外内出土五輪塔

251. SX1（硬化面：7トレ内）検出状況（西から）

252. 調査風景（第1トレンチ内）

253. 調査風景（第2トレンチ内）

254. 調査風景（第3トレンチ内）

255. 調査風景（第4トレンチ内）

256. 調査風景（SI7 内）

257. 調査風景（SI7 新カマド）

258. 調査風景（SI22 内）

259. 調査風景（SD6 内馬歯検出作業）

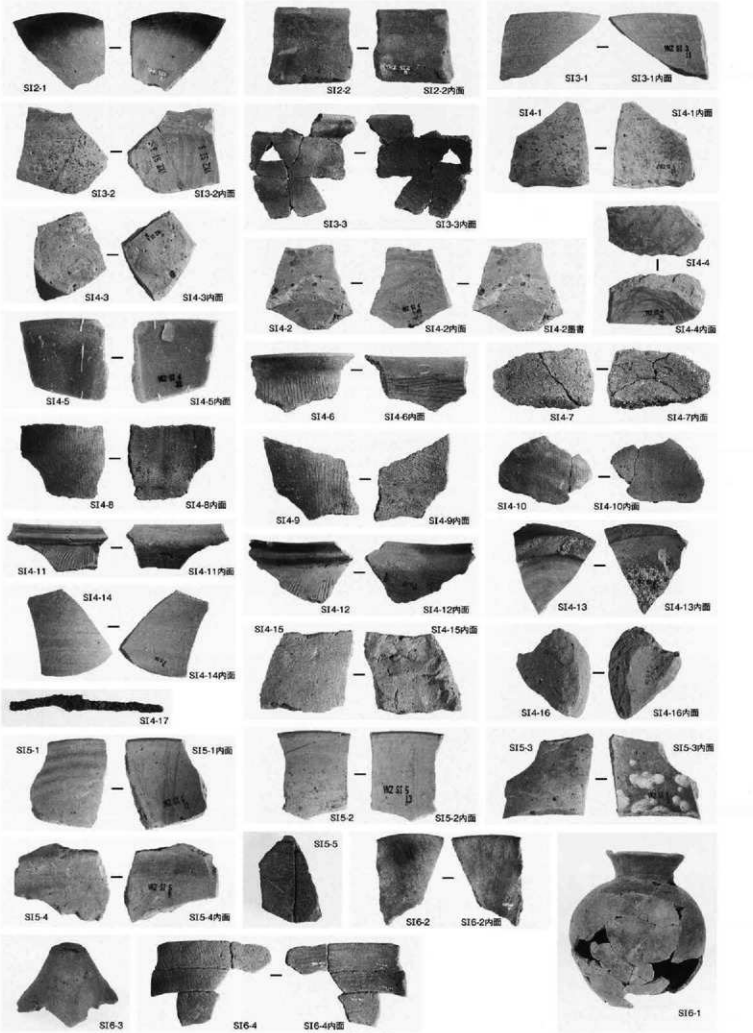
260. グリッド杭打設作業風景

261. ポールによる写真測量実施状況1

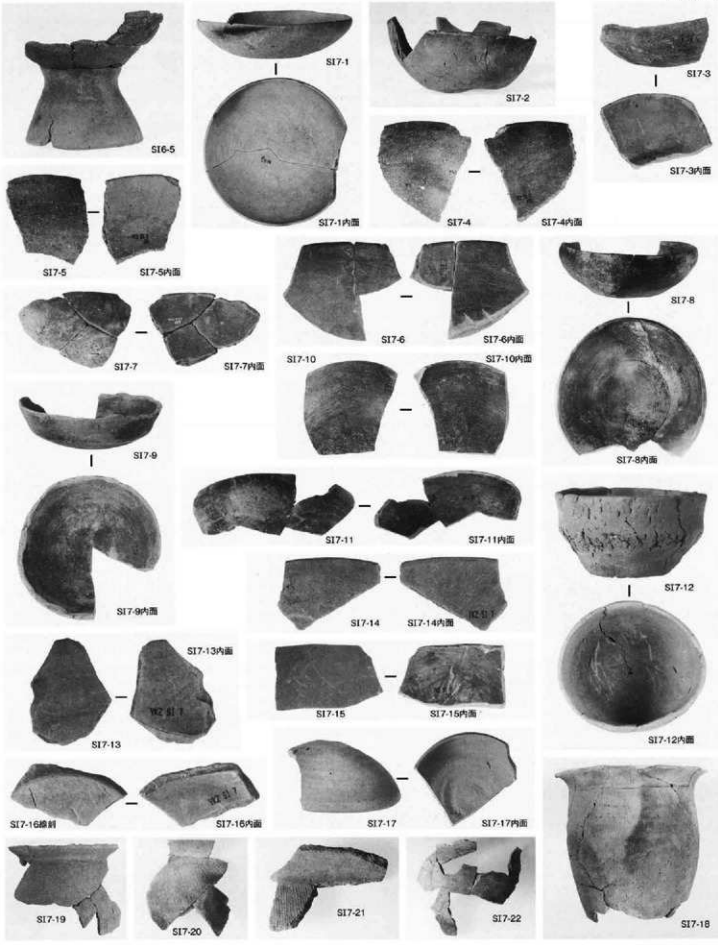
262. ポールによる写真測量実施状況2

263. ラジヘリによる遺跡景観写真撮影実施風景

図版 20

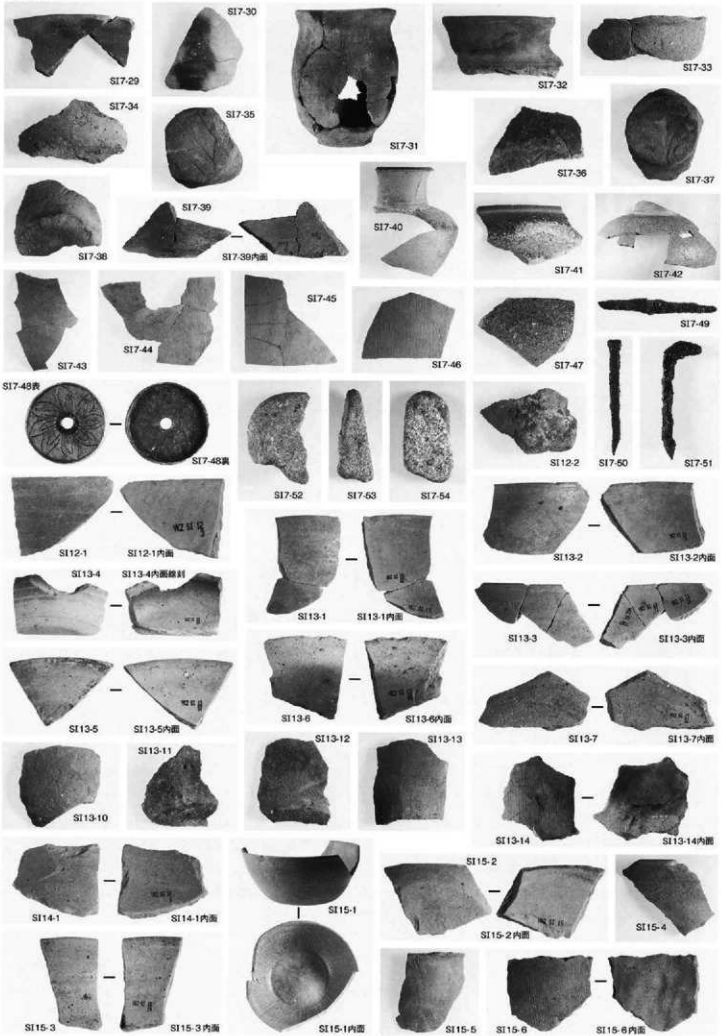

SI2-1
SI2-2
SI2-2内面
SI3-1
SI3-1内面
SI3-2
SI3-2内面
SI3-3
SI3-3内面
SI4-1
SI4-1内面
SI4-3
SI4-3内面
SI4-2
SI4-2内面
SI4-2墨書
SI4-4
SI4-4内面
SI4-5
SI4-5内面
SI4-6
SI4-6内面
SI4-7
SI4-7内面
SI4-8
SI4-8内面
SI4-9
SI4-9内面
SI4-10
SI4-10内面
SI4-11
SI4-11内面
SI4-12
SI4-12内面
SI4-13
SI4-13内面
SI4-14
SI4-14内面
SI4-15
SI4-15内面
SI4-16
SI4-16内面
SI4-17
SI5-1
SI5-1内面
SI5-2
SI5-2内面
SI5-3
SI5-3内面
SI5-4
SI5-4内面
SI5-5
SI6-2
SI6-2内面
SI6-1
SI6-3
SI6-4
SI6-4内面

出土遺物（1）

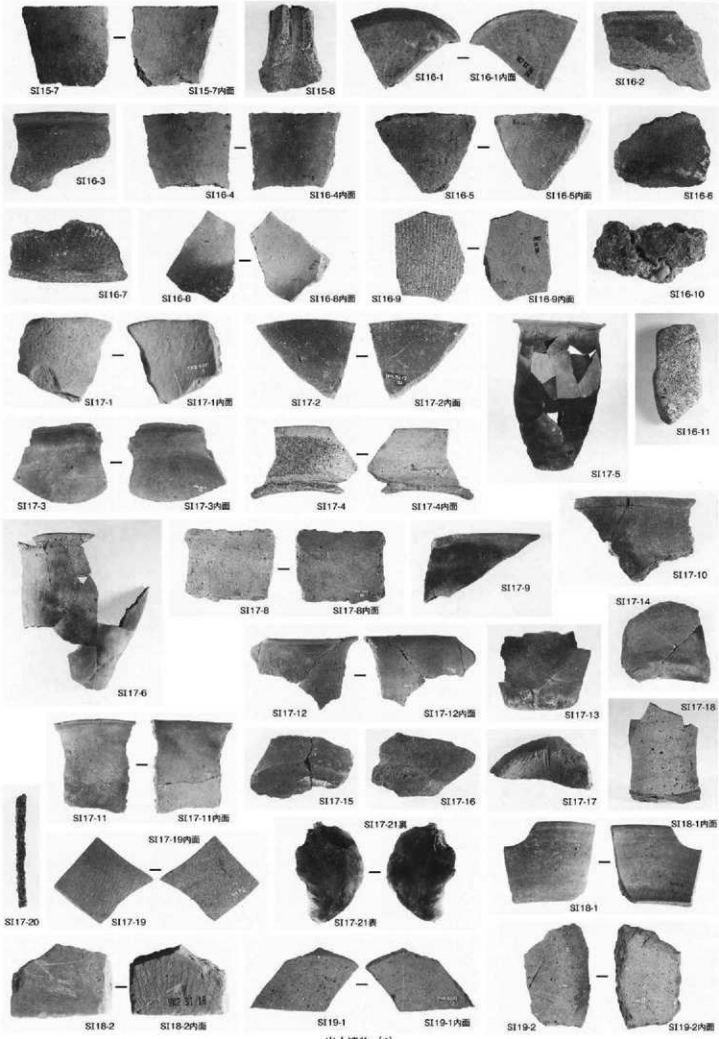

SI6-5
SI7-1
SI7-1内面
SI7-2
SI7-3
SI7-3内面
SI7-4
SI7-4内面
SI7-5
SI7-5内面
SI7-6
SI7-6内面
SI7-7
SI7-7内面
SI7-8
SI7-8内面
SI7-9
SI7-9内面
SI7-10
SI7-10内面
SI7-11
SI7-11内面
SI7-12
SI7-12内面
SI7-13
SI7-13内面
SI7-14
SI7-14内面
SI7-15
SI7-15内面
SI7-16
SI7-16縁斜
SI7-16内面
SI7-17
SI7-17内面
SI7-18
SI7-19
SI7-20
SI7-21
SI7-22
SI7-23
SI7-24
SI7-25
SI7-26
SI7-27
SI7-28

出土遺物（2）

図版 22

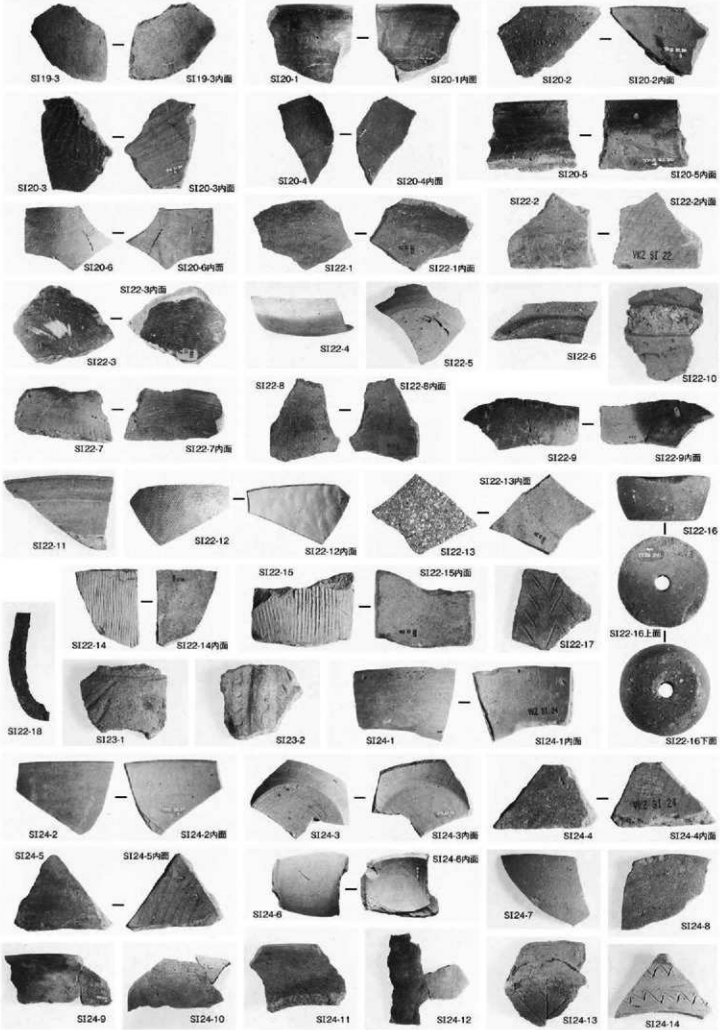

SI7-29
SI7-30
SI7-31
SI7-32
SI7-33
SI7-34
SI7-35
SI7-36
SI7-37
SI7-38
SI7-39
SI7-39内面
SI7-40
SI7-41
SI7-42
SI7-43
SI7-44
SI7-45
SI7-46
SI7-47
SI7-49
SI7-48表
SI7-48裏
SI7-50
SI7-51
SI7-52
SI7-53
SI7-54
SI12-2
SI12-1
SI12-1内面
SI13-2
SI13-2内面
SI13-4
SI13-4内面線刻
SI13-1
SI13-1内面
SI13-3
SI13-3内面
SI13-5
SI13-5内面
SI13-6
SI13-6内面
SI13-7
SI13-7内面
SI13-10
SI13-11
SI13-12
SI13-13
SI13-14
SI13-14内面
SI14-1
SI14-1内面
SI15-1
SI15-2
SI15-2内面
SI15-4
SI15-3
SI15-3内面
SI15-1内面
SI15-5
SI15-6
SI15-6内面

出土遺物（3）

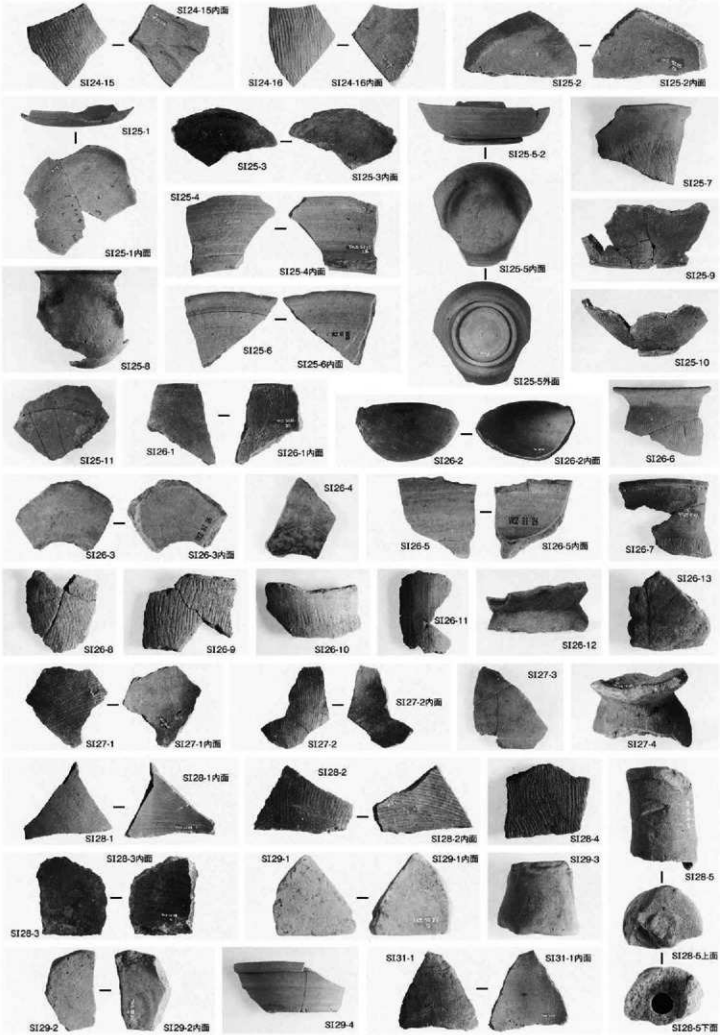

SI15-7
SI15-7内面
SI15-8
SI16-1
SI16-1内面
SI16-2
SI16-3
SI16-4
SI16-4内面
SI16-5
SI16-5内面
SI16-6
SI16-7
SI16-8
SI16-8内面
SI16-9
SI16-9内面
SI16-10
SI17-1
SI17-1内面
SI17-2
SI17-2内面
SI17-5
SI16-11
SI17-3
SI17-3内面
SI17-4
SI17-4内面
SI17-10
SI17-14
SI17-8
SI17-8内面
SI17-9
SI17-6
SI17-12
SI17-12内面
SI17-13
SI17-18
SI17-11
SI17-11内面
SI17-15
SI17-16
SI17-17
SI18-1内面
SI17-19内面
SI17-21裏
SI17-20
SI17-19
SI17-21表
SI18-1
SI18-2
SI18-2内面
SI19-1
SI19-1内面
SI19-2
SI19-2内面

出土遺物 (4)

図版 24

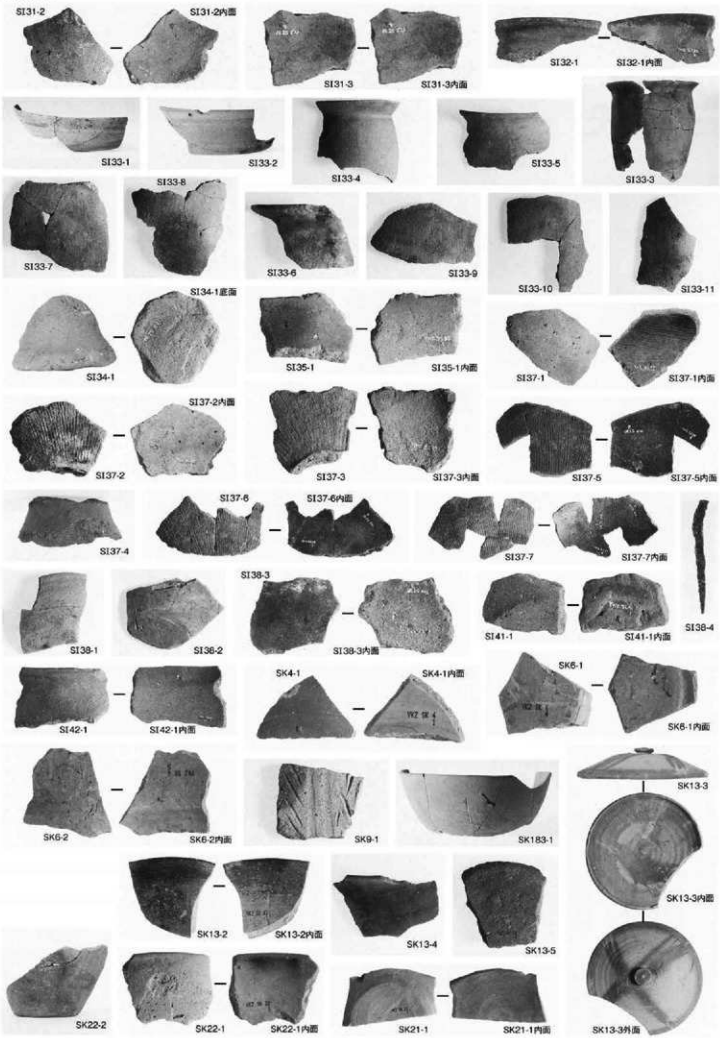

SI19-3
SI19-3内面
SI20-1
SI20-1内面
SI20-2
SI20-2内面
SI20-3
SI20-3内面
SI20-4
SI20-4内面
SI20-5
SI20-5内面
SI20-6
SI20-6内面
SI22-1
SI22-1内面
SI22-2
SI22-2内面
SI22-3内面
SI22-3
SI22-4
SI22-5
SI22-6
SI22-10
SI22-7
SI22-7内面
SI22-8
SI22-8内面
SI22-9
SI22-9内面
SI22-11
SI22-12
SI22-12内面
SI22-13
SI22-13内面
SI22-16
SI22-14
SI22-14内面
SI22-15
SI22-15内面
SI22-17
SI22-16上面
SI22-18
SI23-1
SI23-2
SI24-1
SI24-1内面
SI22-16下面
SI24-2
SI24-2内面
SI24-3
SI24-3内面
SI24-4
SI24-4内面
SI24-5
SI24-5内面
SI24-6
SI24-6内面
SI24-7
SI24-8
SI24-9
SI24-10
SI24-11
SI24-12
SI24-13
SI24-14

出土遺物（5）

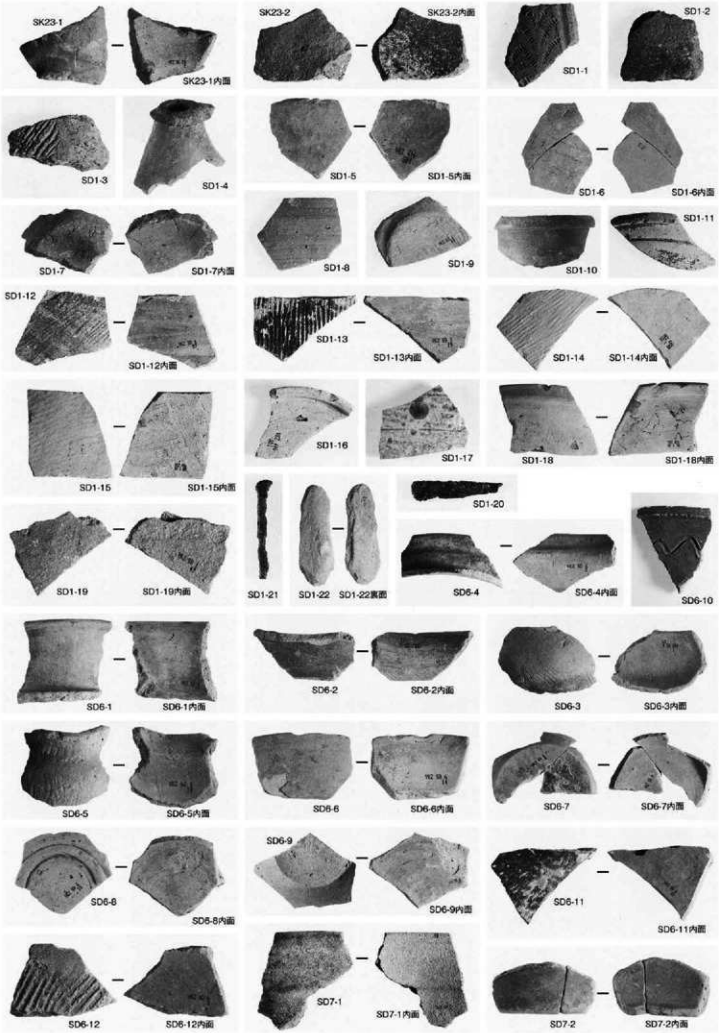

SI24-15内面
SI24-15
SI24-16
SI24-16内面
SI25-2
SI25-2内面
SI25-1
SI25-1内面
SI25-3
SI25-3内面
SI25-5-2
SI25-7
SI25-4
SI25-4内面
SI25-5内面
SI25-9
SI25-8
SI25-6
SI25-6内面
SI25-5外面
SI25-10
SI25-11
SI26-1
SI26-1内面
SI26-2
SI26-2内面
SI26-6
SI26-3
SI26-3内面
SI26-4
SI26-5
SI26-5内面
SI26-7
SI26-8
SI26-9
SI26-10
SI26-11
SI26-12
SI26-13
SI27-1
SI27-1内面
SI27-2
SI27-2内面
SI27-3
SI27-4
SI28-1
SI28-1内面
SI28-2
SI28-2内面
SI28-4
SI28-5
SI28-3
SI28-3内面
SI29-1
SI29-1内面
SI29-3
SI28-5上面
SI28-5下面
SI29-2
SI29-2内面
SI29-4
SI31-1
SI31-1内面

出土遺物（6）

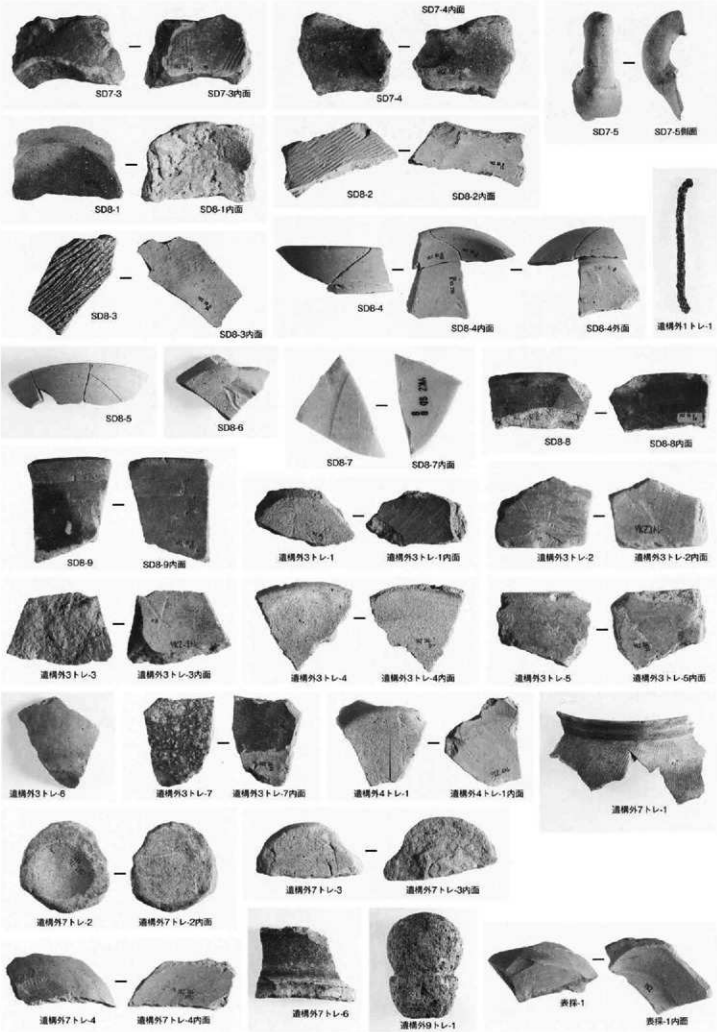
図版 26


SI31-2
SI31-2内面
SI31-3
SI31-3内面
SI32-1
SI32-1内面
SI33-1
SI33-2
SI33-4
SI33-5
SI33-3
SI33-7
SI33-8
SI33-6
SI33-9
SI33-10
SI33-11
SI34-1
SI34-1底面
SI35-1
SI35-1内面
SI37-1
SI37-1内面
SI37-2
SI37-2内面
SI37-3
SI37-3内面
SI37-5
SI37-5内面
SI37-4
SI37-6
SI37-6内面
SI37-7
SI37-7内面
SI38-4
SI38-1
SI38-2
SI38-3
SI38-3内面
SI41-1
SI41-1内面
SI42-1
SI42-1内面
SK4-1
SK4-1内面
SK6-1
SK6-1内面
SK6-2
SK6-2内面
SK9-1
SK183-1
SK13-3
SK13-3内面
SK13-2
SK13-2内面
SK13-4
SK13-5
SK22-2
SK22-1
SK22-1内面
SK21-1
SK21-1内面
SK13-3外面

出土遺物（7）


SK23-1
SK23-1内面
SK23-2
SK23-2内面
SD1-1
SD1-2
SD1-3
SD1-4
SD1-5
SD1-5内面
SD1-6
SD1-6内面
SD1-7
SD1-7内面
SD1-8
SD1-9
SD1-10
SD1-11
SD1-12
SD1-12内面
SD1-13
SD1-13内面
SD1-14
SD1-14内面
SD1-15
SD1-15内面
SD1-16
SD1-17
SD1-18
SD1-18内面
SD1-19
SD1-19内面
SD1-21
SD1-22
SD1-22裏面
SD1-20
SD6-4
SD6-4内面
SD6-10
SD6-1
SD6-1内面
SD6-2
SD6-2内面
SD6-3
SD6-3内面
SD6-5
SD6-5内面
SD6-6
SD6-6内面
SD6-7
SD6-7内面
SD6-8
SD6-8内面
SD6-9
SD6-9内面
SD6-11
SD6-11内面
SD6-12
SD6-12内面
SD7-1
SD7-1内面
SD7-2
SD7-2内面

出土遺物（8）


SD7-3
SD7-3内面
SD7-4内面
SD7-4
SD7-5
SD7-5側面
SD8-1
SD8-1内面
SD8-2
SD8-2内面
SD8-3
SD8-3内面
SD8-4
SD8-4内面
SD8-4外面
遺構外1トレ-1
SD8-5
SD8-6
SD8-7
SD8-7内面
SD8-8
SD8-8内面
SD8-9
SD8-9内面
遺構外3トレ-1
遺構外3トレ-1内面
遺構外3トレ-2
遺構外3トレ-2内面
遺構外3トレ-3
遺構外3トレ-3内面
遺構外3トレ-4
遺構外3トレ-4内面
遺構外3トレ-5
遺構外3トレ-5内面
遺構外3トレ-6
遺構外3トレ-7
遺構外3トレ-7内面
遺構外4トレ-1
遺構外4トレ-1内面
遺構外7トレ-1
遺構外7トレ-2
遺構外7トレ-2内面
遺構外7トレ-3
遺構外7トレ-3内面
遺構外7トレ-4
遺構外7トレ-4内面
遺構外7トレ-6
遺構外9トレ-1
表採-1
表採-1内面

出土遺物 (9)

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんふえふきし　かねじぞういせき
書名	山梨県笛吹市　金地蔵遺跡
副書名	笛吹市八代町北地内畑地帯総合整備事業笛吹川左岸地区支線農道第２号工事に先立つ発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第20集
編著者名	平野　修
編集機関	御山梨文化財研究所
所在地	〒406-0032　山梨県笛吹市石和町四日市場1566
発行年月日	平成23(2011)年３月15日
資料の保管機関	出土遺物・記録類　山梨県笛吹市教育委員会　文化財課 〒406-0031 山梨県笛吹市石和町市部809-1 笛吹市役所南館3階 TEL055(261)3342(直通)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系			調査	
		市町村	遺跡番号	北緯	東経	期間	面積	原因
金地蔵遺跡（かねじぞう）	山梨県（やまなしけん） 笛吹市（ふえふきし） 八代町北（やつしろちょうきた） 1373番地他（ばんちほか）	19201	八代－65	35度 36分 56秒	138度 38分 53秒	2009.10.15 ～ 2009.12.14	692.5㎡	農業基盤整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金地蔵遺跡	集落跡 包蔵地	縄文時代	竪穴建物跡１棟 土坑　1基	土器 土器	曽利Ⅴ式期
		古墳時代 前期	竪穴建物跡　4棟	S字口縁甕	
		古墳時代 後期～末	竪穴建物跡　2棟	土師器(刻書土器含む)、須恵器、刀子、鋤もしくは鍬先、馬具、ムシロ編み石錘	大形竪穴建物、金銅製馬具、鐵内産土師器
		古墳時代末 ～奈良時代 初頭	竪穴建物跡　6棟 土　坑　2基	土師器(刻書土器含む)・須恵器 土師器・須恵器	
		奈良時代	竪穴建物跡　6棟 土　坑　3基		
		平安時代	竪穴建物跡　7棟 土坑　1基 溝状遺構　3条	土師器(墨書・刻書土器含む)、須恵器、刀子、馬歯 土師器(墨書土器含む)、須恵器、馬歯	道路状遺構の可能性あり
		中世・近世	溝状遺構　4条 土坑　1基	カワラケ、内耳鍋、土師質鉢、擂鉢・五輪塔 陶器、須恵質土器	
		時期不詳	竪穴建物跡　10棟 土坑　14基 溝状遺構　2条 硬化面範囲 1箇所	陶磁器片	

要約	本遺跡は、甲府盆地の南東部の御坂山地北麓、笛吹市八代町北地区に所在する。御坂山地の中央部から発して甲府盆地に至る浅川が形成する扇状地上にあり、標高は311～320mを測る。発掘調査では、縄文時代中期および古墳時代前期、古墳時代末、奈良時代、平安時代、中世以降にわたる竪穴建物跡42棟、土坑・ピット23基、溝状遺構 9 条等が検出された。特筆される出土遺物としては、7 世紀後半代の竪穴建物跡であるSI7から出土の金銅製馬具や、SI25等出土の鐵内産土師器があげられ、当該地域の律令制形成段階の地域様相を知るうえで、極めて重要な遺跡である。

笛吹市文化財調査報告書　第20集

金地蔵遺跡（２次）

―笛吹市八代町北地内畑地帯総合整備事業
笛吹川左岸地区支線農道第２号工事に先立つ発掘調査報告書―

発行日　平成23年3月15日

編　集　㈶山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　℡ 055－263－6441

発　行　山梨県峡東農務事務所・笛吹市教育委員会・㈶山梨文化財研究所

印　刷　㈱帝京サービス

Fuefuki City Archaeological Report Vol.20

The Report of Archaeological Research of KANEJIZO Site in Yatsushiro (Secondary Survey)

Archaeological Survey prior to the Construction of the Branch Farm Road No.2 on the Left Bank of the Fuefuki River

March,2011

Agricultural Department, Yamanashi Prefectural
Development Office of Kyoto Area
Fuefuki City Board of Education
Yamanashi Research Institute of Cultural Properties